九大法律學校大勢一覽

附 現行試驗規則及問題集

東京法學院幹事奥田義人先生序文
明治法律學校幹事木下哲三郎先生序文
東京專門學校幹事市島謙吉先生手翰
日本法律學校幹事斯波淳六郎先生序文
和佛法律學校々友守屋此助君批評

東京法學院々友花井卓藏君批評
明治法律學校々友齊藤孝治君批評
東京專門學校々友田中唯一郎君批評
日本法律學校々友荒川五郎君批評
東京法友會主幹三島駒治編纂

發行所 東京法友會

東京法友會

九大法律學校大勢一覽序

維新以來諸般の法律規則秩然として具備し之を他の文明諸國に比するも敢て輸する所なきの如し然るに邦人の思想は仍未た幼穉たるを免れす其法理を解する者に至ては落々晨星の如し内地雜居の期目前に迫るの今日に方て洵に憂慮に堪へさるものあり

頃者東京法友會主幹三島駒治君九大法律學校一覽を編纂し將に世に公にせんとし序を余に徵す凡そ學校の起源沿革規則より學科の課程生徒の員數其他講師卒業生の姓名に至るまて巨纖委曲して漏すなく九黌の形勢一目瞭然たり加旃現行試驗規則及各種試驗問

題を附記し以て科目に應ずる者の便に供す寔に攻法家の參照初學者の指針此を外にして需むへきものあらんや人々憑て以て就學の進路を定め攷々として斯學の研鑽に從ふあらは其志望を達し他日歐米人と雜住の曉に逮て義務を彼我の間に全ふし權利を社交の上に伸ふる難にあらさるあり一言以て卷首に冠す

明治三十一年三月　　奥田義人

序

九大法律學校大勢一覽成る編者序を余に謁す予以爲らく所謂大勢なるもの果して如何にして知ることを得へき乎抑九大學校咸な學界の一方に雄視し各儼然樹立する所あり而も其の互に組織を異にし歴史を同しうせさるや其間亦自ら一長一短一優一劣なき能はす隨て四方負笈の子弟の就て學ふ者各選擇する所なきを得す而して其の之を選擇するや一々各校の大勢に徴するの外あらす然れとも大勢なるもの之を知る談固より容易あらす但た設立の沿革、學問の流派、授業の方法、講師の氏名及ひ監督、管理其他の設備より既往

拜啓春暖之候彌々御多祥爲國家珍重之至りに
奉存候
扨今度九大法律學校大勢一覽御編纂相成候由
法律に志するのに取りては至極重寶の書と被
存候自分に於ても何にの序文認め差出申度候
處近頃塵事堆積執筆の暇無之且承るに奥田木
下其他諸氏の序跋も相見へ候由なれは略々軌
を一にし却て贅疣の嫌も有之旁々別段不申上
候右不悪御了承被下度草々不宣

の效績現下の趨嚮等綱目略備はり載擧遺す無き此書
の如きあり庶幾くは以て直ちに各校の大勢を悉くす
を得へけむ然らは則ち此書の裨補する所決して鮮の
らすと謂ふ可し若し夫れ洛陽名園の興廢亦以て天下
の治亂を卜すへしとせは法律學校の大勢の如き直ち
に天下の治亂と緊密の關係を爲すもの此書に依りて
能く之を詳にせは其治亂を卜する所以に於て啻に名
園興廢の比たるのみに非す此書の關する所亦甚た大
ならすや是を序と爲す

明治三十一年三月　　木下哲三郎

三月二十五日

三島駒治様

市島謙吉

二

九大法律學校大勢一覽序

今や世界の各國修交往來し、五洲の民族、比隣雜居するに際り、曲直を裁つものは、古來の國風に依らずして、權義の審理に據るを要とし、是非を判つものは、蘆芮の良習にあらずして、法則の適用なるを知るに在り、然らずんば、何を以て變通の宜しきを得て、宇内の大勢に當るを得んや、是諸外國の、條約の改正に臨みて、必法典の實施を以て一條件とする所以にして、其意蓋し知るへし、隨て今日内外人の俱に注目すへきは、實に國民の法律思想如何に在り、

此時に會し、此書出つ、社會に歡迎せらるゝや亦知るへ

一

きなり、世人往々、學舍生徒の多少を以て、其校の盛衰を
トするものありと雖も、是抑も其末なり、假令其學舍の
數幾百に上り、其生徒の數幾千に出つるも、よく其校中
の實勢如何を知らされは、未た以て其盛衰を豫斷する
能はさるなり、此書は尤も重きを此點に置き、種々の材
料に由り、之を調査せり、是余の大に滿足を表する所な
り、著者もし此書を以て一時機に投するの具となさす、
爾後年次稿を改めて、以て傍ら此學の沿革を詳にする
の用に供せは太た可なり、一言以て序とおす

明治三十一年三月　　斯波淳六郎

批評

九大法律學校大勢一覽成ル偏セス黨セス秩序井然トシテ文字又謹嚴。九校ノ大勢一目瞭然タリ。寔ニ當世得易カラサルノ好著トス。初學入門ノ徒ハ勿論、廣ク學者統計家ノ參照ニ資シテ益スル所多カルヘキヲ信ス。余ヤ由來這般載籍ノ乏キヲ嘆ス。而シテ今乃此書ノ發行ニ接ス、法海於是乎一ノ燈明臺ヲ得タリト云フヘシ余ハ深ク編者ノ勞ヲ謝シ、併セテ洽ク天下ノ同好ニ紹介ス。

明治三十一年四月　　守屋此助

這書は九大法律學校の細見記なり。材料悉く最近の調査に係り、内容豊富、體裁亦甚た見るへきものあり。起源沿革は能く其學

歴學系を宣明し盛衰變遷の迹、一目燎然たり。教則學科は能く其學風學制を映寫し、九校の光彩、眞に迫るを覺ふ。講師校友の人名欄あり、立身出世の統計表あり、場屋對策の附錄あり。編者の苦心、察するに餘あり。初學の徒、一本を坐右にせは、庶幾くは九校の特色を詳にするを得んヲ。若し夫れ吳に之かん乎、越に之かん乎、自ら其人の撰む所に任せん哉。多忙善病、熟讀細評の閑を得す。是爲憾焉。

明治戊戌奠都祭前一日

花井法律事務所に於て

稚翠花井卓藏識

三島君頃者九大法律學校大勢一覽ヲ著シ余ニ評言ヲ求ム、余ヤ熟讀渉獵ノ閑ヲ得ス。從テ輙ク全體ノ得失ヲ評スル能ハスト雖トモ、目次ニ就テ之ヲ見ルニ、府下九大法律學校ニ於ケル起原沿革ヨリ校則學科目及ヒ講師卒業生ノ氏名ニ至ルマテ、凡ソ各校ノ特質異同、其ノ教務ノ成蹟等ニ關スル事項ハ細大之ヲ收載テ一モ漏ス所アルナシ。眞ニ今日ノ時好ニ適應シ後進遊學ノ指鍼トシテ欠クヘカラサルノ好著ナリ。余ハ深ク斯學ノ爲メニ、此ノ如キ完備ニシテ且有益ナル書ノ出ルヲ喜フ、一言ヲ添ヘテ批評ニ代フ。

戊戌之春

辯護士　齋藤孝治

頃者知友三島君九大法律學校大勢一覽を編纂し余に一本を示さる就て之を看るに斯學攷究者に取りては極めて便益の書なり此に聊か卑見を述へて批評に代へんとす

世往々法學生の毎年輩出する多きを憂ふるものあり曰く權利義務を口にし唯空理空論のみを鬪すは國家に益なく却て害ありと

是れ世の實際に迂き愚論と云ふべし夫れ法學なるもの一として國民の生命財産に關係を有せざる莫し彼の最も斯學に緣遠き文學者哲學者の如き皆其支配外に逸出する能はざるなり我國の實況を觀よ民法商法成り諸法典漸く完備の域に達せんとす國民たるもの誰れか之を雲烟過眼に付して可ならむや法律學校の要一日も欠くべからず之を世に紹介する又刻下の急務と云ふへし而して其之れが紹介の方法たる新聞雜誌に廣告し或は校規學則を示す素より一手段たりと雖も未だ各學校の精髓を盡す能はず隨て將に學途に上らんとする者に十分の便利を與ふるを得ざるなり此書各學校の沿革より現況卒業生等より各種試驗規則問題に至る迄一々網羅して餘す莫し世の斯學を研究せんとするものに取りて隨一の羅計盤たるは勿論修業後處世の燈明臺と云ふへし茲に余は三島君の勞を多とすると同時に今後年々訂正增補を爲し永久斯業の持續あらんことを冀望して止まざるなり終に附言す我東京專門學校は政學法學文學英語の四大學部に分れ法學部は其一部に過ぎざるを以て全部法學專門の法律學校に比して卒業生の多からざるは止むを得ざるなり

東京專門學校　田中唯一郎

明治三十一年三月三十日

友人三島駒治君、近ロ府下法律學校大勢一覽ヲ著シ、予ニ示シテ一言ヲ求メラル、予極メテ多忙、未タ熟讀以テ此書ノ眞價ヲ發揚スルニ遑アラスト雖モ、此書ノ世益ヲナス者三アリ、一ニ地方ニ在リテ斯學ヲ修メント欲スルモノ、一タヒ此書ヲ繙キ、其己レノ入ラントスル校舍ヲ擇フコトヲ得テ、出京岐路ニ迷フノ不便ヲ除ク、二ニ此書ノ載スル所法律校ノ盛衰興廢ハ、眞ニ是

レ我國法律學ノ沿革史ト云フニ足レリ、具眼者其事蹟ニ注目セハ、亦以テ我國ニ於ケル法律學ノ盛否ヲ案スルニ足ラン、三ニ此書ニ因リテ、我國人ガ泰西輸入ノ斯學ニ對シテ、如何ナル感想ヲ有スルカヲ知リ得ヘキコト是ナリ、乃チ愚見ヲ書シテ以テ返璧ス、著者幸ニ之ヲ恕セヨ。

明治三十一年二月　　日本法律學校々友　荒川五郎

凡例

一　本書ハ法科大學以下司法省指定法律各學校ノ形勢ヲ紹介シテ初學者ノ指鍼ニ供シ傍ラ一般官民ノ參考ニ資センヿヲ要トシ編纂シタル者トス、故ニ以上各學校ノ大勢ヲ知ルノ上ニ於テ緊切且ツ必要ノ事項ト認メタルモノハ細大之ヲ收攬シ以テ其遺漏ナカランコトヲ期セリ若シ夫レ後進幾多ノ學生ヲ啓導スルニ於テ益アリ亦以テ斯學ノ發達進歩ニ裨補スル所アラハ豈唯編者ノ幸ノミナランヤ

一　本書ハ特ニ附錄トシテ明治三十年度以後ノ各種試驗問題ヲ蒐集シ以テ斯學ニ於ケル試驗程度ノ一斑ヲ窺知セシメントス又同時ニ現行試驗ノ諸規則ヲモ收錄シテ受驗者ノ便覽ニ供セリ是皆編者ノ微意ニ過キズ

一　本書ハ主トシテ各學校最近ノ調査ニ係レル原簿諸表ニ基キ又各校々友會々員名簿其他諸種ノ材料ニ據リテ精密ノ調査ヲ遂ケ以テ編成ス

一　本書ハ主トシテ大學一覽ノ編制ニ倣ヒ其綜合ヲ謹ミ其分類ヲ正フシ勗メテ事實ノ眞確ヲ失ハサランヿヲ期セリ特ニ事ノ重要ニシテ其校運ノ隆否大勢ノ如何ニ關係ヲ有スルモノヽ如キハ愼重ニ之ヲ收載シ編者ノ私見ニ依リテ剪截補足ヲ加ヘタルモノナシ而シテ尚時ニ其足ラサル所アルハ編者非才ノ致ス所虔シテ諸君ノ批教ヲ仰キ其垂教ニ從テ更ニ增訂補正スル所アラントス請フ諒セヨ

明治三十一年奠都祭前三日　　編者識

九大法律學校大勢一覽

目次

九大法律學校ノ起原及沿革……一
東京帝國大學——東京法學院——東京專門學校——
慶應義塾——明治法律學校——日本法律學校——
和佛法律學校——專修學校——獨逸學協會學校○
同上各學校生徒現在數……（三十年末調）……一六
帝國大學令及學位令抜抄……一七
帝國大學通則及法科大學諸規則……一九
司法省令及同省告示抜抄……三八
指定法律各學校現行諸規則……四〇
東京法學院……仝
東京專門學校……五七
慶應義塾大學部……五五

目次

明治法律學校……八二
日本法律學校……一〇三
和佛法律學校……一一四
專修學校……一二三
獨逸協會學校……一三八
同上各學校學科課程表……仝
法科大學以下三十一年度授業科目ト其受持教師……一四〇
法科大學教授以下各學校講師姓名……（四百五十餘名）一五七
法科大學以下各學校卒業生姓名……（六千五百餘名）一六六
法科大學……仝
東京法學院……一七七
東京專門學校……二〇二
慶應義塾大學部……二一〇
明治法律學校……二一〇
日本法律學校……二一九

和佛法律學校……二三四
專修學校……二四
獨逸學協會學校……二四五
同上卒業者稱號種別表……二四八
同上卒業生年度別一覽表……（三十年々末調）仝
同上府縣別人員一覽表……（仝上）仝
府下私立指定學校卒業生就職別一覽表……（仝上）仝
明治三十年學行各種試驗及第者學校別一覽表……二四九

附錄

各種試驗問題……一
高等文官試驗——判檢事試驗——辯護士試驗——
理事試驗——海軍少主計試驗
現行試驗規則……一六
高等文官試驗……仝

判檢事試驗……二四
辯護士試驗……三三
理事試驗……三八
主理試驗……四六
海軍少主計試驗……五二

目次畢

九大法律學校大勢一覽

◎各學校ノ起原及沿革畧

◎東京帝國大學（法科大學）

東京帝國大學ハ元ト帝國大學ト稱シ東京大學工部大學校及東京農林學校ヲ合併シテ成ルモノナリ今其起原ヲ敘スレハ東京大學ハ法理醫文ノ四學部ヨリ成ルモノニシテ法理文ノ三學部ハ德川幕府ノ洋學所ニ濫觴シ後開成所ト稱ヘ維新ノ際朝廷之ヲ收メテ再興シ明治二年大學ヲ昌平坂ニ置クニ當リ之ニ隸シテ大學南校ト改メ同四年文部省立ツニ迨ヒテ更ニ其所管ニ歸シ大學ノ二字ヲ删リテ單ニ南校ト稱シ同五年新ニ學區ノ制ヲ定ムルニ際シ本校ヲ第一番中學トナシ同六年更ニ開成學校ト改稱シ尋テ之ヨリ先キ經始スル所ノ神田錦町三丁目ノ營築成ルヲ以テ斯ニ移シ同七年更ニ校名ニ東京ノ二字ヲ冠シ同十年四月始メテ東京醫學校ト合シテ東京大學トナス乃チ本校ヲ法學部理學部文學部ニ分チ綜理ヲ置キ三學部一切ノ事務ヲ統ヘシム醫學部ハ東京大學醫學部ト稱シ別ニ總理ヲ置ケリ明治十四年六月東京大學ノ職制ヲ更改シ東京大學總理ヲ置テ法理醫文ノ四學部及豫備門ヲ統轄セシム同十七年八月本學事務室及法文學部ヲ本鄕元富士町一番地ニ移ス同十八年九月東京法學校ヲ法學部ヘ合併ス

東京法學校ハ明治五年始メテ司法省明法寮ニ於テ法學生徒ヲ養成シタルニ起リ舊ト法學校正則科ト稱シ司法省ノ所轄タリ明治十七年十二月文部省ノ所轄ニ屬シ東京法學校ト改稱シタルモノナリ

明治十九年三月勅令第三號ヲ以テ帝國大學令ノ公布ニ依リ帝國大學ヲ設置セラレ東京大學及工部大學校ノ事業ヲ繼續ス同年四月分科大學諸學科ノ課程ヲ定メ法科ノ修業年限ヲ三週年トス同年十月　天皇陛下行幸アラセラレ構内各分科大學ノ教室等ヲ御覽アラセラル同年十一月東京府下ニ設置ノ私立法律學校即チ專修學校明治法律學校東京專門學校東京法學校英吉利法律學校ヲ本學ノ監督ニ付セラル同二十年五月勅令第十三號ヲ以テ學位令ノ公布アリ同年六月文部省令ヲ以テ學位令細則ヲ定メラル同廿一年五月私立法律學校本學ノ監督ヲ離ル同廿四年八月法科大學學科課程ヲ改正シ修業年限ヲ四週年トス同廿六年九月法科大學ノ教制ヲ改メ從來ノ階級制ヲ廢シ更ニ學科課程授業科目及試業規程ヲ定ム同月勅令第九十三號ヲ以テ帝國大學分科大學ニ於ケル講座ノ種類及其數ヲ定メラル即チ法科大學ニ二十二講座ヲ置カル同廿八年四月法科大學分教室新築成ル同三十年六月勅令第二百八號ヲ以テ帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱セラル本學ハ特別會計法ニ據リテ其會計ヲ處理スルモノナリ

◎東京法學院

東京法學院ハ元ト英吉利法律學校ト稱シ明治十八年ヲ以テ之ヲ創設ス是ヨリ先キ大學出身ノ法律家數名盟同シテ一ノ法律學校ヲ設置セントスルノ計畫アリ以來前後數回ノ商議ヲ經テ遂ニ設置ノ事ヲ決了シ爰ニ始メテ創立事務所ヲ置キ且ツ創立ノ事ヲ廣ク内外人ニ揭明スルニ至ル而シテ其創立スヘキ學校ノ名ヲ英吉利法律學校ト命スリキ

是レ實ニ明治十八年七月ナリキ

抑モ本校創立ノ旨趣ハ方今法律實地應用ヲ教養スルモノ世間其道ニ乏シキヲ以テ專ラ英米ノ法律ヲ講シテ後進ヲ陶冶スルニアリ其要梗ハ當時世ニ頒チタル廣告文中ニ見ユ今之ヲ畧ス

明治十八年九月開校シ增島六一郎校長ノ任ニ就ク同月江東中村樓ニ於テ其開校ノ式典ヲ擧ク朝野ノ紳士内外學士ノ招待ニ應シテ來リ會スルモノ頗ル多シ之ヨリ先キ創立ノ當初已ニ校外生ヲ募集シ爾來發行スル所ノ講義錄ヲ頒付セリ同十九年六月始メテ第二科（原書科）ヲ置キ英書ニ據テ法律ノ業ヲ授ケ又第一科ヘ英語學ノ一科ヲ編入シ邦語ヲ以テ法律ヲ學フ者ニ之ヲ兼修セシム同十月「テキストブック」ヲ發行シ大ニ教科ノ用ニ資セリ同十九年十二月私立法律學校特別監督條規ニ依リ帝國大學ノ特別

監督ニ屬セラル同二十年四月司法大臣ヨリ補助金トシテ年々若干圓ヲ下附スル旨達セラル同廿一年一月煉瓦石新築校舍落成シ同年二月其落成式ヲ擧行ス同年五月東京府知事ヨリ帝國大學總長ノ監督ヲ廢止スル旨ヲ達セラル同年七月特別認可學校規則ニ依リ本校學則ノ認可ヲ受ク蓋シ府下私立法律學校中ニテ特別認可ヲ受ケタルハ本校ヲ以テ嚆矢トス同廿二年十月文部大臣ヨリ本校ヲ東京法學院ト改稱スルヲ認可セラル同廿三年三月特別認可學校規則ニ改正アリ同九月本校亦タ學科課程ノ改正ヲ爲ス同廿四年四月增島六一郎院長ハ職ヲ辭シ菊池武夫之ニ代ル同廿五年四月祝融ノ災ニ罹リ校舍內部ノ構造ト所藏數万ノ圖書トハ擧テ烏有ニ歸ス當時一ツ橋外帝國大學講義室ヲ借用シテ其假校舍ニ充テ又一方ニハ修築工事ノ竣成ヲ急ケリ同年八月修築ノ業全ク成リ同九月移轉始業ス同廿六年十一月特別認可學校規則廢止セラレ同年十二月判事檢事登庸試驗規則ニ依リ更ニ司法大臣ノ指定學校トナル同二十七年八月學制ニ多少ノ修正ヲ加ヒ翌廿八年九月再ヒ學制ヲ改正シテ諸般ノ完成ヲ期ス同廿九年七月大ニ校規ヲ擴張シ新ニ高等法學科ヲ設ケ本院卒業生及同等學校卒業生ニシテ尙法理ノ蘊奧ヲ究メント欲スル者ニ其志望ノ課目ヲ專攻セシム同三十年九月本院在學生ノ爲メ特ニ普通學兼修科ヲ增置スルコトニ決シ同年十月先ツ其一着歩トシテ國語、漢文二學科ノ敎授ヲ始メ且ツ同時ニ本院圖書ノ購入ヲ爲シ今ヤ內外書籍ノ部數ハ殆ント三万部ノ多キニ達シ學生ノ參考書ニ於テ亦遺憾ナキニ至レリ又本院ハ新ニ海外留學生ノ制ヲ設ケ卒業生中雋秀ノ士ヲ撰拔シテ院費ヲ給シ以テ海外ニ留學セシムルコトヽナス

◎東京專門學校

東京專門學校ハ明治十五年ノ創立ニシテ之レカ開創ノ發起ヲナセシハ實ニ伯爵大隈重信君トス、大隈伯常ニ謂ラク國民ニ獨立ノ精神ヲ有セシメンニハ學問ノ獨立ヲ圖ラサル可ラス而シテ學問ノ獨立ヲ圖ルノ道ハ權勢情實ノ羈絆ヲ脫シタル一大私立學校ヲ起シ講學者ヲシテ自由ニ必要ノ學科ヲ學習セシムルニ在リト、偶々小野梓氏伯ト同感ヲ抱キ大ニ斡旋スル所アリ同志ノ學士數名ヲ糾合シテ建學ノ事ヲ謀ル、議既ニ決ス、於是大隈伯自ラ地ヲ早稻田ニ相シ巨資ヲ投シテ校舍ノ建築ヲ經始シ其十月講堂寄宿舍成リ廿一日開校シ大隈英麿氏校長ニ任ス、當時授業ノ學科ハ政治、法律、理學ヲ本科トシ皆邦語ヲ以テ之ヲ授ケ又特ニ生徒研究ノ用ニ供センカ爲メ英語ヲモ兼修セシメタリ、翌十六年七月講堂ノ增築ヲ爲ス、十七年四月職員ノ組織ヲ改定ス、理學科ハ此歲ヲ以テ停止シ更ラニ英學科ヲ置ク、同年六月生徒團結シテ同攻會ヲ組

織シ盛ニ辯説文章ノ練習ヲ爲ス、十八年十二月教職員及得業生ノ交情ヲ厚フスル爲メ校友會ノ團結起ル、十九年三月高田氏以下建ツル所ノ本校革新案ヲ採用シ大隈伯年來ノ補給ヲ辭シ更ニ自治經營ノ道ヲ確立ス、本校是ヨリ改革ノ一新紀元ヲ開キ爾後ノ成蹟愈々良好ノ實ヲ得タリ、是歲九月前島密氏大隈氏ニ代リ校長ト爲ル同月政治、法律二科ノ講義錄ヲ發刊シ初メテ校外生ヲ募集ス、後廿一年十月ニ至リ行政科ヲ廿八年一月文學科ヲ加ヘ沿革スル所アリト雖モ其嚆矢ハ十九年ニ在リキ、廿一年六月教則ノ改正ヲ爲シ政治科、法律科、行政科、英學科ノ四科ニ分ツ、七月寄宿舍ヲ增築ス同年八月文部省本校ヲ指定シテ特別認可學校ト爲ス、初メ十九年十二月政府私立法律學校特別監督ノ制ヲ布キ本校モ其ノ班ニ就シカ同年五月監督制變シテ認可制トナル、本校則チ法律、行政ノ二科ヲ改メテ第一、第二ノ法律學科ト爲ス、廿一年十月政治、法律、行政ノ三科ニ英語政治科、英語法律科、英語行政科ヲ設ク、又英學科ヲ改メテ英語普通科及豫科ト爲シ共ニ專門科ノ階梯タラシム、廿二年九月文學部ノ創設アリ修業年限ヲ三ケ年トス、之レヨリ先キ大隈伯爵ハ本校ノ爲メ壯麗ナル大講堂ヲ建築スルノ經營アリシカ是歲五月ヲ以テ竣成ヲ告ク、廿三年七月前島氏校長ヲ辭シ鳩山和夫氏之レニ代ル、廿四年七月學科ヲ分合シテ政、法、文ノ三學部ト爲ス、二十五年二月英語普通科ノ年限ヲ長クシ專修英語科ト改ム、二十六年八月歐米ノ制ニ則リ高等學術普及ノ爲メ講師ヲ全國各地ニ派シ初メテ巡回講話ヲ爲ス爾來每年之ヲ施行セリ、同年九月三學部其諸課目ヲ整理シ新ニ研究科ヲ置キ生徒得業ノ後更ニ蘊奧ヲ探ルノ地ヲ爲サシム、同年十二月司法省判檢事登用試驗ニ付法律學校ノ指定ヲ爲ス本校亦之ニ與ル、廿八年九月更ニ教課ニ改正ヲ加フル所アリ文學部ニ選科ノ制ヲ採リ特種課目ノ隨意勉學ヲ爲サシム、又是年法律政治經濟文學等ニ關スル歐米名著ヲ飜譯シ早稻田叢書トシテ出版ノ計畫成ル廿九年九月政、法、文、ノ三學學ヲ分割シ政治科ヲ政學部ト爲シ、法律科ヲ法學部ト爲シ、文學科ヲ文學部ト爲シ、又專修英語科ヲ英語學部ト改メ以テ獨立ノ一分科ト爲ス、又講師學生研學ノ料ニ供スル爲メ本校創立ト同時ニ圖書館ヲ設ケ法律行政々治經濟學其他和漢洋ノ書籍ヲ漸次備付今ヤ三萬餘冊ニ達ス、體育養生ノ目的ヲ以テ數年前ヨリ體育部ヲ設ケ講學ノ餘暇擊劍柔術弓術等ヲ練習セシム三十年八月早稻田尋常中學創立セラル、此校ノ成立及ヒ課程ハ全ク別異ノモノナリト雖モ而カモ大隈伯爵ノ庇蔭ト本校員ノ斡旋トニヨリテ成立シタルモノナリ依テ茲ニ附記ス

◎慶應義塾（大學部）

本塾ハ安政五年ノ冬始メテ江戸鐵砲洲舊奥平藩邸内ニ設立ス而シテ其當初ノ四五年間ハ生徒ノ就學スル者新陳出入シテ常ニ數十名ニ過キス僅ニ一小家塾ニシテ事ノ記スヘキモノナカリキ

創立ノ初ハ荷蘭書ノミヲ講ジタリシカ安政六年五國條約ノ事成ルニ及ヒ漸ク英文ノ時事ニ適切ニシテ且ツ必要ナルヲ悟リ文久三年始メテ之ヲ生徒ノ教授ニ用サタリ當時本塾ノ最モ困難ナリシハ攘夷ノ國論甚タ熾ニシテ苟モ洋學者トアレハ一身ノ生命ヲモ安ンズルヲ得ザリシノ一事ナリ慶應四年即チ明治元年戊辰王政維新ノ事アリ鐵砲洲ノ奥平邸ハ外國人ノ居留地タルヘキ約束成リシヲ以テ本塾亦同邸内ニ留マルヲ得ズ之カ爲メ前年冬芝新錢座ニ買入レタル地面アルヲ以テ此ニ塾舍ヲ新築シテ其功ヲ竣リ戊辰四月之ニ移轉シ塾ノ名稱ハ時ノ年號ニ取リテ慶應義塾ト命名ス（改元ノ布告ハ明治元年九月ニアリタリ）當時東西南北戰爭ノ最中ニシテ殊ニ東京ハ官賊兩軍ノ入リ亂レタル場所ナレハ都下一般ノ人事ハ火ノ熄ヘタルカ如ク市ニ賣買スル者ナク酒樓ニ飲ム者モナク物情恟々唯謂レモナク四方ニ奔走スルノミナリシカ幸ニシテ本塾ノミハ一日モ休業スルコトナク彈丸烟裡尚且安ンジテ文ヲ講ジ學ヲ修ムルヲ得タリシナリ後維新ノ風雲漸ク收マリ國人ノ文思亦タ舊ニ復スルニ及ヒテハ入社ノ生徒甚タ多ク遂ニ新錢座ノ地所建物ニテハ人ヲ容ルヽニ足ラサルノ不自由ヲ覺ヘタリ

明治三年ノ冬三田二丁目島原侯ノ藩邸ヲ拜借シ又同時ニ在來ノ建物ヲ讓受ケ尚大ニ新築シテ新舊ノ普請大畧、成ヲ告ケ乃チ新錢座ヲ去テ爰ニ轉シタルハ明治四年春ノ事ニシテ今ノ東京芝區三田二丁目二番地慶應義塾是レナリ

本塾大學部ハ後進者ノ爲メ學問研究ノ地歩ヲ高メンコトヲ欲シ明治廿二年始メテ其建設ノ事ヲ企テ大ニ有志ノ贊成ヲ得テ拾餘萬圓ノ寄附金ヲ募集シ新ニ數名ノ外國教師ヲ傭聘シ以テ本學部ノ建立ヲ見ルニ至レリ同廿三年一月其開業式ヲ執行シ次テ授業ヲ開始シ法、理、文ノ三學科ヲ教授セリ同年三月書籍館規則ヲ定メ同廿五年本學部法科ニ日本法律科ノ一科ヲ設ケ特ニ邦語ヲ以テ日本法律ノミヲ教授スルコトヽナス同廿六年十二月判檢事登用試驗規則ニ依リ司法大臣本學部法科ヲ指定ス同廿九年一月、日本法律科ハ是迄講座ノ法ニ依リテ授業シ來リタルモ爾後改メテ三學年ニ分チ教授スルコトヽナセリ是歳文部大臣ハ本學部及ヒ本塾高等科普通科ヲ認定シ等シク徴兵令ニ依ルノ特典ヲ付與セラル

（編者曰ク同塾ハ其創設以來殆ント四十年ヲ經過シ我邦諸學校中其起學ノ最モ古キモノナレハ從テ沿革ノ如キ亦頗ル多端ニシテ一小冊子ノ得テ記悉スル所ニアラス乃チ本書ニ對スル關係ノ遠キ事項ハ可成之ヲ省畧シ僅

ニ記事ノ要概ノミニ付テ摘載スルコトヽハナシヲ讀者夫レ之ヲ諒セヨ）

◎明治法律學校

明治法律學校ハ大ニ法律學ヲ講究シ傍ラ法學ニ密接ノ關係ヲ有スル行政法及ヒ經濟財政ノ諸學ヲ敎授シ以テ世運ノ進歩ヲ稗補センカ爲メ有志者相謀リ明治十三年十二月其規摸ヲ定メテ官ノ許可ヲ得同十四年一月地ヲ東京麴町區有樂町島原邸内ニトシ此ニ創設ス同十五年十月敎則ヲ改正シテ脩業年限ヲ滿三ケ年ト定ム同十九年一月再ヒ敎則ヲ改正シテ學科ヲ法律學部政治學部ノ二部ニ分チ其脩業年限ヲ各滿三ケ年ト定メタリ同年十一月帝國大學ノ監督ニ屬ス同月地方子弟ノ負笈東都ニ出テヽ親戚益友ニ乏シク往々其目的ヲ達セサル者アルヲ以テ此等ノ者ニシテ本校ニ在學スル者ヲ保護養成セシカ爲メ特別監督生規則ヲ設ク同十二月是ヨリ先キ經始スル所ノ駿河臺ノ新築校舍斧斤其効ヲ竣ハリ同年同月移轉開校ノ盛式ヲ擧行ス同廿年十月初メテ講法會ヲ設ケ講義錄ヲ發兌シテ會員ニ頒布ス同廿一年五月帝國大學ノ特別監督ヲ解カル同年八月文部省告示第七號ヲ以テ法律學科政治學科ノ二學則ヲ認可セラル次テ學校ノ組織ヲ改正シ校長及ヒ敎頭ヲ置キ從來ノ幹事ヲ廢ス岸本辰雄推撰ニ依リテ校長トナリ同年十二月再ヒ幹事ヲ置ク同年同月普通學敎授ノ爲メ豫備科ヲ設ケ講堂ヲ增築ス同廿四年四月優待生規則ヲ設ク同廿六年十一月文部省令第十五號ヲ以テ明治廿一年文部省令第三號特別認可學校規則ヲ廢セラル同年十二月司法省告示第九十一號ヲ以テ指定學校ト爲ル同廿七年七月校則ヲ改正シ科目ヲ增加ス同三十年九月大ニ校規ヲ擴張シ深遠ナル法理研究ノ必要上豫備科トシテ外國語學科ヲ新設シ佛英兩國ノ語學ヲ敎授シ斯學應用ノ資便トシテ傍ラ漢文學ノ敎授ヲ爲シ優待生、貸費生、特別生等ノ規則ヲ改正或ハ創設シ以テ學生ヲ奬勵シ其成業ヲ期セシメ實務習練ノ爲メニハ訴訟演習會ヲ開キ法理ノ蘊奥ヲ究メン爲メニハ高等研究科ヲ設ク遼遠ノ地ニ在ル校外生ノ爲メニハ講堂筆記ヲ出版シ文庫ヲ開キ校友及ヒ學生ノ縱覽ニ供シ且ツ學生聽講ノ便ヲ計リ本科ノ講義時間ヲ總テ午後ニ改メタリ

◎日本法律學校

日本法律學校ハ明治二十三年九月ノ創立ニシテ當時其發表シタル主意ノ畧ニ曰ク（國各其法律アリ而シテ臣民休戚ノ繫ル所自國ノ法律ヨリ大ナルハナシ我日本ノ如キ建國三千年亦其法律アリ條項疎密必シモ海外諸國ト科ヲ同フセスト雖日本臣民タルモノ豈奉シテ之ヲ修メサルベケンヤ大政維新以降我國ニ於テ頻ニ海外法律ヲ修メリ是レ時勢ノ然ラシムル所ニシテ其意タル蓋シ東西比較彼ノ長ヲ取リ我カ短ヲ補ヒ

日本法律ヲシテ益完美ノ域ニ達セシムルニアリ今ヤ我國大憲以下刑法民法商法刑事訴訟法民事訴訟法裁判所構成法其他府縣制郡制市町村制ノ類法令ノ已ニ發布セラレタルモノ甚タ多ク日本法律ノ講究セサルヘカラサルコト日ニ益急ナリトス是レ則チ日本法律學校ノ設立止ムヲ得サル所以ニシテ日本法律學校ノ目的ハ專ラ本邦ノ法律ヲ講究シ苟クモ日本法律タルモノハ其新古ヲ問ハス力ノ及フ所遍ネク之ヲ講究シ又海外法理ト雖モ我國法學ノ參考ニ供スヘキモノハ之ヲ參考シ以テ近クハ有志ノ子弟ヲシテ日本法律ヲ學ブノ道ヲ得セシメ遠クハ世人ヲシテ法律ノ正路ヲ知ラシメントスルニ在リ之ヲ要スルニ日本法律學校ハ我國ニ日本法學ナルモノヲ振起シ以テ國家盛運ノ万一ヲ增進セントスルナリ今ヤ朝野諸君ノ贊成ヲ請フニ當リ聊本校設立ノ旨趣ヲ開陳スルコト此ノ如シ）ト日本法律學校ノ起原及設立ノ目的ハ以上ノ言ノ如シ日本法律學校ハ在學生ノ多キヲ望マンヨリハ寧ロ少クトモ有用ノ材ヲ出サンコトヲ望ムモノナリ日本法律學校ハ此主旨ト此目的トヲ持シ終始渝ハルコトナキヲ期シ明治二十三年九月二十三日開校ノ典ヲ麹町區飯田町五丁目八番地ニ擧ケタリ創立ニ就テ最モ幹旋シタルハ時ノ司法大臣故伯爵山田顯義ニシテ法學博士宮崎道三郎創立者ヲ代表シ校長ハ米國法學士金子堅太郎タリ超テ明治二十六年九月松岡康毅代テ校長トナル同年十二月判檢事登用試驗規則ニ依リ司法大臣本校ヲ指定ス是ヨリ先キ校勢大ニ張リ敎場ノ狹隘ニ苦ムヲ以テ明治廿八年六月神田區一ツ橋通町二十一番地ニ轉セリ然レトモ時運ノ趨ク處翕然トシテ日本法律ノ研究ニ從事シ贊ヲ校門ニ執ルモノ倍々多ク敎場ハ愈々狹隘ヲ感スルニ至レリ於茲乎新築ノ止ムヲ得サルニ至リ地ヲ東京ノ中樞神田區三崎町ニ相シ明治二十九年一月土木ノ業ヲ起シ其六月工ヲ竣メ爾來今日ニ至リシカ時運ハ又通常課程ニ安ンスルヲ許サス本年三月高等專攻科ヲ設クルニ至ル

◎和佛法律學校

本校ハ元東京法學校ト稱シ實ニ明治十六年ノ創設ニ係レリ蓋シ當時ノ校場ハ神田小川町ニ在リテ專ラ佛國ノ法律ヲ講授シ以テ世務ニ堪能ノ士ヲ養成センコトヲ勤メタリ同十九年十二月特別監督條規ニ依リ帝國大學ノ監督ニ屬セラレ同廿一年五月帝國大學ノ監督ヲ離ル同廿二年五月東京佛學校ト合併シ其名稱ヲ和佛法律學校ト改メ校規敎則ヲ修正シ（當時佛學校ハ司法省ヨリ年々若干圓ノ補助金ヲ受ケタリ）佛語法律科、邦語法律科、專修科、及普通科ノ四學科ヲ設ク同年八月更ニ本校ノ特別認可アランコトヲ文部省ニ出願シ同年九月之ヲ認可セラル同年十二月始メテ校外生ノ制ヲ設

ケ講義錄ヲ發行ス之ヨリ先キ經始スル所ノ新築校舍全ク落成セルヲ以テ同廿三年七月麹町區富士見町（現今ノ校場）ニ移轉ス同廿六年十一月特別認可學校規則廢止セラレ同年十二月更ニ判檢事登用試驗規則ニ依リ司法大臣ノ指定學校トナル

◎專修學校

專修學校ハ同志者相謀リ經濟學法律學ノ二科ヲ講授スルカ爲メニ設立スル所ニシテ二箇年ヲ以テ修業期トナシ明治十三年九月十五日ヲ以テ校ヲ京橋區南鍋町ニ開キ該二學科ヲ教授セリ同年十一月校場ヲ京橋區木挽町ニ移シ諸般ノ改正ヲ施シ且ツ新タニ特別講義ノ科目ヲ增ス同十五年十一月從來ノ校場狹隘ニ付キ神田區仲猿樂町ニ移轉シ教則ノ如キモ多少ノ修正ヲ加フ同十六年七月再ヒ教則ヲ改正シ從來ノ修業年限二ケ年ヲ改メテ三ケ年トス同十八年二月新タニ校地ヲ神田區今川小路ニトシ教場及ヒ整舍ヲ築キ七月之ニ移ル同十九年十二月特別監督條規ニ據リ帝國大學ノ監督ニ屬セラル同二十年一月校外員ヲ募リ講義錄ヲ發行ス同廿一年五月帝國大學ノ監督ヲ廢止セラル同廿一年八月特別認可學校規則ニヨリ文部大臣ノ認可ヲ受ク同廿四年九月法律科理財科共其學科目ヲ改定增補シ新ニ優待生規則ヲ設ク同廿六年十一月特別認可學校規則ヲ廢止セラレ同年十二月判事檢事登用試驗規則ニ依リ司法大臣ノ指定學校トナル同廿七年七月校則ニ改正ヲ加フ

◎獨逸學協會學校

獨逸學協會學校ハ明治十六年十月ヲ以テ東京麹町區五番町ニ創立ス學科ハ之ヲ分テ初等高等ノ二科トシ又別ニ變則科ヲ置キ皆主トシテ獨逸學及普通學科ヲ教授セリ同年同月本校設立ノ擧　上聞ニ達シ年金若干圓宛下賜ノ旨宮內省ヨリ達セラル同十七年五月神田區西小川町ニ校舍ヲ新築シ之ニ移轉ス同年十月校則ヲ改正シ新ニ專修科ヲ設ケ政治法律ノ專門學科ヲ教授シ其修業年限ヲ二年四級トス同十八年四月宮內省ノ下賜金廢セラレ同十九年十一月文部省ヨリ補助金トシテ年々金若干圓ヲ下附セラルヽ旨達セラル同廿年四月文部省告示第一號ヲ以テ本校ヲ徵兵令ニ依リ官立府縣立學校同等ノ學校ト認定セラル同年同月司法省ヨリ補助金トシテ年々金若干圓ヲ下附セラルヽ旨達セラル同年五月教則ヲ改正シ專修科ノ課程ヲ三年三級ト爲シ專ラ法律學ヲ教授スルコトヽセリ同年九月曩ニ經始スル所ノ教場成ル同廿一年七月特別認可學校規則ニ依リ本校專修科ヲ認定セラル同廿四年三月司法省及文部省ノ補助金廢セラル同廿五年十一月專修科學科課程ヲ修正ス同廿六年十二月特別認可學校規則廢止セラル本校亦タ校規教則ヲ更正シ從前ノ普通科ヲ尋常中學ト改稱ス同年十二月判

檢事登用試驗規則ニ依リ司法大臣ノ指定ヲ受ク（本校專修科ノ生徒トシテ滿三ケ年間在學シタルモノハ同試驗ニ應スルノ資格アルモノトス）爾後學制ヲ更改シ全ク從前ノ專修科ヲ廢止セリ

◉各學校法學生徒現在數（明治三十年十二月調）

東京帝國大學……法科大學	七百四十四人
東京法學院	千〇九十九人
東京專門學校……法學部	六百八十五人
慶應義塾……大學部法律科	二十五人
明治法律學校	九百九十七人
和佛法律學校	五百三十一人
日本法律學校	五百〇七人
專修學校……法律科	
獨逸學協會學校……專修科	

◎帝國大學令（明治十九年三月勅令第三號）（抜抄）

第一條　帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トス

第二條　帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奥ヲ攻究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條　分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條　分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入リ學術技藝ノ蘊奥ヲ攻究シ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條以下（畧之）

◎學位令（明治二十年五月勅令第十三號）（抜抄）

第一條　學位ハ博士及大博士ノ二等トス

第二條　博士ノ學位ハ法學博士醫學博士工學博士文學博士理學博士ノ五種トス

第三條　博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ニ之ヲ授ク

又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ帝國大學評議會ノ議ヲ經テ之ヲ授ク

第四條　大博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ博士ノ會議ニ付シ學問上特ニ功績アリト認メタル者ニ閣議ヲ經テ之ヲ授ク

第五條　本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

◎學位令細則（明治二十年六月文部省令第四號）（抜抄）

第一條　博士ノ學位ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ授ク

法科大學所設ノ學科ヲ專攻セシモノニハ

法學博士

◎帝國大學通則及法科大學諸規則

◎分科大學通則

第一　學年、學期、休業規定

第一條　學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月十日ニ終ル

第二條　學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル百五日間トシ第二學期ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル八十三日間トシテ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル九十四日間トス

第三條　冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル二週間トシ春期休業ハ四月一日ヨリ同七日ニ至ル一週間トシ夏期休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル二ケ月間トス

第四條　日曜日及次ニ掲載スル祭日祝日ハ休業トス

秋季皇靈祭（九月廿三日）　神嘗祭（十月十七日）　天長節（十一月三日）

新嘗祭（十一月廿三日）　孝明天皇祭（一月三十日）　紀元節（二月十一日）

帝國大學令公布紀念日（三月一日）　皇靈祭（三月廿日）

第五條　授業時間ハ各分科大學ニ於テ毎學期ノ始メ其學科課程ニ依リ之ヲ定ム
但學期外特ニ要スル實習ハ休業中ニ於テ之ヲ課ス

第二　入學、在學、退學規程

第一條　入學ノ期ハ毎學年ノ始メ一回トス

第二條　分科大學第一年級（法科大學アリテハ第一回受驗生以下之ニ準ス）ヘ入ルヘキ者ハ高等學校大學豫科若クハ之ニ準スル學科ノ設ケアル高等中學校又ハ文部大臣ニ於テ大學豫科ニ準スル學科程度ヲ具備スルト公認シタル學校ノ卒業證書ヲ受領シタルモノ若クハ大學豫科ノ設ケアル高等學校及高等中學校ニ於テ分科大學ノ通告ニ依リ試驗ヲ行ヒ大學豫科卒業ト同等ノ學力アリト認定シタルモノトス
但入學志願者ノ數分科大學各學科設備上豫定ノ人員ニ超過スルトキハ其人員超過ノ學科志望生ニ限リ更ニ大學豫科中ノ課目ニ就キ競爭試驗ヲ受ケシメ入學者ヲ定ム

第三條　第二年級以上ノ級ニ入ルヲ望ムモノハ先ツ第一年級ニ入ルニ適當ナル資格ヲ備フルヤ否ヲ檢定シ尋テ其入ラント欲スル級ノ學生ノ履踐セシ諸學ノ科試問ヲ受ケシメ入學ノ許否ヲ定ム

第四條　入學ヲ願フ者ハ第一號若クハ第二號書式ニ準シ分科大學長ヘ願出ツヘシ
但第二號書式ニ依ル者ハ毎年六月十五日迄ニ願出ツヘシ

第五條　本學ニ於テ入學試問ヲ要スル者ハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ
但既納ノ受驗料ハ受驗者ノ都合ニ依リ入學願ヲ取消スコトアルモ之ヲ返付セス

第六條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ總テ入學料金貳圓ヲ納ムヘシ
但一旦退學セシ者更ニ入學スルトキ及一分科大學ヨリ他分科大學ニ轉學スルトキモ入學科ハ納ムヘキモノトス

第七條　入學許可ヲ得タル者ハ誓式ヲ行ヒ學生簿ニ記名シ且正副保證人ヨリ第三號書式ニ準シ在學證書ヲ差出スヘシ
但正副保證人ハ共ニ丁年以上ニシテ東京府内ニ居住シ土地若クハ家屋ヲ有スルモノ又ハ本學ニ於テ適當ナリト認ムル者ニ限ル

第八條　保證人或ハ副保證人死去若クハ前條ニ掲クル資格ヲ失フトキハ直チニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ第三號書式ニ準シ更ニ證書ヲ差出スヘシ

第九條　保證人或ハ副保證人四週日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ先ツ委任狀ヲ與ヘタル代理人ヲ定メ發途前ニ其旨ヲ届出ツヘシ

但正副保證人共同時ニ旅行セントスルトキハ其四週日以内ハ委任狀ヲ與ヘタル代理一人四週日以上ハ代理二人ヲ定メテ發途前ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十條　分科大學卒業生ニシテ他ノ學科ヲ修メント欲シ更ニ入學ヲ請フモノ及分科大學々生ニシテ退學セシモノ嘗テ學修セシ學科ヲ再修セント欲ス更ニ第一學期ヨリ原級以下ニ入學ヲ請フモノハ試問ヲ須ヒス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條　學生疾病其他ノ理由ニ依リ學年ノ始ニ於テ他ノ學科ニ轉學セントコトヲ請フトキ又ハ分科大學學生ニシテ退學セシモノ更ニ他ノ學科ヲ修メント欲シ入學ヲ請フトキハ第二條第三條ニ準シテ之ヲ許否シ又ハ本學ニ於テ其豫科ノ素修ニ大差ナク直チニ志望ノ學科ヲ履修シ得ヘキト認定スルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條　學生品行不良學業懈怠若クハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ目的ナシト大學總長ノ認定シタル者ハ其分科大學長ハ之ニ退學ヲ命スヘシ

第十三條　學生退學セントスル者ハ保證人連署ノ上出願ツヘシ

第一號書式（入學試問ヲ要セサル者）
入學願書（署之）

第二號書式（入學試問ヲ要スル者）
入學願書（署之）

第三號書式（印紙貼用且正副保證人二名ノ連署）
在學證書（署之）

第三　休學規程

第一條　分科大學學生疾病ニ罹リ滿二ケ年以上修學シ能ハスト思慮スルトキハ豫メ分科大學長ニ願出テ其許可ヲ得テ該學年間休學スルコトヲ得

第二條　休學ノ許可ヲ得タル學生ハ次學年ノ始メヨリ其原級ニ入リ修學スルモノトス

第三條　學生休學學年間ハ授業料ヲ徵收セス給費若クハ貸費ヲ受クル者ハ之ヲ停止スル

但休學學年間ト雖モ疾病平癒スルトキハ許可ヲ得テ教場ヘ出席スルコトヲ得此

場合ニ於テハ授業料ヲ徵收ス

第四條　休學ヲ願出ツル者アルトキハ分科大學長ハ醫科大學附屬醫院長ニ照會シ該院長ノ證明ヲ經テ之ヲ適當ナリト認ムルトキハ休學ヲ許可スヘシ

第五條　醫院長ハ前條ノ照會ヲ受ケタルトキハ委員ヲ命シテ其疾病ヲ診斷セシメ意見書ヲ分科大學長ニ送付スヘシ

第六條　分科大學學生ノ陸軍兵役ニ服スルモノハ其現役中本規程ニ準シテ休學シ滿期後直チニ原級ニ復スルコトヲ得

第四　試業及卒業證書規程

第一條　學年試業ハ毎年六月二十一日（當日日曜日ナラハ二十二日）ヲ以テ始メ都テ本學年中ニ履修セシ諸課目ノ試業ヲ受ケシム、尤第一學期或ハ第二學期中ニ授業ヲ完了シタル課目ハ其之ヲ修了シタル時ニ於テ試業ヲ爲スモ妨ケナシトス

各課目實驗ノ業ニ就テハ受持教員ノ見込ニ由リ學年、試業ヲ施行セサルコトアルヘシ

但醫科大學醫學科第四年生及藥學科第三年生ニハ卒業試問ニ包含スル課目ノ學年試業ヲ施行セス

第二條　一課目ノ學期評點數ハ學期中學生平常從事ノ課業ニ就キ筆記ノ試業或ハ作業文實驗等其他受持教員ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

但何等ノ事故ニ拘ラス本條ノ評點ヲ得サルモノニハ零點ヲ付ス

第三條　一課目ノ學年評點數ハ學年ノ終リニ於テ學期評點平均數ノ二倍ニ學年試業ノ評點數ヲ加ヘ三ヲ以テ其和ヲ除シテ得ルモノトス尤一課目ノ授業一學期ニ畢ルトキハ其學期評點數ヲ以テ平均數ト看做シ本條ニ準シテ計算スルモノトス

但學年試業ヲ施行セサル各課目實驗ノ業ニ於テハ學期評點平均數ヲ以テ學年評點數トス

第四條　學年諸課目評點平均數ハ總課目ノ學年評點數（第三條ノ方法ニ依リテ得タル者）ノ數ヲ課目ノ數ヲ以テ除シテ得ルモノトス

第五條　學期評點數ハ毎學期ノ終ニ於テ各教員ヨリ學長ニ申報スルモノトシ學年試業評點數ハ試業後直チニ申報スルモノトス

第六條　學年ノ終ニハ學業ノ優劣ニ隨テ列次セル各學生ノ級表ニ及落ヲ附載シテ之ヲ掲示ス

第七條　毎學年ノ終ニ於テ左表ノ定規ニ據リ學生ヲ昇降又ハ退學セシム而シテ試業

ニ合格セサルモノハ何等ノ事故ニ拘ラス再試業ヲ受クルコトヲ得ス

諸課目評點平均數	試業ニ合格セサル課目ノ數	一課目ノ學年評點數六十以下ノ者 最下點	處分
六十以上	無		昇級
同	一課目	五十以上	同
同	同	五十以下	降級（學年試業評點或ハ學期評點平均數六十以上ナラハ）昇級
同	二課目	五十以上	同（一課目ノ學年試業評點數或ハ學期評點平均數六十以上ナラハ）年
同	同	四十以上五十以下	同（二課目共ニ學年試業評點數或ハ學期評點平均數六十以上ナラハ）年
同	同	五十以下	同
同	三課以上	六十以下	降級
五十以上六十以下	一課目或ハ二課目	六十以下	同
同	三課目以上	四十以上	同
同	同	四十以下	退學
四十以上五十以下	一課目	五十以下	降級
同	二課目以上	五十以下	退學
四十以下	一課目以上	四十以下	同

第八條　學年試業ニ缺席シタルモノハ降級セシム尤該試業ノ課目ニ就テ得タル學期評點平均數第七條ニ掲クル表ニ照ラシ昇級ノ格ニ該レハ特別試業ヲ受クルコトヲ得但特別試業ハ次學年ノ始メニ於テ施行ス

第九條　第七條ニ據リ降級シタルモノハ次學年第一學期ヨリ原級ノ全課目ヲ再修スシム

但前學年試業ニ合格シタル課目中其學年ニ於テ授業全タ畢リタルモノニ限リ平常課業ニ缺席スルヲ許スルコトアルヘシ尤平常試業並ニ學年試業ハ必ス之ヲ受ケシムルモノトス

第十條　第七條ニ據リ降級シタル者次學年ニ於テ再ヒ降級スルトキハ退學セシム

第十一條　法科大學試業規程醫科大學卒業試問規則工科大學試業規程農科大學獸醫

學年卒業規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　每學年ノ終リニ於テ文、理、農（獸醫學科ヲ除ク）科大學最終年級學期評點平均數及學年試業評點數トモ第七條ノ昇級ノ格ニ合フモノ及法科大學試業規程醫科大學卒業試問規則工科大學試業規程農科大學獸醫學科卒業規則ニ據リ卒業ノ格ニ合フモノハ帝國大學令第三條ニ依リ分科大學ヨリ卒業證書ヲ與フ

第十三條　各分科大學卒業生ハ其學科ニ隨ヒ法學又ハ（何々學士）士ト稱スルコトヲ得

第五　研究科規程

第一條　研究科ハ大學院學生及各分科大學卒業生ニシテ既修ノ學科ヲ更ニ研究スルモノヽ爲メニ之ヲ設ク但大學院學生ニアラスシテ研究生タランコトヲ願出ツルモノハ分科大學ノ都合ニ依リ許可ス

第二條　研究生ハ給費及自費ノ二種トス

第三條　給費研究生ハ特別奬勵ヲ要スル學術若クハ技藝ヲ攻究スルモノニ限リ評議會ノ議ヲ經テ分科大學長之ヲ命シ定規ノ手當及學術研究ノ費用ヲ給ス

第四條　給費研究生ハ各學資一箇月金拾五圓（一ケ月未滿ノ端數ハ日數ニ應シ日割ヲ以テ給ス）以內ヲ受ケ攻究ノ爲メ各學科ニ就キ定ムル所ノ旅費ヲ受クルコトヲ得但授業料ヲ納ムルヲ要セス

第五條　自費研究生ハ他ノ學生ト同シク授業料ヲ納メ其他學術研究ノ費用ヲ自辨セシム但場合ニヨリ評議會ノ議ヲ經テ授業料ヲ納付セシメス且旅費又ハ其他ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ給與スルコトアルヘシ又大學院學生ニシテ自費研究生タルモノハ授業料ヲ納ムルヲ要セス

第六條　研究ノ期限ハ一ケ年以內トス但大學院學生ニ限リ延期スルコトアルヘシ

第七條　研究生ニシテ品行不良學業懈怠若クハ疾病事故ノ爲メ成業ノ目的ナキモノハ評議會ノ議ヲ經テ之ヲ除名スヘシ

第八條　研究滿期ニ際シ在學中ノ履歷及研究セシ科目ニ就キ論文ヲ作リ當該教授ノ檢閱ニ供シ該教授ハ之ニ意見書ヲ付シテ分科大學長ニ出スヘシ

第九條　分科大學長ハ其在學中ノ履歷及論文ニ就テ教授ノ意見書ヲ滿足ナリト認ムルトキハ之ヲ證明シテ研究生ニ交付シ東京帝國大學總長ニ其詳細ヲ申報スヘシ

第十條　研究生ハ保證人ヲ要セス而シテ寄宿舍ニ寄宿セントスルモノハ本學ノ都

合ニ依リ之ヲ許可スヘシ

第十一條　入學ノ規程授業料ノ金額其他ノ諸規則特ニ研究生ノ爲メニ定ムルモノヽ外ハ正學生ト同シク之ヲ遵守スヘキモノトス

第六　副手規程（畧之）

第七　撰科規程

第一條　各分科大學課程中一課目又ハ數科目ヲ撰ヒテ專修セント欲シ入學ヲ願出ツルトキハ各級學正科ニ缺員アルトキニ限リ毎學年ノ始ニ於テ撰科生トシテ之ヲ許可ス

但課目ニ依リ其一部ヲ撰フヲ許可スルコトアルヘシ又所撰ノ課目學年半途ニ始ルモノナルトキハ其始業ノ前ニ於テ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條　撰科生ハ英佛獨ノ語學ヲ撰フコトヲ得ス但所撰ノ課目ヲ專修スルニ必要ナルトキハ之ヲ兼修スルコトヲ得

第三條　撰科生ハ年齡十九年以上ニシテ撰科主管ノ教授其學力ヲ試問シ所撰ノ課目ヲ學修スルニ堪フルト認ムル者ニ限リ其入ヲ學許可スルモノトス

但醫科大學醫學科ニ於テハ云々（畧之）

第四條　各分科大學ノ學生ニシテ退學セシモノ更ニ撰科生トシテ入學ヲ願出ツルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條　撰科生ハ正科生ト共ニ試業ヲ受ケ學期評點及學科試業評點トモ正科生昇級ノ格ニ合フ者ハ願ニ依リ分科大學ヨリ證書ヲ與フヘシ

第六條　入學ノ規程授業料ノ金額其他ノ諸規則特ニ撰科生ノ爲メニ定ムルモノヽ外ハ正科生ト同シク之ヲ遵守スヘキモノトス

第七條　各分科大學ノ學生ニシテ當該學級正科ノ外同學々科中若クハ他分科大學學科中ニテ二課目以内ヲ撰ヒ兼修セントヲ請フ者ハ正科並撰科主管教授ノ保證ニヨリ許可スルコトアルヘシ但自己ノ履修セル學科中上級ノ課目ヲ撰フコトヲ得ス

第八條　凡ソ所撰ノ課目ハ成業ニ至ルマテ之ヲ轉換スルヲ許サス

第九條　醫科大學ノ撰科生ニハ第四及第五條ヲ適用セス

第八　特待學生規程

第一條　學術優等品行方正ナル學生ヲ選ヒテ各分科大學ノ特待生ト爲ス

第二條　特待學生ハ毎學年末其學年試業ノ成蹟ニ依リ東京帝國大學總長ノ認可ヲ經テ各分科大學長之ヲ定ム

第三條　特待學生ハ授業料ヲ徴收セス

第四條　特待學生其學年内ニ於テ品行不良學業懈怠若クハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナキ者ハ之ヲ除名ス

第九　貸費規程及貸費生員數　（畧之）

（備考）貸費ハ分科大學々生ニシテ特別保護ヲ要スル學科ヲ修メ學力優等品行方正ニシテ學費支辨ノ途ナキモノニ支給スルモノトス現今法科大學ニ於ケル貸費生ナルモノナシ

第十　官、給、貸費停罷返納　（略之）

第十一　寄付金　（畧之）

第十二　研究生學生生徒學術研究旅行及旅費規程

第一條　分科大學研究生學生生徒學術研究ノ爲メ旅行ヲ要スルトキハ分科大學長ハ總長ノ認可ヲ經テ之ヲ命シ定額内ヲ以テ所定ノ旅費日當等ヲ支給ス

第二條　各分科大學研究生學生生徒ニ旅費ヲ支給スルトキハ左ノ定額以内ニ於テスヘシ

法學科　研究生（一年間ニ受クル金額）金五十圓

他分科　（畧之）

但學生生徒ハ第二年生以上ニ給スルモノトス特別ノ事情アルトキニ限リ第一年生ニモ及ホスコトアルヘシ

研究生學生生徒學術實地研究旅費規程（明治三十一年四月一日ヨリ施行）畧之

第十三　授業料及其他ノ費用

第一　分科大學生ノ授業料ハ一ケ月金貳圓五十錢トシ入學ノ月ヨリ退學ノ月マテ毎月之ヲ徴收ス撰科生モ亦同シ但工科大學學生ハ別ニ用品料トシテ一ケ月金壹圓ヲ納付セシム

第二　夏期休業ノ兩月即チ七月八月分及本學ノ都合ニヨリ臨時ニ全月休業スルトキハ其月分ノ授業料ヲ徴收セス

第三　學生生徒疾病其他自己ノ事故ニ依リ全月休學スルコトアルモ授業料ヲ徴收セス

第四　授業料ハ毎月定日ニ於テ帝國大學會計課ニ納ムヘシ其定日後ニ入學シタル者ハ其月ノ授業料ヲ翌月ノ定日ニ於テ納ムヘシ

第五　學生生徒ノ便宜ニ依リ數月分ノ授業料ヲ前納スルコトヲ得

但納付後何等ノ事故ヲ生スルモ既納ノ授業料ハ返付セス

第六　學生必需ノ費用ハ本學寄宿舍ニ寄宿スルト他ニ下宿スルトヲ問ハス授業料寄

宿料被服料薪炭等ノ代價ヲ合算シテ一ケ月大約十三圓内外トス

◎法科大學諸規則

◎法科大學學科及授業科目

第一　本學ニ左ノ二學科ヲ設ク

第一　法律學科

第二　政治學科

第二　法律學科授業目左ノ如シ

憲法　民法　商法　民事訴訟法　刑法　刑事訴訟法　行政法　國際公國

國際私法　法制史　比較法制史　羅馬法　英吉利法　佛蘭西法　獨逸法　法理學

法醫學（隨意）

第三　政治學科授業科目左ノ如シ

憲法　經濟學　經濟史　財政學　統計學　國法學　政治學　政治史　行政法

國際公法　國際私法　法制史　比較法制史　社會學（隨意）　法理學　民法　商法

刑法總論　刑法各論（隨意）

第四　各學科講義ノ外別ニ演習科ヲ置キ受持教員ノ見込ヲ以テ談話問答、質疑、論文等ニ依リ學生ヲ訓導ス但演習科ヲ設クヘキ科目ハ教員會ノ議決ニ依ル

第五　各學科學生ハ隨意科トシテ他ノ學科又ハ他ノ分科大學ノ講義ヲ聽聞スルコトヲ得但他ノ分科大學ノ講義ヲ聽聞セントスルモノハ法科大學長及當該分科大學長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス隨意科目ノ試業ハ其受持教員ノ許可アルトキニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

◎法科大學試業規程

第一條　試業ハ三回之ヲ行ヒ第一回試業ハ一學年以上在學ノ者第二回試業ハ第一回試業ニ及第シタル後一學年以上在學ノ者第三回試業ハ第二回試業ニ及第シタル後一學年以上在學ノ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第三回試業ヲ卒業試問トシ特ニ委員ヲ設ケテ之ヲ行ハシム

第二條　試業ハ毎年六月ニ之ヲ施行ス

但受持教員ノ見込ニ依リ臨時試問ヲ執行スルコトヲ得其點數ハ之ヲ定期試業ノ點數ニ通算ス

第三條　試業科目左ノ如シ

法律學科

第一回試業　民法　刑法(總論)　羅馬法　憲法　比較法制史　英吉利法

佛蘭西法　獨逸法

第二回試業　民法　刑法(各論)　民事訴訟法　刑事訴訟法　行政法　國際公法

法制史　英吉利法　佛蘭西法　獨逸法

第三回試業　民法　商法　國際私法　行政法　法理學　英吉利法　佛蘭西法

獨逸法

英吉利法、佛蘭西法、獨逸法ハ其一ヲ撰フヘシ但第一回試業ニ於テ英吉利法ヲ撰ヒタル者ハ後二回共之ヲ撰フヘシ他之ニ倣フ

政治學科

第一回試業　憲法　國法學　比較法制史　經濟學　民法　刑法總論

第二回試業　經濟學　經濟史　統計學　行政法　政治學　政治史　法制史

國際公法　民法

第三回試業　經濟學　財政學　行政法　國際私法　民法　商法　法理學

第四條　試業ハ各科目五十點以上諸課目平均六十點以上ヲ得タルヲ以テ及第トス但隨意科目ノ試業ハ各科目六十點以上ヲ得タルニ非サレハ及第トセス

第五條　試業ニ落第シタル者ハ同一試業期ニ再試業ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　卒業試問ニ於テハ第一回及第二回試業ノ科目ニ就テモ試問ヲ爲スヘシ

第七條　隨意科目ノ試業ヲ受ケ之ニ及第シタル者ノ卒業證書ニハ特ニ其科目ヲ記載ス

◎試業細則　(抜抄)

一、試業ハ毎年六月十五日ヨリ同月三十日マテニ之ヲ施行ス

二、隨意科ノ試業ハ六月一日ヨリ十五日マテニ之ヲ施行ス

三、試業ヲ受ケント欲スル者ハ毎年五月三十一日マテニ事務室ニ備付ケタル受驗者名簿ニ其姓名ヲ言入スヘシ

四、隨意科ノ試業ヲ受ケント欲スル者ハ受持教員ノ認印アル屆書ヲ毎年五月二十五日マテニ當該分科大學長ヘ差出スヘシ

五、試業ニ缺席シタル者ハ何等ノ事故アルニ拘ラス同一試業期ニ於テ試業ヲ受クルコトヲ得ス

◉司法省告示第九十一號

判事檢事登用試驗規則第五條ニ依リ私立學校ヲ指定スルコト左ノ如シ

關西法律學校　日本法律學校　東京法學院

獨逸學協會學校　東京專門學校　明治法律學校

慶應義塾　專修學校　和佛法律學校

明治二十六年十二月十四日

司法大臣　芳川顯正

◉司法省令第十六號

明治二十四年五月司法省令第三號判事檢事登用試驗規則第五條及第八條ヲ左ノ通改正ス

第五條　判事檢事登用試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル

一　官立學校　司法大臣ニ於テ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ三年以上法律學ヲ修メタル證書ヲ有スル者

二　外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第八條　（略之）

明治二十六年十月九日

司法大臣　芳川顯正

◉文部省令第十五號

明治二十一年文部省令第三號ニ依リ從前學則ヲ認可シタル私立學校ニシテ尋常中學校卒業ノ者若クハ尋常中學科ノ程度ニ依リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ヲ入學セシムル者ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メ仍徴兵令第十一條ニ依ルコトヲ得セシム但將來從前ノ學則ヲ變更スル場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ請フヘク地方長

官ハ之ヲ文部大臣ニ開申スヘシ

明治二十六年十一月四日

文部大臣　井上毅

◉指定法律學校現行諸規則

◉東京法學院學則（明治三十年七月改正）

綱要

本院ハ法律及政治思想ノ養成ヲ目的トシ邦語並ニ英語ノ兩法學科ヲ置キ本邦制定ノ法律及行政經濟ニ關スル學術ヲ教授シ汎ク歐米ノ法律ヲ參加講習セシメ又特ニ卒業生ノタメ高等法學科ノ制ヲ設ケ各自志望ノ課目ヲ專攻學修セシム

◎邦語法學科及英語法學科

○第一章　學科及學曆

第一條　本院ニ邦語法學科ノ二科ヲ置ク

第二條　邦語法學科及英語法學科共修業年限ヲ三ケ年トス其課程及授業時間ハ左ニ掲クル課程表ニ據ルモノトス

學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル之ヲ前後ノ二學期ニ分チ九月十一日ヨリ二月十日マテヲ前期トシ二月十一日ヨリ七月十日マテヲ後期トス

第三條　本院休業日ハ左ノ如シ

自七月十一日至九月十日　自十二月廿六日至翌年一月六日　日曜日及大祭祝日

○第二章　生徒及院友

第四條本院生徒ヲ邦語法學科生及英語法學科生ノ二種ニ區別シ更ニ其等級ヲ學年ノ數ニ準シテ第一年級、第二年級、第三年級ノ三級ニ分ツ

第五條　本院生徒ハ本院書庫ニ備付クル圖書ヲ閲覽シ本院出版ノ講義錄並ニ書籍實價ニテ買受クルコトヲ得

但授業料ニ怠納アル者ハ此限ニアラス

第六條　本院所定ノ學科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第七條　本院ノ卒業證書ヲ有スル者ハ本院々友ト爲ス院友ハ常ニ本院ニ出入シテ講師ニ就キ學術上ノ質疑ヲ爲シ若クハ本院書庫ノ圖書ヲ閲覽スルコトヲ得

○第三章　入學、在學、退學

第八條　本院ニ入學ヲ許可スルハ年齡十七年以上ノ男子ニシテ尋常中學校尋常師範學校及之ト同等以上ノ學科ヲ授クル學校ノ卒業證書ヲ有スル者若クハ左ニ掲クル

二種ノ試驗中其一ニ合格シタル者ニ限ル

甲　種

一國語　一漢文　一數學（四則、分數、比例）

一英語（但英語法學科ニ入學スル者ニ限リ試驗ス）

乙　種（在學中徵兵ヲ猶豫セラルヽモノ）

一倫理　一數學　一國語及漢文　一歷史　一地理　一博物

一物理　一化學　一圖畫　一英語

以上兩種ノ試驗共其學科程度ハ特ニ記載スルモノヽ外尋常中學校卒業ノ程度ニ據ル

第九條　入學試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ甲種ハ金參拾錢乙種ハ金一圓ヲ納ムヘシ

第十條　第二年級ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ第八條ノ資格ヲ有シ且該級生徒ノ履修シタル諸課目ニ就キ試驗ヲ經テ合格シタル者ニ限ル此試驗ヲ編入試驗ト稱シ受驗者ヨリ手數料トシテ金五拾錢ヲ納メシム

但他ノ指定學校第二年級以上ノ生徒ニシテ本院相當ノ級ニ入學ヲ請フ者ハ試驗ヲ要セスシテ之ヲ許ス然レトモ若シ本院學科中他ノ指定學校ニ於テ履修セサル課目アルトキハ該課目ニ限リ之ヲ試驗ス

第十一條　本院入學期ヲ六月九月及二月ノ三回トス然レトモ此定期外ニ補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條　入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ本院ヨリ定式ノ「在學證」用紙ヲ申受ケ之ニ規定ノ記入ヲ爲シ保證人ト連署シテ敎務係ニ差出スヘシ

第十三條　保證人ハ身元確實ニシテ東京市內ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子タルコトヲ要ス

但本院ニ於テ取調ノ上不相當ト認メタルトキハ其改選ヲ命ス此命ヲ受ケ速カニ手續ヲ爲サヽル者ハ登院ヲ停止ス

第十四條　本人若クハ保證人ニシテ姓名ヲ改メ若クハ本籍宿所ヲ移轉シタルトキハ其都度敎務係ニ届出ツヘク又死亡其他ノ事由ニ依リテ保證人ヲ變換シタルトキハ更ニ在學證ヲ差出スヘシ

第十五條　邦語法學科ヨリ英語法學科ニ轉シ又ハ英語法學科ヨリ邦語法學科ニ轉セントスル者ハ學期又ハ學年ノ終ニ於テ敎務係ニ届出テ其承認ヲ經ヘシ

第十六條　退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ上其旨ヲ敎務係ニ届出ツヘシ

第十七條　學業劣等ニシテ成業ノ目途ナキ者、品行不良ニシテ生徒ノ面目ヲ汚ス者及ヒ故ナク登院セサル者ハ退學セシム

第十八條　届出ノ有無ヲ問ハス缺席三ケ月以上ニ渉ルトキハ退學者ト看做シ學籍ヲ削除スヘシ

○第四章　試驗

第十九條　毎學年ノ終ニ於テ學年試驗ヲ擧行ス尙ホ學年中ニ學期試驗ヲ擧行スルコトアルヘシ

但學期試驗ヲ擧行セントスルトキハ三十日以前ニ其期日ヲ廣告スヘシ

第二十條　試驗ノ方法ハ筆記及口述ノ二ト爲ス

但第一年級及第二年級ニアリテハ口述試驗ヲ行ハス

第廿一條　各課目百點ヲ以テ滿點ト爲シ左表ノ定規ニ據リ及第落第ヲ定ム

諸課目得點平均數	六十點未滿課目數	六十點未滿點數	結果
六十點以上	無		及第
六十點以上	一課目	三十點以上	及第
六十點以上	二課目	三十點以上	及第
六十點以上	三課目以上	五十點以下	落第
六十點以上	一課目	三十點以下	落第
六十點以下			落第

第廿二條　疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ學年試驗ニ缺席シタル者ノ爲メ詮議ノ上次學年ノ始ニ於テ補缺試驗ヲ擧行ス

但此場合ニ於テハ手數料トシテ一課目ニ付金參拾錢ヲ納メシム

第廿三條　試驗成績ハ學業ノ優劣ニ隨テ列叙セル席次表ニ平均得點數ヲ附記シテ之ヲ掲示ス

但成績表ヲ印刷ニ付シテ各生徒ノ保證人ニ配付スルコトアルヘシ

○第五章　學費

廿四條　本院ニ入學スル者ハ束脩トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

但在院生ヨリ在外員ニ轉シ又在外員(五ケ月以上在外員ト爲リ現ニ繼續セル者ニ限ル)ヨリ在院生ニ轉スル者ハ束脩ヲ要セス

第廿五條　授業料ハ一學年金拾四圓參拾錢トシ缺課ノ有無ニ拘ハラス之ヲ左ノ二期ニ徴收ス但當分ノ内月割ヲ以テ分納スルモ妨ケナシ

第一期　九月十一日　第二期　二月十一日

明治廿九年八月以前入學ノ生徒ニ限リ授業料ハ一學年金拾壹圓トス

第廿六條　學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及退學以後ノ授業料分納金ヲ免除シ又相當ノ理由アリテ屆出ノ上缺課スル者ハ授業料分納金ノ内一ケ月分ニ限リ之ヲ免除ス

但十六日以後ニ入學シタル者ハ該月授業料分納金ノ半額ヲ納ムヘシ

第廿七條　授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日迄ニ會計係ニ納付シ之ト引替ヘニ聽講劵ヲ受取ルヘシ

第廿八條　既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス

第廿九條　授業料ニ怠納アル者ハ納付濟ノ上ニアラサレハ學期及學年試驗ニ出席スルヲ許サス

○第六章　特待生及貸費生

第三十條　學術優等品行方正ナル生徒ヲ選ヒテ本院ノ特待生トス

第卅一特　待生ハ毎學年末其學年試驗成績ニ依リ講師會議ニ於テ之ヲ定ム

第卅二條　特待生ハ授業料ヲ免除ス

第卅三　特待生ハ其學年内ニ於テ品行不良學業懈怠若クハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナキ者ト認ムルトキハ之ヲ除名ス

第卅四條　學術優等品行方正ナル生徒ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ハ貸費生トシテ本院ヨリ當該學年内年額七拾貳圓以内ヲ貸與スヘシ

第卅五條　貸費生ハ前學年ノ試驗成績ニ依リ毎學年ノ始ニ講師會議ニ於テ之ヲ定ム

第卅六條　貸費ヲ受ケント欲スル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ院長ニ宛テ差出スヘシ

第卅七條　貸費ヲ受ケタル者ハ總テ卒業後五ケ月目ヨリ貸費ヲ受ケタルト均シキ期限内ニ於テ其金額ヲ月賦返納スヘシ

第卅八條　貸費ノ許可ヲ得タル生徒ハ本院ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ左ノ證書ヲ差入ルヘシ

誓約書

拙者儀今般貴院貸費生ト相成候ニ付テハ總テ貸費規程ヲ遵奉スルハ勿論卒業ノ上ハ御貸與ノ資金規定ノ期限内ニ月賦返濟可仕此段誓約候也

何生徒
姓名 ㊞

年月日

右何某今般貴院貸費生ト相成候ニ付テハ在學中一切ノ事件ヲ引受クヘキハ勿論卒業若クハ退學ノ後貴院御貸附金返納ノ義務相怠リ候節ハ其拙者ニ於テ御辨濟可仕此段保證候也

保證人
原族籍
現住所
姓名 ㊞

東京法學院長 殿

第卅九條　貸費生ハ其學年内ニ於テ品行不良學業懈怠若クハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナキ者ト認ムルトキハ貸費ヲ止ムルモノトス

第四十條　前項ニ依リ貸費ノ停止及退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ若クハ退學スルトキハ貸與ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ

○第七章　教場心得

第四十一條　教場ニ出席スルトキハ必ス聽講券ヲ携帶スヘシ若シ之ヲ携帶セサル者アルトキハ教務係ヨリ退場ヲ命スヘシ尤モ聽講券ヲ遺失シタルトキハ其旨會計係ニ届出テ再ヒ之ヲ申受クヘシ

但聽講券ノ再渡ヲ請フ者ハ手數料トシテ金貳拾錢ヲ納ムヘシ

第四十二條　教傷ニ於テハ專ラ靜肅ヲ旨トシ講師ニ恭順ナルヘシ

第四十三條　教場ニ於テハ雜談又ハ喫烟ヲ禁ス

第四十四條　教傷ノ器物ヲ汚損スル者ハ相當ノ償金ヲ差出サシム

○第八章　補則

第四十五條　左ノ資格ヲ有シ本院ニ入學シタル者ハ徴兵令第十三條及第廿二條ノ特例ヲ受クルコトヲ得

一尋常中學校ノ卒業證書ヲ有スル者

一尋常中學校ト同一ナル程度ノ學科ヲ授クル學校ノ卒業證書ヲ有スル者

一乙種ノ入學試驗ニ合格シタル者

◎高等法學科

第一條　本院ニ高等法學科ヲ置ク

第二條　高等法學科ノ修業課目ハ左ノ七科トシ各自志望ノ課目ヲ專攻セシム

一民法　一商法　一刑法　一國法學　一國際法　一財政學　一法理學

第三條　高等法學科ノ修業年限ハ一年以上五年以下トス

第四條　高等法學科ノ入學期ハ毎年七月トス

第五條　高等法學科ハ本院卒業生ニシテ優贍ノ成績ヲ得タル者若クハ院長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許可ス

但同等學校ノ卒業生ニシテ前項ノ資格アリト認ムル者ハ又之ニ準ス

第六條　入學及退學ニ關スル邦語法學科及英語法學科ノ規則第十二條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條ハ之ヲ高等法學科ニ準用ス

第七條　高等法學科ノ授業料ハ一ケ年金拾圓トス

第八條　本院優等卒業生ニシテ院長ニ於テ適當ト認メタル者ニ限リ貸費生ト爲スコトヲ得

第九條　高等法學科生ハ本院ノ指定セル講師ノ指揮ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス

第十條　高等法學科ノ卒業試驗ハ論文試問トス

卒業論文ハ二人以上ノ專攻講師之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ一年以上修業ノ後再ヒ試驗ニ應スルコトヲ得

第十一條　高等法學科ノ卒業試驗ニ應セントスル者ハ受驗料金五圓ヲ納付スヘシ

第十二條　高等法學科ノ試驗ニ及第シタル者ニハ其專攻ニ係ル學科ノ卒業證書ヲ授與シ東京法學院學士ノ稱號ヲ認許ス

第十三條　高等法學科卒業生ハ東京法學院法學會議々員ト爲ルノ特權ヲ有ス

第十四條　高等法學科卒業生ハ東京法學院講師ニ任用スルコトヲ得

第十五條　高等法學科生ノ敎場心得ハ總テ邦語法學科生及英語法學科生ニ準ス

◎東京法學院法學會議

第一條　本院ニ法學會議ヲ置ク

第二條　法學會議ハ法學上必要ノ問題ニ付論議評決ス

第三條　法學會議ハ左ノ諸員ヲ以テ組織ス

一、本院ノ講師ニシテ學識名望アル者若クハ本院ノタメ功勞アル者

二、東京法學院學士

三、院友ト爲リテ五ケ年以上ヲ經過シ法律事務ニ功勞經驗アル者

第四條　法學會議ニ關スル細則ハ別ニ定ムル所ニ據ル

◎在外員規則

○第一欵　講義錄

第一條　遠隔ノ地方ニ在リ又ハ業務ノ爲メ參院シテ親シク講義ヲ聽ク能ハサル者ノ便ヲ計リ在外員ノ制ヲ設ケ本院ノ講義筆記ヲ印刷シテ之ヲ頒ツ

第二條　講義錄ハ第一年級第講義錄二年級講義錄第三年級講義錄ノ三種トス

第三條　第一年級講義錄ハ毎月二ノ日ニ發兌シ第二年級講義錄ハ毎月五ノ日ニ發兌シ第三年級講義錄ハ毎月八ノ日ニ發兌ス

第四條　講義錄ハ都テ一冊ノ紙數「九十ページ」以上トス

第五條　講義錄ハ講義ヲ掲載スルノ外本院ノ記事及廣告類ヲ掲載スルモノトス

第六條　在外員ノ學年ハ十月一日ニ始マリ翌年九月三十日ニ終ル

○第二欵　入學、在學、退學

第七條　何人ニ限ラス本規則ニ從ヒ在外員タラント欲スル者ハ試驗ヲ要セス何時ニテモ入學ヲ許ス

第八條　在外員タラント欲スル者ハ下ニ掲クル雛形ニ依リタル在學證ニ束脩並ニ一ケ月ノ月謝ヲ添ヘ申込ムヘシ

但月謝金ハ一度ニ數ケ月分ヲ前納スルモ妨ケナシ

在外員在學證書ノ雛形（用紙半紙）

在外員第一（若クハ二、三）年級在學證

私儀今般貴院ヘ入學御許可相成候上ハ在學中御規則堅ク相守可申候仍テ證書如斯候也

年　月　日

族籍現住所

姓　名　㊞

何年何月何日生

東京法學院御中

第九條　各級ヲ兼修スルモ妨ケナシト雖トモ各級毎ニ更ニ在學證書ヲ差出シ各別ニ入學ノ手續ヲ爲スヘシ

但各別ニ束脩ヲ要セス

第十條　本院在外員タル者ニハ其望ニヨリ在外員タルノ證ヲ附與ス

第十一條　在外員ノ教科及修業年限ハ在院生ニ準ス

第十二條　在外員ニハ其修ムル級ノ講義錄ヲ發兌毎ニ配付スヘシ

但講義錄ハ第三條ニ規定シタル期日ニ必ス發兌スヘキニ付其到着スヘキ當日ヨリ起算シ一週間ニ及フモ尚ホ到達セサルトキハ其旨本院在外員係ニ申出ツヘシ

第十三條　在外員ニシテ卒業證書ヲ得ント欲スル者ハ其學年ノ終ル前ニ申出テ各學年ノ終若クハ第三學年ノ終ニ於テ試驗ヲ受クヘシ

但試驗ハ本院內若クハ地方便宜ノ場所ニ於テ執行ス

第十四條　在外員ノ本院ニ對スル信書ハ都テ何年級在外員ノ肩書ヲ記入スヘシ

第十五條　住所ヲ轉シ又ハ氏名ヲ改稱シタル者ハ速ニ本院在外員係ヘ通知スヘシ

第十六條　退學セント欲スルトキハ其旨本院在外員係ニ屆出ツヘシ

○第三款　學費

第十七條　在外員ハ入學ノ際束脩金五十錢ヲ納ムヘシ

第十八條　在外員ハ月謝金五十錢トシ必ス毎月翌月分ヲ前納スヘシ若シ前納セサルトキハ講義錄ノ配付ヲ見合スヘシ

第十九條　將來講義錄ノ印刷費遞送費等增加スルトキハ豫メ通知シテ相當ノ增金ヲ納メシムルコトアルヘシ

第二十條　月謝金不納二ケ月以上ニ及フトキハ退學者ト看做スヘシ故ニ再ヒ送本ヲ乞フ者ハ更ニ入學ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　本人ノ都合ニヨリ退學シタルトキ既ニ領收シタル月謝金ノ殘額アレハ相當ノ講義錄ヲ送付シ現金ヲ以テ返付セス

第二十二條　月謝金ヲ爲替トシテ送致スル者ハ東京市神田區錦町二丁目二番地東京法學院會計係ヘ宛テ必ス東京市神田郵便支局ヘ向ケテ振込ムヘシ

但月謝金ヲ送致スルトキハ講義錄ノ冊尾ニ附着シタル納付證ヲ切取リ記入ノ上必ス之ヲ添フヘシ

第二十三條　東脩月謝金ハ郵便切手ヲ以テ納付スルコトヲ許サス

○第四欵　質問

第二十四條　在外員ハ講義錄ニ登載スル諸課目ニ就キ疑問アルトキハ通信ヲ以テ之ヲ質スコトヲ得

但擬律擬判ノ問ニ對シテハ一切答案ヲ付セサルモノトス

第二十五條　質問信書ニハ講義錄ノ號數（合本ニ爲シタル爲メ號數ノ見出シ難キトキハ此限ニアラス）課目頁數ヲ示シ疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第二十六條　凡テ質問ハ質問委員ニ於テ其難易ヲ判別シ主旨自ラ明瞭ナリト認メタルモノ若クハ質問通信ノ文意了解シ難キモノハ答案ヲ付セサル可シ

第二十七條　質問答案ノ參考ニ益アリト認ムルモノハ時々講義錄ノ紙尾ニ登錄スヘシ

第二十八條　質問信書ハ本院質問委員ニ宛テ郵送スヘシ

第二十九條　講義錄刊行其他在外員ニ關スル事務ハ本院夏期及冬期休業中ト雖モ取扱フヘシ

◉東京專門學校規則要領（明治三十年八月改正）

◎第一章　學曆（略之）

◎第二章　教旨、教則

一、本校ハ政治學、經濟學、法律學、文學及ヒ英語學ヲ教授スル所トス

二、本校ハ政學部、法學部、文學部、英語學部ノ四部ニ分チ、政學部ニハ政治科（英語邦語政治科）、法學部ニハ法律科、行政科、文學部ニハ文學科、選科、英語學部ニハ英語科ヲ設ク

三、英語政治科、邦語政治科、法律科、行政科、文學科ノ修業年限ヲ三ケ年、英語學部ノ修業學限ヲ四ケ年ト定メテ各一ケ年ヲ一級ニ充ツ其學年ハ九月ニ始リ翌年七月ニ終ル、又學年ヲ二學期ニ分チテ前期（自九月十一日至二月末日）及ヒ後期（自三月一日至七月二十日）トナス

四、本校法學部ニ入學シ所定ノ年限間在學卒業シタル者ハ明治二十六年司法省令第十六號判事檢事登用試驗規則ニ依リ該試驗ヲ受クルノ資格ヲ有ス

五、英語政治科、邦語政治科、法律科、行政科、文學科、英語學部ノ課程ヲ定ムルコト別表ノ如シ

◎第三章　試驗規則

一、試驗ハ學年及ヒ學期ノ二類ニ分ツ

二、學期試驗ハ二月ニ於テ前學期間修學スル所ノ全課目ニ就テ執行スル者トス

三、學年試驗ハ每學年ノ終ニ於テ之ヲ執行シ一學年間修學スル所ノ全課目ニ就テ試驗スル者トス

四、總テ評點ハ一課目ニ付一百ヲ以テ定限トス

五、各課目ノ學年及ヒ學期試驗得點ヲ合算折半シ總平均六十點以上ヲ得ルトキハ學年試驗及第トス

六、各課目共學期及ヒ學年試驗得點ヲ前後合算折半シ一課目平均五十點以上ヲ得ルニ非レハ總平均六十點ヲ得ルト雖モ學年試驗落第トス

七、各科三年級得業試驗席順ハ三學年得點ヲ通算シテ之ヲ定ム

但シ英語學部ハ此限ニアラス

八、學期試驗ニ缺席シタル者ハ六月二十日ヨリ更ニ試驗スヘシ

九、學年試驗ヲ經サル課目ハ九月八日ヨリ更ニ試驗スヘシ

但シ政、法、文ノ各學部第三年級ハ十二月十五日ヨリ試驗ス

十、第八條及ヒ第九條ニ因リ試驗ヲ施シタル課目ハ得點ノ一割ヲ減スヘシ

十一、未濟試驗指定ノ期日ヲ過クルトキハ試驗ヲ經サル課目ニ零點ヲ附シ第六條ニ因リテ落第トス

十二、試驗ノ時日評點等ハ總テ事務所ニ於テ掲示スヘシ

十三、筆墨硯及ヒ答案紙ノ外試驗室ニ携帶スルヲ許サス

十四、一度差出シタル答案ハ再ヒ改竄增訂スルヲ許サス

十五、入校試驗評點法ハ學年試驗ト同シ

十六、未濟試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ一回金壹圓ヲ納ムヘシ

◎第四章　卒業證書授與規則（畧之）

◎第五章　賞與規則

一、學年試驗ノ節最高點ヲ得タル者上席ヨリ二名若クハ三名ヲ撰ヒ優等生トス

二、各學科ノ優等生ニハ賞品ヲ與フ

◎第六章　教場規則

一、教場ニ在ツテハ總テ謹愼ニシテ粗暴ノ擧動ヲナスヘカラス

二、教場ニ在ツテハ雜談又ハ喫烟ヲ禁ス

三、教場ニ出ツルトキハ必ス洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

四、授業中ハ退席ヲ許サス、若シ不得止事故アリテ退席セント欲スルトキハ講師ノ許可ヲ請フヘシ

五、教場ニ於テ授業ヲ始ル前ニ講師ハ出席者ヲ點呼シ其勤惰ヲ記載スル者トス

但シ時宜ニ依リ其勤惰ヲ試驗成蹟ニ參酌スルコトアルヘシ

六、三日以上缺席セント欲スルトキハ其旨ヲ保證人ヨリ届出ツヘシ

七、無届缺席一ケ月ニ渉ルトキハ本校ヨリ其旨ヲ保證人ニ通知スヘシ

但シ通知ノ後尚ホ無届缺席スルトキハ除名スルコトアルヘシ

八、其月ノ定期迄ニ學費ヲ納メサル者ハ教場ニ出席スルヲ許サス

九、第八條ヲ犯シテ屢々教場ニ出席スル者ハ退校ヲ命スルコトアルヘシ

十、學年試驗未濟者ニシテ猥リニ次學期ノ授業ニ出席スル者ハ時宜ニ因リ退校ヲ命ス

十一、第八條ニ因リ授業停止中ト雖モ未納學費ヲ納ムルトキハ學期及學年試驗ニ出席スルヲ得

◎第七章　圖書室規則

一、圖書室ハ本校ノ參考圖書並ニ教課圖書ヲ貯藏スル所トス

第一款　圖書閲覽規程

二、圖書室内ニ圖書閲覽室ヲ設ケ校友及學生ニ本校貯藏ノ圖書ヲ閲覽セシム

三、評議員、講師、得業生及職員ニハ特ニ圖書ノ閲覽ヲ許ス

四、校友及學生ト雖モ同攻會々員ニ非サル者ハ同攻會備付ノ圖書閲覽ヲ許サス

但同攻會規則ハ別ニ之ヲ定ム

五、圖書ヲ紛失又ハ毀損シタル者ハ原品若クハ代金ヲ以テ辨償セシムヘシ

第二款　參考圖書貸與規程（畧之）

第三款　教課圖書貸與規程

六、各學部ニ要スル英語教科圖書ハ凡テ貸與スヘシ

七、貸與ノ教科圖書ハ一學期間手數料トシテ金若干ヲ會計係ニ納付スヘシ（時宜ニ依リテ手數料ヲ免スルコトアルヘシ）

八、教課圖書貸與ノ期限ハ一學期間トス

但シ三週日以上缺席セントスルトキハ其間貸與ノ圖書ヲ返納シ置クヘシ

九、教課圖書ハ毎學期ノ終尾（二月及七月）ニ於テ返納スベシ

期日ハ時々掲示ス

但シ臨時調査ノ爲メ返納セシムルコトアルヘシ

十、前條ニ依リ掲示シタル日限内ニ返納セサル者ハ次學期ニ於テ教科圖書ヲ貸與セス

◎第八章　學費規則

一、學生入校ノ節ハ束脩トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

二、政治科（英、邦）、法律科、行政科、文學科及ヒ英語學部（第四年級）ノ學費ヲ定ムルコト左ノ如シ

一前期　金拾圓　一後期　金九圓

但英語學部ノ第二年級及第三年級ハ前期金九圓後期金七圓五十錢トシ研究科及文學選科ハ前期金六圓後期金五圓トス

三、本校得業生ニシテ再ヒ入校シタルトキハ通常學費ノ半額ヲ納ムヘシ

四、學期ノ始ニ於テ學費ヲ前納シ得サルトキハ特ニ毎月金壹圓八拾錢ヲ、分納スルヲ許ス

但シ英語學部第二年級第三年級ハ毎月金壹圓五十錢、研究科及文學選科ハ金壹圓ヲ、分納スルヲ得

五、學費ハ左ノ期限内ニ納ムヘシ

一前期　九月十五日　一後期　三月三日

六、學費ヲ分納スルトキハ毎月三日ヲ限リ會計係ニ納ムヘシ

但シ一月及九月分ハ同月十五日七月分ハ六月二十五日ヲ期限トス

七、事故アリテ休業スル者ト雖トモ在校中ハ必ス學費ヲ徴收スル者トス

八、學期ノ中途入校若クハ退校スルトキハ特ニ入校前月以前及ヒ退校翌月以後ノ分納金ヲ免除ス

但シ校則ニ觸レ退校ヲ命シ若クハ除名スル者ハ退校以後ノ分納金ヲ免納スルノ限リニアラス

◎第九章　寄宿舍規則（抜抄）

一、入舍セント欲スル者ハ入舍願ヲ本校事務所ニ差出シ在學ノ證明ヲ受ケ然ル後之ヲ舍長ニ差出スヘシ

二、寄宿生毎日外出時間ハ午前四時ヨリ午後十一時迄トス

但シ不得止事故アリテ定刻以外ニ歸舍シ又ハ外出ヲ要スル者ハ其事理ヲ舍

長ニ届出テ許可ヲ得テ出入スヘシ

三、舍長ハ寄宿生ノ勤怠及品行ニ關シ時々幹事及保證人ニ報告ヲ爲シ幹事ハ本人ニ接見シテ之ヲ審査スルコトアルヘシ

四、年少者ハ勿論青年ト雖トモ父兄及保證人ヨリ特別ノ依賴アル者若クハ舍長ヨリ其必要アリト認ムル者ニ限リ舍長ハ父兄及保證人ト協議ノ上相當ノ監督ヲ爲スヘシ

五、本人又ハ父兄保證人ヨリ特別ニ學資監督ノ依賴アル者若クハ舍長ヨリ必要ト認メタル者ハ舍長ニ於テ其監督ヲ爲スヘシ

六、舍費月俸一月分左ノ如シ

一舍費　金六拾錢　一月俸　金四圓

◎第十章　入校、退校規則

一、左ノ各學科ハ共ニ毎二月、六月及ヒ九月ニ於テ第一年級及ヒ第二年級ノ入校試驗ヲ執行ス

一政治科（英語、邦語政治科）
一法律科
一行政科
一文學科
一英語學部

但シ中途入學ヲ乞フ者ハ各邦語科第一年扱ニ限リ假入校ヲ許シ傍聽生トナシテ入校試驗ノ期日ヲ待タシムルコトアルベシ又各邦語科中ノ英語ノ學力試驗ハ入校ノ上執行ス

二、英語政治科、文學科第一年級ニ入學セント欲スル者ハ英語學部第三年級ノ成業者若クハ之ト同等ノ力アル者タルベシ

三、邦語政治科、法律科、行政科入校試驗科目左ノ如シ

一國語（漢字交リ文）　一漢文（日本政記、文章軌範ノ類）
一日本歴史　一數學（四則、分數、比例）

四、左ノ試驗ヲ經テ法學部（法律科、行政科）ヘ入學スル者ハ第五條ノ資格ヲ有スルト共ニ明治二十六年十一月文部省令第十五號第二項ニ依リ徴兵令第十一條及第二十一條ノ特例ヲ受クルコトヲ得

一倫理　一數學　一國語及漢文　一歴史　一博物

一物理　一化學　一圖書　一地理　一英語

五、左ノ資格ヲ有スル者ハ試驗ヲ要セス各邦語科第一年級並ニ英語學部第二年級ヘ入校ヲ許ス

一尋常中學校卒業證書ヲ有スル者

一尋常中學校ト同一程度並ニ其以上ノ學科ヲ授業スル學校ノ卒業證書ヲ有スル者

六、各邦語科第二年級ニ入學セント欲スル者ハ入校試驗及第ノ上更ニ第一年級全課目ニ就テ試驗スヘシ

七、英語學部各年級ハ相當ノ學力試驗執行ノ上入校ヲ許ス

八、第四條ノ入校試驗及各邦語科第二年級編入試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金壹圓ヲ納ムベシ

九、入校ヲ請フ者ハ入校試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘテ之ヲ差出シ許可ヲ得タルトキハ直チニ保證人ヨリ入學證書ヲ差出スヘシ

但シ入學證用紙ハ事務所ニ於テ受取ルヘシ

入學試驗願及學業履歷書（用紙半紙）書式畧之

十、保證人ハ身分確實ニシテ府下ニ於テ一家計ヲ立ツル者タルベシ

十一、入校セント欲スル者ハ年齡滿十七年以上ノ男子タルルヘシ

但シ英語學部ニ限リ滿十四年以上ナレハ入校スルヲ得

十二、各邦語科ヲ卒業シタル者ハ試驗ヲ要セス英語政治科、文學科第一年ヘ入學ヲ許ス

十三、病氣等ノ事故アリテ退校セントスルトキハ保證人ヨリ屆出ツヘシ

十四、校舍及ビ器具、庭園及ビ樹木其他都テ本校ノ所有ニ係ル物品ヲ汚損シ若クハ破毀スルトキハ其損害ヲ賠償セシム、且其事情ニ因リテハ更ニ退校ヲ命スルコトアルヘシ

十五、怠惰不品行ニシテ成業ノ見込ナキ者、校規ニ背キ又ハ校命ヲ奉ゼサル者、法律ニ抵觸スル嫌アル者等ハ退校ヲ命ス

◎第十一章　文學部選科規則

◎第十二章　特別科規則　（畧之）

一、政學、法學、文學、英語學ノ四學部ニ特別科ヲ置キ若干ノ課目ヲ定メ之ヲ傍聽セシム

但シ同一學科ノ内、他級ノ傍聽ヲ許サズ

二、特別科課目ハ各本科學課表ノ終ニ記載ス

三、特別科ヲ傍聽セントト欲スル者ハ豫メ事務所ニ屆出ベシ

◎第十三章　研究科規則（明治二十六年創定、同九月ヨリ實施）

一、研究科ハ本校得業生ニシテ既修ノ學科ニ就キ尙深ク研究ヲ爲サントスル者ノ爲ニ之ヲ設ク

二、研究科ハ本校得業生ニシテ平生品行方正、學業優等他日大成ノ見込アル者ハ本人ノ志願ニ依リ其部委員ノ協議ヲ經テ入學ヲ許ス者トス

三、本校ハ研究科學生ノ研究セント欲スル學科ニ關シ其學部ノ講師中ヨリ其指導ヲ擔當スヘキ者ヲ指定スベシ、研究科學生ハ其指導ニ從ヒ研究ノ業ニ從事スル者トス

四、研究科ノ期限ヲ二ケ年トス

五、研究科學生ハ研究滿期ニ際シ在學中專攻セシ課目ニ就キ論文ヲ作リ指導講師ノ檢閲ニ供スヘシ指導講師ハ之ニ意見ヲ附シテ本校ニ差出スヘシ

六、本校ハ研究科學生ノ論文ヲ其指導講師ノ意見ト共ニ其學部委員ノ審査ニ附シ其報告ニ因テ本人ニ對シ研究科卒業ノ事ヲ證明ス

七、研究科ヘ入學セントスルモノハ既修ノ學科中ヨリ其特ニ專攻セント欲スル課目ヲ撰定シ入學願書ヲ差出スヘシ

八、研究科ノ學費ハ各本科ノ學費ト同額トス

但學費納付ノ手續等ハ一般ノ校則ニ據ルヘシ

九、研究科學生ハ常ニ研究室ニ出席シテ其學業ニ從事スル者トス、而シテ參考書籍ハ特ニ研究科學生ノ爲メニ規定シタル圖書室規則ニ從ヒ閲覽スルコトヲ得

十、研究科學生ハ本校ノ許可ヲ得テ本校ノ授業ヲ傍聽スルコトヲ得

十一、都テ研究科學生ハ他學生ト同シク一般ノ校則ヲ遵守スヘシ

◎第十四章　寄宿舍規則（畧之）

◎第十五章　體育部規則（畧之）

◎第十六章　校外生規則

第一條　本校ハ政治、經濟、法律、行政、文學諸科ノ發達普及ヲ企圖シ登校シテ親シク講義ヲ聽聞スルコト能ハザル者ノ爲メニ講義錄ヲ發行ス之ニ依リテ修學スル者ヲ校外生トス

第二條　校外生ハ入學試驗ヲ要セス何時ニテモ各科一年級若シハ志願ニ依リ直チニ二年級三年級ヘ入學スルヲ許ス但シ左ノ雛形ニ從ヒ束脩及月謝ヲ添エ申込ムベシ

校外生入學證（用紙ハ美濃紙三ツ切）

印紙

私儀今般　科第　年級ヘ入學相願候上ハ御校規則固ク遵守可致候仍テ入學證如斯候也

年　月　日

族籍宿所

姓　名　㊞

東京專門學校御中

第三條　校外生ノ在學年限ハ三ケ年トシ其學年ハ十月ニ初メ翌年九月ニ終ルモノトス

第四條　政治經濟、法律、行政科講義錄掲載課目ハ正科、飜譯、參考ノ三課目ニ分チ正科課目ハ校內生ノ修ムル正課講義及ヒ各科專攻ノ博士學士ノ執筆ニ係ルモノヲ掲ケ飜譯課目ハ歐米諸大家ノ新著ヲ選擇シ當擔講師自身執筆ニ任シ又參考課目ハ內外ノ博士學士ガ本校科外講筵ニ於テ講述シタルモノ及ヒ政治、經濟、法律學ニ關スル歐米最新ノ學說ヲ掲載シ尙外ニ英語學講義ヲ載ス

第五條　文學科講義錄掲載正課目ハ講義評釋ノ二目ニ分チ本校講師及講述擔任者ノ編著ニ係ルモノヲ載ス又參考科ヲ置キ泰西諸國ノ名著ヲ譯載シ尙ホ本校科外講筵ノ講義及文學上歐米ノ學問社會ニ現ハルヽ諸般ノ有益ナル學說ヲ掲載ス

第六條　校外生三學年順次講修ヲ終ヘタルモノ其卒業證書ヲ受ケント欲スルトキハ試驗ノ上之ヲ與フベシ但試驗期日及手續ハ學年ノ末ニ講義錄ヘ廣告ス

第七條　校外生卒業試驗ハ通信試驗トシ申込ニ依リ試驗問題ヲ本人ニ送付シ答案ヲ徵スル者トス

第八條　校外生卒業試驗ニ及第シタル者ハ本校准校友トシ永ク本校トノ關係ヲ保タシム

第九條　政治經濟、法律、行政科校外生ニシテ校內生ヘ轉セントスル者ハ學力ニ應シ第一年級ヨリ第二年級迄ニ編入シ校外生卒業證書ヲ有スル者ハ二年級ハ無試驗又三年級ハ本校ニ於テ必要ト認ムル課目ニ就キ試驗ノ上編入スベシ但シ入校ノ節更ニ束脩金五拾錢ヲ徵ス

第十條　文學科校外生ハ校内二年級以上ニ編入ヲ許サズト雖モ其卒業證書ヲ有スル者ハ特ニ文學選科ヘ無試驗ニテ編入スベシ但シ束脩前項ニ同シ

第十一條　校外生ニハ本校々外生タル證票ヲ附與スベシ

第十二條　校外生ニ對シ毎年一回懸賞問題ヲ出シ論文ヲ起草セシメ優等者ヲ左ノ三等ニ分チ月謝ヲ免除シ且其論文ハ本講義錄又ハ本校刊行ノ各雜誌ニ掲載スルコトアルベシ

甲賞一ケ年分月謝　乙賞六ケ月分月謝　丙賞三ケ月分月謝

第十三條　校外生ハ本校内ニ於テ施行スル科外講義及演說討論等ヲ傍聽シ且何時ニテモ本校教場ヲ參觀スルコトヲ得但シ校外生證票ヲ携帶スヘシ

第十四條　講義錄ヲ分チテ四種トシ政治經濟科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ政治經濟科講義錄トシ法律科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ法律科講義錄トシ行政科校外學科講義錄ト稱ス

第十五條　講義錄ハ毎月二回之ヲ發兌ス而シテ其定日ハ政治經濟科ハ二ノ日法律科ハ五ノ日行政科ハ六ノ日文學科ハ八ノ日トス但シ講義錄一冊ノ紙數ハ十四行三十五字詰ニテ壹百頁以上トス

第十六條　講義錄ハ定日發行スト雖モ其常ニ到着スベキ日ヨリ七日ヲ經過スルモ尚不着ノ時ハ其旨ヲ本校ニ通知スベシ

第十七條　各科若クハ各級講義錄ヲ同時ニ講習スルハ妨ゲナシト雖モ一學科毎ニ入學證ヲ差出スベシ

第十八條　校外生タラント欲スル者ハ束修金五拾錢ヲ納ムベシ但シ數科ヲ併修スルモ之ヲ倍スルヲ要セス

第十九條　本校々友准校友ノ紹介ヲ得テ入學スル者及軍人ハ特ニ其束修ヲ免除ス

第二十條　校外生ハ各學科一年級毎ニ月謝金五拾錢ヲ納ムベシ

第二十一條　一時ニ二ケ月分以上ノ月謝ヲ納ムル者ハ特ニ左ノ割合ヲ以テ講義錄ヲ配付スベシ但シ各科一年級毎ニ此ノ割合ヲ以テ納ムルモノトス

三ケ月分金壹圓四拾錢　六ケ月分金貳圓七拾五錢　壹ケ年分金五圓五拾錢

第二十二條　月謝ハ必ス前月中ニ納ムベシ但シ前納セザルモノニハ講義錄ノ配付ヲ停止ス

第二十三條　束脩幷ニ月謝ハ郵便切手ヲ以テ納ムルコトヲ許サズ

第二十四條　東脩幷ニ月謝ハ爲替又ハ通運便ニテ拂込ムモノハ受取人ヲ東京牛込早稻田東京專門學校幹事ト認メ且爲替拂渡局ハ東京牛込支局宛ニテ納ムベシ但シ東京市內ハ通知次第本校ヨリ係員派出シ受納スベシ

第二十五條　月謝ヲ拂込ムトキハ引續キ講義錄ヲ配付スルヲ以テ別ニ受領證ヲ出サズ但シ月謝盡キタル時ハ封紙ニ朱印丸形ノ章ヲ押捺シ之ヲ通知スベシ

第二十六條　本人ノ都合ニ依リ中途退學スル者既ニ領收シタル月謝ノ殘餘アルトキハ之ニ對スル講義錄ヲ配付シ現金ノ返戻ヲ爲サズ

第二十七條　月謝不納ノ爲メ六ケ月間講義錄ノ配付ヲ停止シタル時ハ退學者ト見做シ更ニ入學ノ手續ヲナスニ非ザレバ講義錄ヲ配付セズ

第二十八條　中途入學シタル校外生ニシテ入學前ノ講義錄ヲ購修セントスル者ハ十月分ヨリノ月謝ヲ納ムルトキハ第一號ヨリ配付スベシ

第二十九條　講義錄中ニ疑問アルトキハ通信ヲ以テ質問スルヲ得但シ質問書ハ一學科每ニ別紙ニ認メ且ツ講義錄ノ號數並ニ頁數ヲ示スベシ

第三十條　質問ノ趣旨不明瞭ナルトキ講義ノ意義了解シ易キトキ又ハ講義錄以外ニ亘ルトキ及ビ擬律擬判ノモノト認ムルトキハ答案ヲ與ヘザル可シ

第三十一條　質問ニシテ有益ナリト認ムルモノハ其答案ヲ講義錄ニ揭載シ各自ノ參考ニ供スベシ

第三十二條　往復通信等ハ總テ何學科何年級何誰ト明記シ東京牛込早稻田東京專門學校講義錄係宛ニテ差出スベシ

第三十三條　校外生ニシテ住所姓名等ヲ變更シタル時ハ直ニ其旨ヲ通知スベシ

◉慶應義塾大學部規則（明治　年　月改正）

第壹章　學年、學期及休業

第一　學年ハ五月一日ニ始マリ翌年四月二十五日ニ終ル

第一學期ハ五月一日ヨリ七月二十五日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月二十五日ニ至リ第三學期ハ一月十一日ヨリ四月二十五日ニ至ル

第二　大祭日、日曜日、及前記學期間ノ日子ハ休業トス

第貳章　入學及退學

第一　入學ノ期ハ每學年ノ終リ一回トス

第二　各科第一年扱ニ入ルヲ得ルモノハ本塾卒業證書ヲ受領シタルモノ若クハ大學

部入學試驗ニ及第シタルモノトス

但本塾別科卒業證書ヲ受領シタルモノハ入學試驗科目ノ內數學、英語學ノ二科ヲ試驗シ及第シタルモノニ限リ入學ヲ許ス

第三　本塾卒業生ニテ志願スル者ト入學試驗及第者ノ合計一級ノ生徒定員ニ超過スルコトアルトキハ先ツ本塾卒業生ノ入學ヲ許シ次ニ最高點ノ者ヨリ順次及第者ノ入學ヲ許ス

但每學年末本塾卒業生ヲ除キ募集スヘキ生徒ノ數ハ其都度之ヲ廣告スヘシ

第四　入學ヲ志願スル者ハ第一號書式ニ準シ入學申込書ヲ塾監局ヘ差出スヘシ

第五　入學志願ノ者ハ入學試驗執行ノ前日迄ニ定期ノ受驗料ヲ會計局ニ拂込ムヘシ

但自己ノ都合ニ依リ試驗執行ノ前ニ入學申込ノ取消ヲ乞フコトアルトキハ既納ノ受驗料ハ之ヲ返付スヘシ

第六　入學ノ許可ヲ得タルモノハ東京又ハ横濱住居ニテ本人ノ身上ニ事故アルトキハ之ヲ引受處理スヘキ者ヲ保證人トシ第二號書式ニ準シ入社證書ヲ塾監局ヘ差出スヘシ

但保證人變換又ハ保證人轉宅死亡等ノ場合ニハ速ニ届出テ入學ノ時ト同樣ノ手續ヲ爲スヘシ

第七　入學ノ時定規ノ入社金ヲ會計局ヘ納ムヘシ

第八　退學セント欲スルモノハ保證人連署ノ上塾監局ヘ申出許可ヲ得ヘシ

第一號書式（入學志願書）　第二號書式（入社證書）　第三號書式（退學願）　之ヲ略ス

第參章　休學

第一　生徒病氣又ハ止ヲ得サル事故アリテ欠席スルコトアルトキハ其都度受持教員ヘ届出ツヘシ

第二　欠席一ケ月以上ニ及フトキハ塾監局ニ届出テ休學ノ許可ヲ得ヘシ

第三　休學一ケ年ニ亘ルモノ又ハ退學ノ許可ヲ得タルモノ更ニ入學ヲ請求スルトキハ原級第一期ヨリ修學セシム

第四章　各科各級學生定員

第一　各科各級學生定員ヲ三十五名トス

第五章　試業及卒業

第一　各學年ノ試業ニ及第及落第ヲ定ルニハ其正課目每週十八時以上ナレハ單ニ正

課目ノミノ評點ニ依リ若シ又其正課目十八時間以下ナレハ隨意課目ノ評點ヲ合算スルモノトス但シ第一例ニ於ル正課目外ノ隨意課目ト第二例ニ於ル正課、隨意合算二十時間外ノ隨意課目ハ單ニ其課目ノミノ及落第ヲ定ルモノトス

第二　各課生ノ履修シタル隨意課目ハ其卒業證書中ニ之ヲ明記スヘシ

第三　試業ハ期末試業ト年末試業トノ二種ト爲ス

第四　課目ニ依リ教師ノ見込ヲ以テ或ハ平常點ノミヲ採ルモノアリ或ハ期末試業ノミニシテ年末試業ヲ欠クモノアリ或ハ期末、年末ノ試業アリテ平常點ヲ採ラサルモノアリ

第五　一課目ノ試業點數ハ各々其課目ヲ終ルノ日（一學年以上ニ亘ルノ課目ハ一學年ヲ以テ滿點數ヲ定ム）ヲ以テ平常點數及期末試業點數ヲ合算シ滿點數ヲ百トナシ之ニ年末試業滿點數五十ヲ加ヘテ百五十ヲ滿點數ト爲シ單ニ年末試業ノミヲ爲スモノハ滿點數ヲ百ト爲ス

第六　每學年ノ終リニ左ノ定規ニ依リ各學生ノ及第及ヒ落第ヲ定ム

第七　平常點期末及年末試業ニ於テ一課目合算點數全科ヲ通シテ皆六割以上ニ達スルモノハ及第トス

第八　平常點、期末及年末、試業ニ於テ全科ノ得點ヲ合シ滿點數ノ七割以上トナルトキハ及第トス

第九　前項ノ場合ニ於テ四割以下ノ點數二課目アルモノ及三割以下ノ點數一課目アルモノハ落第トス

第十　總テ試業ニ欠席シタルモノハ零點トス

第十一　學生中證明シ得ヘキ疾病事故アリテ年末試業ニ出席スル能ハサルトキ若シ其學生平生點數及期末試業ノ得點數滿點ノ六割以上ナルモノニ限リ次學年ノ始メニ特別ノ試業ヲ受ルヲ得但此場合ニ於テハ定規ノ受驗料ヲ納ムルモノトス

第十二　各科共ニ第三ノ終リニ和文或ハ英文ノ卒業論文ヲ作ラシメ其滿點ヲ二百トス

第十三　各科第三年ノ終リニ及第點ヲ得タルモノヘハ卒業證書ヲ授與シ科別ニ從ヒ私立慶應義塾文學士、法律學士、理財學士ト稱ス

第六章　優待生

第一　學業優等品行方正ナルモノヲ撰テ優待生トナス

第二　優待生ハ授業料ヲ要モサルモノトス

第三　優待生タル者其行狀ノ奈何ニ依リ優待ヲ失フコトアルヘシ

第七章　入社金、授業料其他ノ費用

第一　入學受驗料ヲ金一圓トス

第二　入社金ヲ金三圓トス

第三　授業料ヲ一ケ年金三拾六圓トシ之ヲ三期ニ分チ毎學期ノ初メ金拾二圓ヲ前納セシム

但一學期ノ中途ニテ休業又ハ退學スルコトアルモ既納ノ授業料ハ一切返金セサルモノトス

第四　休學又ハ退學ノ許可ヲ得タルモノハ全ク出席セサル學期ノ授業料ヲ納ムルニ及ハス

第五　教場費トシテ一學期金一圓ヲ納ムヘシ

第六　體育會費トシテ毎月金拾錢ヲ納ムヘシ

第八章　各科課程

文學科課程及理財學科課程（略之）

法律科課程（別表ニ掲載ス）

第九章　課程附則（略之）

第十章　入學試驗

			滿點
一漢書	（白文訓讀）	同	一〇〇
一地理	（英語或ハ邦語ニテ筆答スヘシ）	同	一〇〇
一歷史	（同上）	同	一五〇
一物理及化學	（同上）	同	一五〇
一數學	（同上）	同	一五〇（算術五〇代數五〇幾何五〇）
一英文	（問題ノ個ニ數字ヲ以テ直譯ノ順序ヲ記シ別ニ邦語ヲ以テ之ヲ意譯スヘシ）	同	三〇〇
一和文英譯		同	二〇〇
一英語書取		同	一五〇
一日本作文及手跡		同	一五〇

法律科滿點千四百五十點

◉日本法律科規則

日本法律科入學試驗科目ハ大學部入學試驗科目中英文和譯、和文英譯、英語會話ノ三

科ヲ除ク

日本法律科授業料ハ一个年金二十一圓ニシテ毎期金七圓ヲ前納セシム

其他總テ大學部規則ニ同シ

◉明治法律學校規則（明治三十年八月改正）

○第一章　總則

第一條　本校ハ本邦制定ノ法律及行政經濟ニ關スル學術ヲ教授シ傍ラ外國ノ法律及經濟ニ關スル學理ヲ參照攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條　本校修業年限ハ三ケ年トス

第三條　本校所定ノ學科ヲ修メ定期ノ試驗ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條　本校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ本校々友ノ身分ヲ得有ス

但校友ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　本校出版部ニ於テハ講師ノ著書其他學生ニ必要ナル著書及ヒ各學科ノ講義ヲ筆記出版シ本校々友及ヒ學生ニ限リ實費ヲ以テ之ヲ頒ツ

第六條　本校々友及ヒ學生ハ圖書閲覽規則ニ從ヒ總テノ圖書ヲ閲覽スルコトヲ得但授業料怠納者ハ此ノ限リニアラス

第七條　本校ニ法律學科ノ外高等研究科、外國語學科、漢文學科及普通學科ヲ置ク

○第二章　學科、學年、學期

第八條　本校ニ於ケル教授科目左ノ如シ

憲法、法學通論、法例、民法、商法、裁判所構成法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、行政法、國際公法、國際私法、法理學、經濟學、財政學、擬律擬判、各學年ニ於テ教授スル科目ハ別表ニ於テ之ヲ定ム

第九條　本校ニ於テハ時々大討論會及講談會ヲ開キ學科ニ關スル問題ニ就キ法理ヲ討究セシメ又訴訟演習會ヲ開キ訴訟ニ關スル實務ヲ練習セシム

第十條　修業年限ヲ別チテ三學年トス

學年ハ毎年九月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第十一條　一學年ヲ別チテ二學期トス第一學期ハ毎年九月十一日ニ始マリ翌年二月十日ニ終ル第二學期ハ毎年二月十一日ニ始マリ同年七月十日ニ終ル

第十二條　冬期休業ハ毎年十二月二十六日ヨリ翌年一月六日迄トシ夏期休業ハ毎年七月十一日ヨリ九月十日迄トス

第十三條　日曜日大祭日及祝日ハ休業トス

○第三章　入學、在學、休學、退學

第十四條　本校ノ學生タラントスル者ハ年齢十七歳以上ノ男子ニシテ左ノ二種ノ試驗中其一ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第一種　一國語（片假名交文）　一漢文（白文訓點）　一數學（四則、分數、比例）

第二種　一倫理　一數學　一國語及漢文　一歴史　一地理　一博物　一物理

一化學　一圖書　一外國語

第二種ノ試驗ニ合格シタル本校學生及ヒ尋常中學校尋常師範學校若クハ之レト同等ナル程度ノ學科ヲ授クル學校ノ卒業證書ヲ有スル本校學生ハ徴兵令第十三條及ヒ第二十三條ノ特例ヲ受クルコトヲ得

第十五條　左ニ掲クル者ハ入學試驗ヲ要セスシテ本校ノ學生タルコトヲ得

一　尋常中學校尋常師範學校及之レト同等若クハ同等以上ノ學科ヲ授クル學校ノ卒業證書ヲ有スル者

二　他指定法律學校ノ學生タリシ者

第十六條　第十四條又ハ第十五條ノ資格ヲ有スル者ニシテ本校ノ編入試驗ニ合格シタル者ハ直チニ本校第二學年ニ入學スルコトヲ得

他指定法律學校第二年級以上ノ學生ハ試驗ヲ要セスシテ本校相當ノ學年ニ入學スルコトヲ得

但本校學科中他ノ指定法律學校ニ於テ修業セサル科目アルトキハ其科目ノミニ關スル編入試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第十七條　入學ヲ請フ者ハ本校ヨリ入學請求用紙ヲ受取リ之レニ所定ノ記入ヲ爲シ本校學務課ヘ差出スヘシ

第十八條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ本校ヨリ在學證用紙ヲ受取リ之レニ所定ノ記入ヲ爲シ保證人連署ノ上學業履歴書ヲ添ヘ之ヲ本校學務課ヘ差出スヘシ

但保證人ハ身元確實ニシテ東京市内ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ戸主タルコトヲ要ス

第十九條　本校ニ於テ保證人ヲ調査シ不相當ト認ムルトキ又ハ保證人ニ於テ東京市外ニ移轉シタルトキハ其改選ヲ爲サシム若シ速ニ改選セサルトキハ昇校ヲ停止スヘシ

第二十條　本人又ハ保證人カ氏名ヲ改メ又ハ本籍若クハ宿所ヲ移轉シタルトキハ直

ナコ其旨ヲ學務課ヘ届出ツヘシ

但死亡又ハ其他ノ事由ニ依リ保證人ヲ改選シタルトキハ更ニ在學證ヲ差出スヘシ

第二十一條　在學生疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ滿六ケ月以上修學スルコト能ハスト思料スルトキハ本校ノ許可ヲ得テ該學年間休學スルコトヲ得

第二十二條　休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年級ニ入リ修學スルコトヲ得

但休學學年間ト雖トモ其事故止ミタルトキハ本校ノ許可ヲ得テ教場ニ出席スルコトヲ得

第二十三條　退學セントスル者ハ保證人連署ノ上其旨ヲ本校ヘ届出ツヘシ

第二十四條　三ケ月以上引續キ欠席シタル者又ハ學費ヲ納メサル者ハ退學ト看做シ學籍ヨリ除名スルコトアルヘシ但滯納ノ學費ハ之ヲ追納セシム

第二十五條　卒業ノ見込ナキ者品行不良ノ者ハ退學ヲ命ス

本校ノ規則又ハ職員講師ノ指揮命令ニ違背シタル者ハ退學ヲ命シ又ハ昇校ヲ停止ス

第二十六條　品行不良ノ爲メ退學ヲ命セラレタル者ハ五ケ月ノ後本人ノ行狀ヲ證スル特別ノ保證人ヲ立テ再ヒ入學ヲ請フトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第廿七條　本校ニ於テ退學ヲ命シタルトキハ其旨ヲ保證人又ハ其父兄ニ通知ス

○第四章　試驗

第廿八條　試驗ヲ分ツテ入學試驗、編入試驗、學期試驗及ヒ學年試驗ノ四トス

第廿九條　入學試驗ハ第十四條ニ掲ケタル第一種又ハ第二種ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

但第二種試驗ハ尋常中學校ノ卒業程度ニ據ル

第三十條　入學試驗ハ毎年二月及ヒ九月ノ兩度トス但定期外ニ補欠トシテ臨時入學試驗ヲ行フコトアルヘシ

第三十一條　編入試驗ハ第十六條第一項ノ場合ニ於テハ第一學年ノ學科ニ就キ同條第二項ノ場合ニ於テハ其修業セサル科目ノミニ就キ臨時之ヲ行フ

第三十二條　學期試驗ハ毎年二月及ヒ七月ニ於テ其學期間ニ修業シタル科目ニ就キ之ヲ行フ但場合ニ依リ學期試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

二月及ヒ七月ニ於テ學期試驗ヲ行フタルトキハ其二回ノ試驗ヲ以テ學年試驗ニ代フルコトヲ得

第三十三條　學年試驗ハ毎年七月其學年間ニ修業シタル科目ニ就キ之ヲ行フ但第三學年試驗ニ於テハ前二學年間ニ修業シタル科目中ノ一科又ハ二科目ニ就キ口述試驗ヲ行フ

第一學年ノ試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ第二學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス又第二學年ノ試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ第三學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條　疾病其他已ムヲ得サル事故ニ依リ學年試驗ニ欠席シタル者ハ臨時學年試驗ヲ受クルコトヲ得但保證人ノ連署ヲ以テ欠席ノ理由ヲ證明スルコトヲ要ス

學年試驗ニ落第シタル者ハ本校ニ於テ特ニ臨時學年試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三十五條　臨時學年試驗ハ次學年ノ始メニ於テ之ヲ行フ

第三十六條　試驗ハ筆記及ヒ口述ニ依リテ之ヲ行フ但口述試驗ハ當分ノ内第三學年試驗ニ限リ之ヲ行フ

第三十七條　試驗點數ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ六十點ヲ以テ及第點トシ平均六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但平均點數六十點ニ達スルモ三科目以上四十點以下ノモノアルカ又ハ一科目三十點以下ノモノアルトキハ落第トス

○第五章　教場心得

第三十八條乃至第四十一條（掲載省畧）

○第六章　學費

第四十二條　入學スル者ハ入學金貳圓ヲ納ムヘシ但校外生ハ六ケ月以上其身分ヲ有シ且ツ現ニ校外生タル者ニ限リ入學金ヲ納ムルコトヲ要セス

第四十三條　授業料ハ前月末日迄ニ納ムヘシ若シ納付セサルトキハ聽講ヲ停止ス

第四十四條　學生ハ一ケ月授業料金壹圓參拾錢ヲ納ムヘシ但毎年八月ハ授業料ヲ徵收セス

十六日後ニ入學スル者ハ該月ニ限リ授業料ノ半額ヲ減ス

第四十五條　學生在學中ハ欠席全月ニ亘ル時ト雖モ授業料ヲ徵收ス但第二十一條ノ場合ハ此限リニアラス

第四十六條　第十四條ニ掲ケタル第二種試驗及第三十條ニ掲ケタル編入試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗料金壹圓ヲ納ムヘシ

第四十七條　第三十四條及第三十五條ノ規定ニ據リ臨時學年試驗ヲ受ケントスル者

ハ受驗料金貳圓ヲ納ムヘシ

○第七章　優待生

第四十八條　學術優等品行方正ナル學生ヲ選ヒテ優待生ト爲ス

第四十九條　優待生ハ毎學年末其學年試驗ノ成蹟優等ナル者ニ就キ講師會ニ於テ之ヲ定ム

第五十條　優待生ハ授業料ヲ徴收セス

第五十一條　優待生其學年內ニ於テ品行不良學業怠惰ナルトキハ其待遇ヲ停止ス

○第八章　貸費生

第五十二條　學術優等品行方正ナル學生ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ハ貸費生トシテ本校ヨリ當該學年內左ノ金額ヲ貸與スヘシ

一金七拾九圓拾錢也

內譯

一金拾四圓三拾錢（授業料年額）　一金四圓八拾錢（舍費年額）

一金四拾貳圓（寄宿舍食費年額）　一金六圓（筆紙墨料年額）

一金拾貳圓（小遣料年額）

第五十三條　貸費生ハ前學年ノ試驗成蹟ニ依リ講師會ニ於テ之ヲ定ム

第五十四條　學資乏シキ學生ハ講師會ニ於テ其卒業ノ見込確實ナリト認ムル者ニ限リ第五十二條貸與金ノ幾部又ハ授業料ヲ貸與スルコトアルヘシ

第五十五條　貸費ヲ受ケント欲スル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ校長宛ニテ差出スヘシ

第五十六條　貸費生ハ卒業後六ケ月目ヨリ其貸費ヲ受ケタルト均シキ期限內ニ於テ其金額ヲ月賦返納スヘシ

第五十七條　貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本校ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ左ノ證書ヲ差入ルヘシ

誓約書（書式畧之）

第五十八條　貸費ハ其學年內ニ於テ品行不良若クハ學業懈怠ナルトキ又ハ疾病ニ罹リ成業ノ目途ナシト認ムルトキハ貸費ヲ止ム

第五十九條　退學ヲ命セラレタル者前條ノ規定ニ依リ貸費ヲ停止セラレタル者又ハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ若クハ退學スル者ハ貸與ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニ於テハ本人ノ請求ニ依リ月賦返納ヲ許可

スルコトアルヘシ

○第九章　高等研究科

第六十條　高等研究科ハ本校卒業生ニシテ既修ノ學科ニ就キ其蘊奥ヲ攻究スル者ノ爲メニ之ヲ設ク但他指定法律學校卒業生ハ本校ノ許可ヲ得テ研究生タルコトヲ得

第六十一條　研究科目ヲ左ノ十科目トス但一科若クハ數科ヲ專攻スルモ妨ケナシ

一憲法　一民法　一刑法　一商法　一民事訴訟法　一刑事訴訟法　一行政法

一國際公法　一國際私法　一經濟學

第六十二條　研究生ハ左ノ方法ニ依リ科目ヲ研究スルモノトス

一質疑　一講話　一口述推問　一討論

第六十三條　講話及口述推問ハ特ニ擔當講師ヲ定メ一ケ月一回若クハ二回一定ノ時間ニ於テ之ヲ行フ

質疑ハ特ニ定メタル擔當講師ニ就キ一週一回若クハ二回疑義ヲ質問スルモノトス

第六十四條　研究ノ爲メ特ニ設ケタル室内ニ於テ本校貯藏ノ圖書ヲ閲覧スルコトヲ得

第六十五條　研究生ハ本校ノ許可ヲ得テ各學年ノ講義ヲ傍聽スルコトヲ得

第六十六條　研究期限ハ一ケ年以上三ケ年以内トス

第六十七條　高等研究科ノ試驗ハ論文及ヒ口述試驗ノ二種トス

第六十八條　論文試驗ハ研究生ノ撰擇ニ依リ既修學科中ノ一科ニ就キ之ヲ爲ス口述試驗ハ既修ノ全學科ニ就キ之ヲ爲ス但其學科中一科以上五科以内ニ就キ之ヲ爲スコトアルヘシ

第六十九條　研究生ニシテ其業ヲ了リタル者ニハ卒業ノ證トシテ學術優等ノ賞牌ヲ授與ス

第七十條　高等研究科ニ入學スル者ハ入學金一圓ヲ納ムヘシ但本校卒業生ハ此限ニアラス

第七十一條　高等研究科授業料ハ一ケ月金一圓トス

第七十二條　研究生ニシテ試驗ヲ受ケントスル者ハ受驗料金三圓ヲ納ムヘシ

第七十三條　本校學則第十二條第十三條第十七條第十八條第十九條第廿條第廿一條第廿二條第廿三條第廿四條第廿五條第二項第卅七條第三十九條第四十條但書第四十一條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條ハ之ヲ研究科ニ準用ス

第七十四條　第六十條但書ニ依リ本校ノ研究科ニ入學シ其業ヲ終リタル者ハ本校々

友身分ヲ得有ス

○第十章　特別生規則

本則設置ノ主旨書（署之）

第一節

第一條　特別生ハ學業品行上ニ付本校一般ノ規則並ニ本則ニ依リ特別ノ監督ヲ受クルモノトス

第二條　本校ハ特別生ノ學業及品行上ニ付キ父兄ニ代テ充分ノ監督ヲ爲ス可シ

第三條　特別生ハ必ス本校部長室又ハ其隣室ニ置キ部長ナシテ親シク平生ノ品行及ヒ學業勤惰ヲ監視セシム

第四條　特別生ノ爲メ部長ナシテ特別ニ學科ノ温習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第五條　特別生ハ受持ノ部長ニ就キ學事上ノ質問ヲ爲スコトヲ得部長ハ適宜時間ヲ定メテ切ニ其質問ニ應答スヘシ

第六條　特別生ハ本校ニ備付ケノ書籍ヲ隨意借覽スルコトヲ得

第七條　部長ハ毎月々末ニ其受持特別生ノ品行並ニ其學業ノ勤惰ニ付キ舍監ニ報告ヲ爲スヘシ

第八條　舍監ハ特別生ノ品行並ニ學業ヲ檢視スル爲メ時々本人ニ接見シ之ヲ實査スルコトアルヘシ

第九條　校長ハ特別生ノ品行及ヒ其學業ノ勤惰幷ニ進否ニ付キ舍監及ヒ部長ノ報告ト其實査スル所ヲ照合シ毎年兩度其父兄又ハ保證人ニ詳細ノ報告ヲ爲スヘシ

第十條　特別生疾病等ノ場合ニ於テ若シ市内ニ父兄若クハ保證人ナキトキハ舍監及ヒ部長ハ本人ヲ入院セシムル如キ斡旋ヲ爲シ萬事ノ看護手續ヲ盡スヘシ

第二節　入校、在校、退校及費目

第十一條　特別生トシテ入學ヲ請フ者ハ府下在籍若クハ寄留ノ者ニ限ラス父兄其他原籍地ノ親族中ニテモ身元慥ナル者二人以上ヲ以テ保證人ト定メ在學證履歴書ヲ差出スヘシ

第十二條　特別生ハ入學ノ時本則第三十八條ニ規定セル入學金ノ外卒業迄ノ學費トシテ金二百六十六圓十錢（三ケ年分）ヲ本校會計局ノ預リ證ヲ渡スヘシ

第十三條　前條ノ預金ハ確實ナル銀行ニ預ケ置キ入用丈ケ之レヲ引キ出シ本校ハ左ノ割合ヲ以テ本人ニ渡スヘシ

一食費	金三圓五十錢
一授業料	金一圓三十錢

一舍費　金四十錢
一筆紙墨料　金五十錢
一書籍借覽料　金三十錢
一小使料　金一圓五十錢

合計金七圓五十錢ヲ以テ本人毎月ノ學資金トス

第十四條　本人ヨリ父兄又ハ保證人ニ對シ送金ヲ乞フトキハ其理由及金額ヲ舍監ニ届出テ其許可ヲ受クヘシ父兄又ハ保證人ハ舍監ノ認印アル請求書ニ依ルニアラサレハ送金ヲ爲スヘカラス若シ其手續ニ背キ本人ニ送金シタルトキハ本校々長ハ特別監督ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第十五條　危急ノ疾病ヲ除クノ外何等ノ事情アリト雖トモ預リ金ノ内ヨリ繰替支辨スルコトヲ許サス

第十六條　危急ノ疾病ニ罹リ不時ノ費用ヲ要スルトキハ一時預リ金ヲ以テ支辨シ尚ホ足ラサルトキハ本校ニ於テ立替置クト雖トモ其臨時ノ費用ハ保證人ヲシテ速ニ之レヲ差出サシメ學資金ノ額ヲ補充スルモノトス

第十七條　族行若クハ歸縣セント欲スルトキハ保證人連署ヲ以テ舍監ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　預リ金支出ノ計算ハ毎年兩度會計局ヨリ父兄及保證人ニ（父兄ノ保證人ヲ兼ルトキ以上同シ）詳細報告スルモノトス

第十九條　特別生退校セント欲スルトキハ父兄及保證人ノ連署ヲ以テ其理由ヲ詳記シタル願書ヲ本校々友ニ差出スヘシ校長ハ其理由ヲ調査シテ許可ヲ與フルモノトス何等ノ理由アリト雖トモ本人ノミノ願ニテハ退校スルヲ許サス

第三十條　退校ノ場合ニ於テ第十二條ノ預リ金額ハ差引計算ノ上父兄又ハ保證人ニ報告シテ其意見ヲ待チ返金ノ處置ヲ取計フモノトス

第廿一條　特別生ハ一ケ月中ノ費用ヲ帳簿ニ明記シ之ヲ計算シテ毎月末舍監ニ報告シテ撿査ヲ請フヘシ

第廿二條　特別生ニシテ就學中品行方正ナル者ハ本人ノ請求ニ依リ卒業ノ當時品行證ヲ與フ

第廿三條　其他本校一般ノ規別ハ特別生及ヒ其保證人ニ適用スルモノトス

○寄宿舍規則（摘要）

第一條　本校寄宿舍ハ本校々友及ヒ學生ニ限リ入舍ヲ許ス但校友ハ十名ヲ限リトス

第二條　寄宿舍ニハ舍監一名部長五名ヲ置キ寄宿生ノ監督ヲ爲サシム

第三條　寄宿生ハ本則ヲ遵奉シ寄宿生ノ體面ヲ保ツハ勿論校長幹事舍監及部長ノ監

督ヲ受クルモノトス

第四條　舍監ハ寄宿生ノ勤惰品行ヲ時々校長幹事ニ具申シ且保證人又ハ父兄ニ報告スルコトアルヘシ

第五條乃至第八條（省略）

第九條　入舍セントスル者ハ舍監ニ願出ツヘシ許可ヲ得タルトキハ東京市住居ノ者ニシテ身元確實ナル者ヲ保證人トシ左ノ書式ニ準據セル入舍保證書ヲ差出スヘシ

證書々式（略之）

第十條乃至第廿三條（省略）

第廿四條　寄宿生ハ毎月左ノ費用ヲ前納スヘシ

舍費　金四拾錢　食費　金三圓五拾錢（但時價ニ準シ增減スルコトアルヘシ）

第廿五條　新入舍生及ヒ退舍生ノ食費ハ日割ヲ以テ計算ス

第廿六條　寄宿生屆濟ノ上三日以上外宿スルトキハ食費ヲ割戻ス但此計算ハ外宿屆ノ翌日ニ起リ歸舍屆ノ前日ニ終ル

第廿七條第廿八條第廿九條（省略）

第三十條　舍監ハ部長ト協議ノ上規則違犯者不品行者惰生及寄宿舍ノ秩序ヲ害スル虞アル學生ニ對シ譴責又ハ退舍ヲ命スルコトヲ得

第三十一條乃至第三十四條（略之）

○第十二章　校外生規則

第一節　講義錄

第一條　遠隔ノ地ニ在リ又ハ都合ニ依リ登校スルコト能ハサル者ノ爲メ校外生規則ヲ設ケ校內學生ニ對スル講義ノ筆記ヲ印刷シテ講義錄ト爲シ之ヲ領ツ

第二條　講義錄ハ第一學年講義錄第二學年講義錄第三學年講義錄ノ三種トス

第三條　講義錄掲載科目ハ校內學生ニ教授スル科目ニ同シ

第四條　講義錄ハ各學年共每月五ノ日發兌ス但一回ノ紙數百頁以上トス若シ學年末ニ至リ掲載シ終ラサル科目アルトキハ特ニ號外ヲ發シテ之ヲ完結ス

第五條　講義錄ハ每年十月ニ始マリ翌年九月ニ終ル

第二節　入學、在學、退學

第六條　校外生ハ試驗ヲ要セス何時ニテモ入學ヲ許ス但中途入學ノ者既往ニ溯リ講義錄ヲ請求スルトキハ第一號ヨリ配付ス

校外生タラント欲スル者ハ左ノ書面ヲ差出スヘシ

校外生入學書（用紙半紙二ッ切）

私儀今般貴校第何學年校外生ヘ入學致度御許可相成候上ハ在學中御規則確守可仕候也

年　月　日　　何府縣國郡市町村何番地

明治法律學校御中　　姓　名　印

第七條　各學年ヲ兼修スルモ妨ケナシト雖トモ各學每年ニ入學證書ヲ差出スヘシ但各別ニ入學金ヲ要セス

第八條　校外生ハ本校ノ討論會演說會講談會及ヒ訴訟演習會ニ出席スルコトヲ得

第九條　校外生ヨリ本校出版部講法會ニ宛テ發送スル書狀ハ第一（或ハ第二、第三）學年ノ肩書ヲ記入スヘシ

第十條　本校出版部講法會ニ宛テクル爲替金ハ神田郵便局ニ振リ込ムヘシ

第十一條　退學セント欲スルトキハ其旨本校出版部講法會ヘ屆出ツヘシ

第三節　質疑

第十二條　校外生ハ講義錄ニ登載スル諸科目ニ就キ疑義アルトキハ通信ヲ以テ之ヲ質スコトヲ得但疑律擬判ノ質疑ニ對シテハ答案ヲ付セサルヘシ

第十三條　質疑信書ニハ講義錄ノ號數科目頁數ヲ示シ疑義ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ但質疑ノ文章了解シ難キモノハ答書ヲ付セサルヘシ又質疑ノ事項ニシテ緊要ヲルモノハ講義義錄附錄トシテ刊行配賦スルコトアルヘシ

第四節　試驗

第十四條　校外生ニシテ及第證書若クハ卒業證書ヲ得ント欲スル者ハ各學年末若クハ第三學年末ニ試驗ヲ受クルコトヲ得

試驗ハ本校內ニ於テ之ヲ行フ但地方便宜ノ地ニ於テ擧行スルコトアルヘシ

第十五條　校外生前條ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケ及第證書及卒業證書ヲ有スル者ニシテ校內生タラント欲スル者アルトキハ本校內ニ於テ既修學科目中一科若クハ數科ヲ試驗シ相當ノ級ニ之ヲ編入ス

第五節　費目

第十六條　校外生タラント欲スル者ハ第六條ノ入學書ト同時ニ左ノ費用ヲ納付スヘシ（郵券代用ヲ許サス）

一、入學金　金五拾錢　二、授業料　金五拾錢

第十七條　授業料ハ毎月廿五日迄ニ翌月分（數月分ヲ前納スルモ妨ケナシ）ヲ前納スヘシ延滯者ニハ講義錄ノ發送ヲ停止ス

第十八條　第十四條第十五條ニ準據シ試驗ヲ受ル者ハ一學年毎ニ受驗料金一圓ヲ納付スヘシ

第六節　雜則

第十九條　左ノ資格ノ一ニ當ル者ハ第十六條ノ規定ニ拘ハラス授業料ヲ減下シテ金四拾五錢トス但各管轄廳局又ハ主長ノ證明書ヲ差出スヘシ

一　巡査、看守、憲兵卒及海陸軍下士官以下ノ者

一　諸省、院、廳、各府縣、諸裁判所、登記役所、警察署、監獄署、郡區役所、市町村役場、執達吏役場、其他行政、司法、陸海軍ニ關スル諸官衙ノ助役、雇員、筆生及ヒ小學校教員

一　銀行、諸會社、官、公、私立學校ノ生徒、雇員及ヒ筆生

第二十六條　六ヶ月以上校外生ノ身分ヲ有シ現ニ繼續スル者校內生ニ轉スルトキハ入學金ヲ要セス（本則第四十條ニ依ル）

第廿一條　退學者ノ授業料殘額アルトキハ相當ノ講義錄ヲ送附シ現金ヲ返却セス

◎日本法律學校々則

第一章　總則

第一條　本校ハ日本ノ法律行政及ヒ經濟ニ關スル諸學ヲ敎授スルヲ以テ目的トス

第二條　本校ハ正副ノ二科ヲ設ク正科ハ本所定ノ全科目ヲ修メ副科ハ一科目以上各自所望ニ應シテ之ヲ修ムルモノヲ謂フ

第三條　敎授スル科目左ノ如シ

憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法、國際公法、國際私法、財政學、理財學、擬律擬判

第四條　正科ノ修業年限ハ三ヶ年トシ一學年ヲ以テ一學級トス

副科ハ別ニ修業年限ヲ定メス

第五條　本校所定ノ全科ヲ學修シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

副科生ハ其修學シタル學科ノ修業證書ヲ授與ス

第六條　本校正科ニ入學シテ所定ノ年限間在學卒業シタルモノハ明廿四年司法省第

三號判事檢事登用試驗規則ニ依リ該試驗ヲ受クルノ資格ヲ得有ス但此場合ニ於テハ本校ヨリ修業證明書ヲ授與ス

第七條　本校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ全科ヲ修業シタル副科生ハ終身本校ノ校友トス但校友ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　卒業生ニシテ更ニ學術ノ蘊奥ヲ研究セントスルモノヽタメ高等專攻科ヲ設ク

第九條　第三條科目ノ外漢文科及外國語學科ヲ置キ學生ナシテ隨意兼修セシム

第十條　本校ハ別ニ編輯部ヲ設ケ本校講義ヲ揭載シタル講義錄及ヒ法律ニ關スル著書雜誌類ヲ刊行シ實費ヲ以テ之ヲ校友學生ニ頒ツ

第十一條　本校ハ政治、法律、經濟等ノ諸書ヲ蒐集シテ一書庫ヲ設クヘシ但圖書閲覽細則ハ之ヲ定ム

第十二條　本校ハ毎月評議員贊成員講師等ニ囑托シ講談會ヲ開キテ學術及實際問題ヲ講究シ又ハ生徒ノ討論會ヲ開キ及ヒ訴訟裁判ノ實地演習ヲ行フ

第十三條　本校ハ法律ヲ要スル職員登用試驗擧行ノ節ハ臨時ニ受驗者ノ便ヲ計リ必要ナル科目ノ講義ヲ爲スコトアルヘシ

第二章　學年、授業時間及休業

第十四條　本校學年ハ九月十一日ヨリ始リ翌年七月十五日ニ終ル

第十五條　本校授業ハ毎日午后五時ヨリ同九時半マテトス

但土曜日ハ午后一時ヨリ始ム

第十六條　本校休業日ハ左ノ如シ

自七月十六日至九月十日　自十二月廿六日至翌年一月六日　日曜日及大祭日

第三章　入校、在學及退學

第十七條　本校入學資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　正科生ハ年齡滿十七歲以上ノ男子ニシテ本校入學試驗ニ及第シ品行方正ナル者

但尋常中學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタルモノハ入學試驗ヲ要セス

二　副科生ハ年齡滿十七歲以上ノ男子ニシテ相當ノ學力ヲ有シ品行方正ノ者

第十八條　第二年級以上ニ入學セント欲スル者ハ前條ノ資格ヲ有シ且ツ當該級編入試驗ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條　他ノ指定法律學校二年級以上ノ生徒ニシテ本校ニ入學セントスルトキハ相當ノ級ニ編入スヘシ

但入學者本人ニシテ本校前級課目中未タ履修セサルモノアルトキハ其科目ニ就キ之カ試驗ヲ行フモノトス

第二十條　入學志願ノ者ハ左ノ書式ニ依リ入學願書及ヒ修學履歷書ヲ差出スヘシ

入學願書及修學履歷書（用紙美濃紙）書式署之

第二十一條　入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ保證人ヨリ左ノ書式ニ依リ在學證ヲ差出スヘシ

但證人ハ東京市ニ在籍若クハ寄留ノ戶主ニシテ身元慥カナル成年者タルヲ要ス

若シ本校ニ於テ保證人ヲ不相當ト認ムルトキハ其改撰ヲ命ス若シ速ニ改撰セサルトキハ登校ヲ禁スヘシ

在學證（用紙美濃紙）書式署之

第二十二條　本人又ハ保證人氏名ヲ改稱シ本籍又ハ現住所ヲ移轉シタルトキハ其都度届出ツヘシ

第二十三條　保證人東京市外ヘ移轉シ又ハ死亡シタルトキハ更ニ保證人ヲ立テ保證書ヲ差出スヘシ保證人變更ノトキモ亦同シ

第二十四條　退學セント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出ヘシ

第二十五條　卒業ノ見込ナキ者又ハ品行不良ノ者ハ退學ヲ命ス

第二十六條　三ケ月以上授業料ヲ怠納スル者ハ退學者ト看做シ學籍ヨリ除名ス

第二十七條　退學者ト看做シ除籍セラレタルモノ復籍ヲ願出タル場合ニ於テ同學年間前後通シテ在籍五ケ月以上ナルトキハ之レヲ許可スルコトアルヘシ但此場合ニハ授業料ヲ追納セシム

第四章　試驗

第二十八條　試驗ヲ分テ入學試驗、學年試驗及ヒ卒業試驗ノ三種トス

第二十九條　入學試驗ハ定期、臨時ノ二種トス定期入學試驗ハ毎年二月、九月ノ兩度ニ之レヲ行ヒ臨時入學試驗ハ出願者アルトキ便宜之レヲ行フ

但副科生ハ試驗ヲ經ス何時ニテモ入學ヲ許ス參考科及ヒ第十三條ノ聽講者モ亦同シ

入學試驗科目左ノ如シ

國語　作文　漢文　白文訓點　數學　四則比例

第三十條　學年試驗ハ每學年ノ終ニ之ヲ行ヒ卒業試驗ハ全科ヲ修メタル者ニ限リ之ヲ行フ

第三十一條　副科生ニシテ試驗ヲ望ム者ハ其修學シタル學科ニ付キ之レヲ行フ

第三十二條　一學年五ケ月以上在學シタルモノニ非ザレハ學年試驗ヲ受ケシメス副科生ニ付テモ亦同シ

第三十三條　試驗點數ハ每科目百點ヲ以テ滿點トシ一科四十點以上平均六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第三十四條　疾病其他已ムヲ得サル事アリテ學年試驗ニ闕席シタル者ノ爲ニ特ニ補欠試驗ヲ行フ

補欠試驗ヲ受タル者ハ受驗料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第三十五條　試驗ノ成蹟ハ平均得點ノ優劣ニヨリ席次表ヲ製シテ之ヲ掲示シ又之ヲ印刷ニ附シ各生徒ノ父兄若シハ保證人ニ配付スルヿアルヘシ

第五章　學費

第三十六條　入學者ハ正副科生トモ束修金貳圓ヲ在學證ト共ニ納ムヘシ

但五ケ月以上校外生タリシモノハ束修ヲ免除ス

第三十七條　生徒在學中ハ闕席スルト否トニ拘ハラス正副科トモ授業料トシテ每月金壹圓參拾錢ヲ納ムヘシ

但八月ハ授業料ヲ徴收セス

第三十八條　第十一條ノ聽講料ハ別ニ之ヲ定ム

第三十九條　授業料ハ其月五日マテニ納ムヘシ

但七月分ニ限リ學年試驗施行前日マテニ納ムヘシ

第四十條　既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルコトアルモ其月分ハ之テ返付セス

第四十一條　貧困ニシテ法學篤志ノ者ト認ムルトキハ特ニ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第六章　優待

第四十二條　學術優等品行方正ノ者ニハ賞品ヲ與ヘ若クハ一學年分以內ノ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

但授業料ノ免除ヲ得タル者二ケ月以上闕席シタルトキ又ハ品行失墜シタルトキハ其免除ヲ停止ス

第七章　高等專攻科

第四十三條　本校ノ卒業生ハ何時ニテモ高等專攻科ニ入學スルヿヲ得

他ノ指定法律學校ノ卒業ニシテ入學セントト欲スル者ハ卒業證書ヲ添ヘ本校ヘ申出ヘシ

第四十四條　高等專攻科ノ修業科目ハ左ノ九科ニ分チ各自志望ノ一科若クハ數科ヲ專攻セシム

憲法、行政法、刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、商法、國際法、經濟學

第四十五條　修業年限ハ一ヶ年以上トス

第四十六條　試驗ハ論文試驗、口述試驗ノ二トス

第四十七條　試驗ニ及第シタル者ハ其專攻科目ノ卒業證書ヲ授與ス

第四十八條　授業料ハ一ヶ年金拾圓トシ壹圓以上分納スルヿヲ得

第四十九條　高等專攻科ノ卒業試驗ニ應セントスル者ハ受驗料金參圓ヲ　ムヘシ

○校外生規則要領

第一條　遠隔ノ地ニ在リ又ハ業務ノ都合上登校スルコト能ハスシテ專ラ講義錄ニ依リ本校ノ學科ヲ修ムル者ヲ校外生トス

第二條　講義錄ニハ本校講師ノ講義ヲ掲載スルハ勿論講談會ノ講話、討論會ノ筆記及質問答辯等ヲ掲載ス

第三條　講義錄ハ各級ノ區別ナク毎月三回之ヲ發行シ一冊紙數九十頁內外トス

第四條　校外生ノ修業年限ハ滿二ヶ年トス

第五條　校外生タラント欲スル者ハ何人ヲ問ハス隨時入學ヲ許ス

第六條　校外生タラント欲スル者ハ入學申込書ニ束修並ニ一ヶ月分以上ノ月謝ヲ添ヘ申込ヘシ

其申込書ニハ宿所姓名ヲ楷書ニテ詳記スヘシ若シ氏名ヲ改稱シ又ハ轉居シタル時ハ新舊ヲ詳記シ速ニ通知スヘシ

第七條　校外生ハ本人ノ望ニヨリ本校ノ印章アル證票ヲ附與スヘシ

但證票ヲ望ム者ハ郵劵二錢ヲ添ヘ申出ツヘシ

第八條　校外生ノ課程ヲ終ヘタル者ニハ望ニヨリ校外修業證書ヲ授與ス

第九條　校外生ハ本校ノ講談會及討論會ニ出席スルコトヲ得

第十條　校外生ハ左ノ束修月謝ヲ納ムヘシ

束修　金五十錢　月謝　金四十錢

第十一條　束修及月謝金ハ郵便切手ヲ以テ納付スルヲ許サス

第十二條　月謝ハ必ス前納スヘシ然ラサレハ講義錄ヲ配付セス

第十三條　月謝ヲ領收シタルトキハ其月ヨリ講義錄ヲ配付スルヲ以テ別ニ領收證ヲ配付セス若シ送金後三週間ニ至ルモ講義錄到着セザルトキハ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條　講義錄ハ其常ニ到着スヘキ日ニ到着セサトキハ發行日ヨリ起算シテ十日後三十日以內ニ其旨ヲ申出ツヘシ若シ此ノ期限ヲ經過スルトキハ更ニ一冊ニ付キ金十五錢ヲ納ムルニアラサレハ送本セス

第十五條　入學以前ノ講義錄ヲ請フ者ハ一冊ニ付金拾貳錢ノ割合ヲ以テ講續スルヲ許ス

第十六條　將來講義錄ノ印刷費、遞送賃等增加スルトキハ豫メ通知シテ相當ノ增金ヲ納メシムルコトアルヘシ

第十七條　講義錄包封ニ△印ヲ捺シアルモノハ月謝金盡キタルモノト知ルヘシ若シ月謝不納二ケ月以上ニ及フトキハ退學者ト看做ス仍ホ送本ヲ請フ者ハ更ニ入學ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　本人ノ都合ニヨリ退學シタル場合ニ於テ已ニ領收シタル月謝殘餘アルトキハ之ニ對スル講義錄ヲ送付シ金員ヲ以テ返却セス

第十九條　束脩及ヒ月謝ハ現金又ハ郵便爲替ヲ以テ本校會計課ニ宛テ納ムヘシ但シ郵便爲替ハ飯田町郵便電信支局ニ拂込ムヘシ若又通運會社貨幣早達便ヲ以テ送金スル者ハ配達料一錢ヲ添ヘ拂込ムヘシ

第二十條　校外生ハ講義錄掲載科目ニ付キ質問スルコトヲ得

第二十一條　質問書ニハ講義錄ノ號數科目丁數ヲ示シ疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第二十二條　質問ヲ不要ナリト認ムルトキ若クハ其意ノ解シ難キトキハ答辯セス

第二十三條　往復通信等ハ總テ封皮ニ第何期校外生何誰ト明記シ本校編輯部ニ宛テ差出スヘシ若シ本校ニ向テ返書ヲ求ムルトキハ切手又ハ端書ヲ添ユヘシ

（注意）校外生ト爲リ三ケ年間修學スルモ司法省令ニ依リ判撿事試驗ヲ受クルノ資格ナシ

○編入試驗ニ關スル規則摘要

第二年級編入試驗〔一刑法、一刑事訴訟法、一民法〔總則編、親族編、物權編、相族編〕、一理財學

第三年級編入試驗〔一國際公法、一海商法、一憲法、一民事訴訟法、一手形法、一保險法〕〔一編ヨリ五編マテ〕一債權編

一編入試驗ヲ受ケントスルモノハ先ツ入學ノ試驗ヲ受クヘシ第三年級ニ編入志願ノモノハ順次各級全科ノ試驗ヲ受クルヲ要ス

一他ノ指定法律學校二年級以上ノ生徒ニシテ本校ニ入學セントスル者ハ相當ノ級ニ編入ス但本校前級科目ニ付キ未タ學修セサルモノアルトキハ其科目ニ限リ特ニ之レカ試驗ヲ行フ

一入學試驗ハ手數料ヲ要セス編入試驗ハ一學級毎ニ手數料金壹圓トス

◉和佛法律學校規則（明治三十年九月改正）

第一章　總則

第一條　本校ハ邦語又ハ佛語ヲ用ヰ法律學ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條　本校ノ課程ハ別表定ムル所ニ依ル但邦語ヲ以テ教授スルモノヲ邦語法律科ト稱シ佛語ヲ以テ教授スルモノヲ佛語法律科ト稱ス

第三條　修業期限ハ三ケ年トシ一學年ヲ以テ一學級トス

第四條　學年ハ九月五日ニ始マリ翌年七月三十一日ニ終ハル

第五條　授業時間ハ毎週十七時間以上トス

第六條　休業日ハ左ノ如シ但臨時ノ休業ハ其都度之ヲ掲示ス

一日曜日　一祝祭日　一冬期休業（自十二月廿五日至翌年一月七日）　一夏期休業（自八月一日至九月十日）

第七條　本校所定ノ邦語法律科又ハ佛語法律科各年級ノ學科ヲ履修シタル者ニハ修業證書ヲ授與シ全科卒業ノ者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第八條　本校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ本校々友トス

第二章　入學及ヒ退學

第九條　本校ノ入學ヲ許可スル者ハ年齡滿十七歲以上ノ男子ニシテ尋常中學校尋常師範學校又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ授クル學校ヲ卒業シタル者若クハ左ニ掲クル二種ノ入學試驗中其一ニ合格シタル者ニ限ル

甲種

一國語（假名交リ文）　一漢文（講讀又ハ辨書）　一數學（四則、分數、比例）

乙種　尋常中學科卒業程度

第十條　尋常中學ヲ卒業シ又ハ之レト同等ナル程度ノ學科ヲ授クル學校ヲ卒業シタル者ニ非スシテ徵兵令第十三條及ヒ第二十三條ノ特例ヲ受ケント欲スル者ハ前條

乙種ノ入學試驗ヲ受クルコトヲ要ス

第十一條　入學セント欲スル者ハ入學願書及ヒ履歷書ヲ差出ス可シ入學許可ノ上ハ保證書ヲ差出ス可シ

但保證人ハ身元確實ニシテ東京市内ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子タルコトヲ要ス

若シ本校ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ其改選ヲ求ム此請求ヲ受ケ其手續ヲ爲サヽル者ハ登校ヲ許サス

第十二條　同盟法律學校ノ生徒ニシテ本校ニ入校スルトキハ前校ノ學歷證明書ニ依リ相當ノ級ニ編入ス但本校所定ノ科目中未タ履修セサルモノアルトキハ特ニ之カ試驗ヲ行フ

第十三條　退學セント欲スル者ハ保證人連署ヲ以テ其旨ヲ申出ツヘシ但シ滿三ケ月以上無屆欠席ノ者ハ退校者ト看做スヘシ

第十四條　校則ニ違背シ又ハ品行不良ノ者ハ退學ヲ命ス

第十五條　同盟法律學校ニ於テ退學ヲ命セラレタル者ハ入學ヲ許サス

第三章　試驗

第十六條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ其期日前ニ受驗願書ヲ差出ス可シ

第十七條　入級試驗ハ第二年級ニ入ルモノニ限リ之ヲ行フ

但退學者ハ退學後十箇月ヲ經過スルニ非サレハ入級試驗ヲ受クルコトヲ許サス

第十八條　學年試驗ハ每學年末ニ之ヲ行フ但其最終ノ試驗ヲ以テ卒業試驗トス

學年試驗ハ其年三月迄ニ入學シタル者ニ非ラサレハ之レヲ受クルコトヲ許サス

第十九條　試驗ハ筆記又ハ口述ヲ以テ之ヲ受ケシム

第二十條　試驗ノ評點ハ一科目ニ付キ百點ヲ以テ最高點トス

平均點數六十點ニ滿タサル者ハ落第トス

但シ一科目ノ點數三十點ニ滿タサル者亦落第トス

第二十一條　學年試驗施行ノ當時正當ノ事由アリテ之ヲ受クルコトヲ得サリシ者又ハ其試驗ニ落第シテ平均點數五十點以上ヲ得タル者ニ付テハ特ニ再試驗ヲ行フコトアルヘシ

但受驗者ハ試驗手數料トシテ金壹圓ヲ納ム可シ

第四章　入學金及ヒ授業料

第二十二條　入學スル者ハ入學金貳圓ヲ納ム可シ但シ乙種ノ入學試驗ヲ受ケントス

ル者ハ手數料トシテ別ニ金壹圓ヲ納ムル可シ

第二十三條　授業料ハ邦語法律科、佛語法律科共一ケ月ニ付金壹圓參拾錢ヲ納ムル可シ但病氣其他ノ事故ニ因リ登校セサル時ト雖モ之ヲ免除スルコト無シ

第二十四條　授業料ハ毎月五日限リ完納ス可シ但十六日以後ニ入學スル者ハ其半額ヲ納ム可シ

第二十五條　既納ノ入學金及ヒ授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ還付スルコト無シ

第二十六條　期日内ニ授業料ヲ納メサル者ハ聽講ヲ禁シ其旨保證人ニ通知ス若シ其通知ノ當日ヨリ一週間以内ニ之ヲ納メサルトキハ退學者ト看做ス

◎校外生規則

○第一章　講義錄

第一條　遠地ニ在リ又ハ業務ノ爲メ親ラ登校シテ講義ヲ聽クコト能ハサル者ノ便ヲ圖リ校外生ノ制ヲ設ケ本校講師カ校内生ノ爲メニ講演シタル筆記ヲ印刷シテ講義錄ト爲シ之ヲ頒ツ

第二條　講義錄掲載ノ方法ハ左ノ如シ

講義錄ハ新民法及ヒ大修正ノ見込少ナキモノヨリ順次掲載ス可シ但シ其法典ノ修正完了スルトキ學年ニ從ヒ順次掲載スヘシ

第三條　二十九年度講義錄ハ毎月三回三十年度講義錄ハ毎月五回之ヲ發行ス其定日ハ左ノ如シ

五日　十五日　二十五日
二日　八日　十四日　二十日　二十六日

第四條　講義錄ハ別表ニ掲クル學科目ノ講義ヲ掲載スルモノトス但シ講義錄ハ主トシテ本邦成典ニ依ルト雖モ時トシテハ參照ノ爲メ佛英獨等各國有名ナル學者ノ新著書ヲ譯載スルコトアルヘシ

第五條　二十九年度講義錄ノ紙數ハ三十四字詰十四行ニシテ一ケ月三百三十六頁以上トシ三十年度講義錄ノ紙數ハ三十四字詰十四行ニシテ一ケ月六百頁以上トス

第六條　講義錄ハ講義ノ外ニ校外生ノ質問、解答、懸賞論文及法律上ノ新説卓論ヲ掲載スルコトアルヘシ

第七條　講義錄ハ毎年十二月末ヨリ一月初ニ彌リ二回以下ノ發行ヲ休止スヘシ

○第二章　校外生

第八條　本規則ニ從ヒ校外生タラント欲スル者ハ何人ヲ問ハス隨時ニ入學ヲ許ス

第九條　校外生タラント欲スル者ハ左ノ書式ニ準シタル在學證ニ入學金及ヒ月謝金ヲ添ヘテ申込ムヘシ

校外生在學證

貼印紙

私儀今般貴校何年度校外生タルコトヲ御許可相成候上ハ在學中御規則確守可仕候也

年　月　日

府縣國郡市町村番地

氏　名㊞

司法省指定私立和佛法律學校御中

第十條　校外生ハ本人ノ望ニヨリ證票ヲ附與スヘシ但シ證票ヲ望ム者ハ郵券貳錢ヲ添ヘ申出ツヘシ

第十一條　校外生ハ本校講談會及ヒ大討論會ニ出席傍聽スルコトヲ得ヘシ

第十二條　校外生ニ對シテ時々懸賞論文ヲ募集シ其優等者ニハ六ケ月分以下ノ月謝ヲ免除スルコトアルヘシ

第十三條　校外生ノ修業期間ハ三ケ年トス但三十年度校外生ノ修業期間ハ一ケ年半トス

第十四條　三ケ年ノ課程ヲ終ヘタル者ハ校外生修業證書ヲ授與スヘシ校外生修業者ニモ之ヲ準用ス

第十五條　校外生ハ在學中ニ住所ヲ轉シ又ハ氏名ヲ改メタルトキハ本校出版部ニ宛テ新舊ノ宿所氏名ヲ詳報スヘシ

○第三章　入學金及月謝

第十六條　入學金及ヒ月謝金ハ左ノ如シ

二十九年度講義錄校外生及ヒ三十年度講義錄校外生ノ入學金及ヒ月謝金ハ左ノ如シ但本校々友ノ紹介券ヲ有スル者又ハ本校々外生修業證書ヲ有スル者ニハ入學金ヲ免除ス

入學金　金四拾錢　　月謝金　金五拾錢

入學金　金四拾錢　　月謝金　金八拾錢

第十七條　月謝金ハ前月二十日迄ニ納付スヘシ此期限ヲ過キテ送金セサルモノハ講

義錄ノ發送ヲ見合スヘシ但シ月謝金ハ數月分ヲ前納スルモ妨ケナシ

第十八條　月謝金ヲ領收セシ月ヨリ講義錄ヲ發送スルヲ以テ別ニ領收書ヲ交付セス若シ發送ノ日ヨリ二十日ヲ過キテ講義錄到達セサル時ハ其旨出版部ニ通知スヘシ

第十九條　講義錄ハ壹冊定價金貳拾錢ヲ以テ販賣ス但シ講義錄ノ殘餘ナキトキハ其需ニ應セス

第二十條　本人ノ都合ニヨリ退學シタルトキハ既ニ領收シタル月謝金ノ殘額アレハ相當ノ講義錄ヲ送付シ現金ヲ以テ返却セス

第二十一條　月謝金不納六ケ月ニ及フトキハ退學ト看做ス故ニ講義錄ノ再送ヲ請フトキハ更ニ入學ノ手續ヲ爲サシム

第二十二條　入學金、月謝金ハ郵便爲替、銀行爲替又ハ通常早達便ヲ以テ東京市麹町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計掛宛ニテ遞送スヘシ但シ郵便爲替ハ必ス飯田町郵便電信支局ニ宛テ振込ムヘシ

第二十三條　入學金月謝金ハ郵便切手（貳錢切手ニ限ル）ヲ以テ納ムルモノハ一割增トス

○第四章　質問

第二十四條　校外生ハ講義錄ニ載スル所ノ學科目中ニ疑義アルトキハ通信ヲ以テ質問スルコトヲ得ヘシ但シ質問者ハ相當郵券ヲ封入シテ送ルヘシ

第二十五條　質疑信書ニハ講義錄ノ號數科目丁數及疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第二十六條　質疑通信ノ文意解シ難キモノ主旨明瞭ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ講義錄ニ掲載セサル事項ヲ質問スルモノハ解答ヲ付セサルヘシ

第二十七條　質問中有益ト認ムルモノハ之ニ答解ヲ附シテ講義錄ニ登錄スヘシ

第二十八條　質義信書ハ本校講義錄編輯者ニ宛テ郵送スヘシ

◎專修學校規則（明治廿七年七月改正）

○敎旨

第一條　當校ハ邦語ヲ以テ法律科理財科ヲ敎授スル所トス

○敎則

第二條　敎授ハ都テ講義ヲ以テス

第三條　修業年限ヲ三ケ年トシ每一年ヲ一級トス

第四條　學年ハ九月十六日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第五條　學科ヲ分テ法律理財ノ二科トス其目左ノ如シ

但本文二學科ハ同級ノモノニ限リ兼修スルヲ得

法律科（科目ハ第一年級、第二年級、第三年級其別表ニ掲ク）

理財科（科目ハ第一、第二、第三年級ノ分共之ヲ省畧ス）

第六條　前條科目ノ外法律科理財科共別ニ有用ノ科目ヲ撰ビ特別講義ヲ爲シ又臨時討論會ヲ開クヘシ

第七條　授業時間ハ時宜ニ應シテ之ヲ定ムト雖各級毎週十時間ヨリ少ナカラス

第八條　毎學年ノ終リニ試驗ヲ行ナヒ滿點ヲ一百トシ各科四十點全科平均六十點以上ヲ得ル者ヲ及第トス

但シ其年四月以降入學シタル者ハ學年試驗ヲ受クルヲ得ス

第九條　第五條ノ各學科ヲ卒ヘ其試驗ヲ完フスル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

○入校、退校

第十條　毎年九月ヲ以テ入校ノ期トス

但シ時宜ニ由リ臨時入校ヲ許スコトアルヘシ

第十一條　入校ヲ請フ者ハ其年齡滿十七年以上ニシテ左ニ該當スル者ニアラサレハ入學ヲ許サス

一入學試驗ニ及第シタルモノ但入學試驗科目左ノ如シ

國語（漢字交リ作文）　漢文（講讀又ハ白文訓點）　地理（內外各國）

歷史（內外各國）　數學（四則、分數、比例）

一尋常中學校卒業ノモノ若クハ尋常中學科ノ程度ニ依リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタルモノ又ハ同盟指定學校ノ入學試驗ニ及第シタル者

第十二條　第二年級ニ入學ヲ請フ者ハ第一級ノ諸科目ノ試驗ニ及第スルニアラサレハ之ヲ許サス

但法律科ニ於テハ同盟指定學校ニ於テ其科目ノ試驗ニ及第シタル者ハ此限ニアラス

第十三條　入學志願者ノ便宜ニ依リ入校ノ際試驗ヲ要セス又定期ノ試驗ヲ爲サスシテ員外生トナルコトヲ得ヘシ

但年齡十七年未滿ノ者ハ之ヲ許サス

第十四條　員外生ニシテ三ケ年ノ課程ヲ學ヒタルモノハ終身本校ノ校友トナスヘシ

第十五條　入校ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ準シ入校證ヲ認メ東京住居ノ父兄若

クハ世話人ニテ身元確實ナル者ヲ以テ身元引受人トナスヘシ

入校證（書式ハ之ヲ畧ス）

第十六條　退校セント欲スル者ハ其旨事務局ヘ申出ツヘシ

第十七條　月謝未納三ケ月以上ニ及フ時ハ退校ト見做シ除名スヘシ

但未納三ケ月分月謝ハ納ムルヲ要セス

第十八條　一旦退校若クハ除名シタルモノ再ヒ入校ヲ請フ時ハ更ニ入校ノ手續ヲ經ヘシ

○學費

第十九條　入校スル者ハ束脩トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第二十條　月謝ハ一科ヲ納ムル者ハ金壹圓參拾錢二科兼修ノ者ハ金壹圓四拾錢トス

第二十一條　月謝ヲ納メタルトキハ聽講券ヲ受取毎日出校ノトキ之ヲ携帶スヘシ

但聽講券ヲ紛失シタルトキハ爲手數料金拾錢ヲ納メ更ニ聽講券ヲ受取ヘシ

第二十二條　第二十條ノ月謝ハ八月ヲ除キ出校ノ有無ニ拘ハラス毎月ノ初ノ三日內ニ其全額ヲ納ムヘシ

但員外生ニ限リ七月分ノ月謝ヲ納ムルヲ要セス

○雜則

第二十三條　生徒若クハ身元引受人住居ヲ轉スル時ハ其町名番地ヲ事務局ヘ申出ツヘシ

第二十四條　身元引受人若シ東京外ヘ轉居スル時ハ別ニ身元引受人ヲ立テ入校證ヲ引換フヘシ

第二十五條　休業期日ハ左ノ如シ

十二月二十六日ヨリ一月十日ニ至ル　冬季休業

二月十六日ヨリ同月二十二日ニ至ル　春季休業

七月十一日ヨリ九月十五日ニ至ル　夏季休業

○優待生規則

第一條　法律科及理財科第二年級及第三年級生徒中前學年ノ試驗ニ於テ最モ優等ノ成蹟ヲ得タル者各校一名ヲ撰拔シ優待生トス

第二條　優待生ニハ一學年間（毎年九月ヨリ翌年七月マテ）毎月ノ月謝ヲ免除ス

◉獨逸學協會學校規則（畧之）

（理由）

本校ハ先年其學制ヲ變更シ單ニ中等教育ヲ授クル一私立尋常中學校ト爲リ元ノ（特別認可學科）專修科ヲ廢止シタルヲ以テ現時一ノ法律學校トシテ見ルヘキ同校規則ヲ求ムルコトヲ得ス故ニ之ヲ畧セリ

東京法學院課程表

級別	科目	法學通論	民法	法	及
第一年級前期	毎週授業時間 二	法律ニ關スル一般ノ觀念ヲ授ケ且ツ本邦現行法ニ依リ一定ノ教科書ニ依ラスシテアルヘカラサル旨ヲ說ク（授論ノ部）英語法學科ニ於テハ別ニテ穗積氏法律原論ヲ教授ス	民法總論親族法相續法第一部第二部第一部	物權法物權法第一部第二部	債權法第二部
同	同	二	私權ノ主體、私權ノ物體、人、戶主、續柄、財產論、占有法律行爲期間等ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス	親族關係、相續ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス	總論、所有權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第二編第一章至同第三章）
同	同	二	家督相續ニ關スル法制ニ同旨トス	及相續原因ニ就キ說明スルヲ主旨トス	債權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）
同	同	二	物權總論ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第二編第一章至同第三章）	契約ノ成立、效力及解除ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）	
同	同	二	債權ノ消滅ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ同旨トス（自民法第三編第一章第一節）	「英國契約法ノ原理」併セテ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第一章第一節至同第三節）	
同	同	二	債權ノ譲渡及使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第三章第三節至第十節）英國法學科ニ於テハ別ニテ英國契約法ヲ教授ス		
第二年級前期	毎週授業時間 二	法律ニ關スル一般ノ觀念ヲ授ケ且ツ本邦現行法ニ依リ一定ノ教科書ニ依ラスシテアルヘカラサル旨ヲ說ク（授論ノ部）英語法學科ニ於テハ別ニテ穗積氏法律原論ヲ教授ス	民法總論親族法相續法第一部第二部第一部	物權法物權法第一部第二部	債權法第二部
同	同	二	私權ノ主體、私權ノ物體、人、戶主、續柄、財產論、占有法律行爲期間等ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第一編第一章至同第五章）	親族關係、相續ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス	總論、所有權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）
同	同	二	家督相續ニ關スル法制ニ同旨トス	及相續原因ニ就キ說明スルヲ主旨トス	債權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）
同	同	二	物權總論ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）	契約ノ成立、效力及解除ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）	
同	同	二	債權ノ消滅ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ同旨トス（自民法第三編第一章第一節）	「英國契約法ノ原理」併セテ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第一章第一節至同第三節）	
同	同	二	債權ノ譲渡及使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第三章第三節至第十節）英國法學科ニ於テハ別ニテ英國契約法ヲ教授ス		
第三年級前期	毎週授業時間 二	法律ニ關スル一般ノ觀念ヲ授ケ且ツ本邦現行法ニ依リ一定ノ教科書ニ依ラスシテアルヘカラサル旨ヲ說ク（授論ノ部）英語法學科ニ於テハ別ニテ穗積氏法律原論ヲ教授ス	民法總論親族法相續法第一部第二部第一部	物權法物權法第一部第二部	債權法第二部
同	同	二	私權ノ主體、私權ノ物體、人、戶主、續柄、財產論、占有法律行爲期間等ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第一編第一章至同第五章）	親族關係、相續ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス	總論、所有權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）
同	同	二	家督相續ニ關スル法制ニ同旨トス	及相續原因ニ就キ說明スルヲ主旨トス	債權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）
同	同	二	物權總論ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）	契約ノ成立、效力及解除ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）	
同	同	二	債權ノ消滅ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ同旨トス（自民法第三編第一章第一節）	「英國契約法ノ原理」併セテ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第一章第一節至同第三節）	
同	同	二	債權ノ譲渡及使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第三章第三節至第十節）英國法學科ニ於テハ別ニテ英國契約法ヲ教授ス		
第三年級前期	毎週授業時間 二	法律ニ關スル一般ノ觀念ヲ授ケ且ツ本邦現行法ニ依リ一定ノ教科書ニ依ラスシテアルヘカラサル旨ヲ說ク（授論ノ部）英語法學科ニ於テハ別ニテ穗積氏法律原論ヲ教授ス	民法總論親族法相續法第一部第二部第一部	物權法物權法第一部第二部	債權法第二部
同	同	二	私權ノ主體、私權ノ物體、人、戶主、續柄、財產論、占有法律行爲期間等ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第一編第一章至同第五章）	親族關係、相續ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス	總論、所有權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）
同	同	二	家督相續ニ關スル法制ニ同旨トス	及相續原因ニ就キ說明スルヲ主旨トス	債權ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）
同	同	二	物權總論ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第二編第一章至同第三章）	契約ノ成立、效力及解除ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）	
同	同	二	債權ノ消滅ニ關スル一般ノ理論等ニ關スル法制ニ同旨トス（自民法第三編第一章第一節）	「英國契約法ノ原理」併セテ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第一章第一節至同第三節）	
同	同	二	債權ノ譲渡及使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第三章第三節至第十節）英國法學科ニ於テハ別ニテ英國契約法ヲ教授ス		

第一年後期	毎週授業時間	第二年前期	毎週授業時間	第二年後期	毎週授業時間	第三年前期	毎週授業時間	第三年後期	毎週授業時間
同	二	同	二	同	二	法例ニ關スル理論ニ就キ說明スルコトトス	一		
(各論ノ部) (總論ノ部) 英語法學科ニ於テハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス (自民法第一編第一章至同第三章) (自民法第一編第一章至同第五章) (自民法第二編第一章至同第三章) (自民法第二編第四章至同第六章) (自民法第二編第六章至同第八章) (自民法第三編第一章第一節至同章第十四節) (自民法第三編第二章第二節至同第三章第五節) (自民法第三編第五章第一節至同第七章) (民法第二編第九章及第十章) (自民法第三編第一章第一節至同第二章第一節) 「英國契約法」ノ原理ヲ併テ說明セテ英語法學科ニアハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス	二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 四	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

備考　英語法學科ニ於ケル英國法ノ授業時間ハ臨時之ヲ定ム

課程表 明治三十年八月改正

民法及商法 債權法第一部 債權法第二部	四	債權ニ契約ノ成立、効力及解除ニ就キ說明スルヲ主旨トス（民法第三編第二章第一節）「英國契約法ノ原理ヲ併セテ說明ス」（自民法第三編第一章第一節至同第三章第三節）英語法學科ニ於テハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス	四	ノ贈與、賣買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第三編第二章第二節至同章第十四節）英語法學科ニ於テハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス							
債權法第三部					二	事務管理、不當利得、不法行爲等ニ就キ說明スルヲ主旨トス（自民法第三編第三章至同第五章）「英國私犯法ノ原理ヲモ併セテ說明ス」英語法學科ニ於テハ別ニポロック氏英國私犯法ヲ教授ス	二	同右			
商法總論					二	商行爲、商人、商業帳簿、商財等ニ關スル一般ノ理論ヲ說明スルヲ主旨トス	二	商事契約ニ關スル一般ノ理論ヲ說明スルヲ主旨トス			
會社法					二	合名會社及合資會社ニ就キ說明スルヲ主旨トス「商業組合法モ併セテ說明ス」	二	株式會社ニ就キ說明スルヲ主旨トス			
手形法					二	手形ニ關スル一般ノ理論及各種ノ手形ニ就キ說明スルヲ主旨トス	二	同右			
海商法					二	船舶、船主、船長、船員、船舶債權者、運送契約、海損、船債等ニ就キ說明スルヲ主旨トス	二	海上保險ニ關スル一般ノ法制ニ就キ說明スルヲ主旨トス			
破產法									二	破產原理及破產ニ關スル一般ノ法制ニ就キ[illegible]主旨トス	
保險法									二	保險原理及各種ノ保險ニ關スル法制ニ就キ[illegible]主旨トス	
刑法	二	汎論	二	同右	二	各論	二	同右			
訴訟法	二	刑事訴訟法	二	同右	四	民事訴訟法（第一編）「民事訴訟法中ニ裁判所構成法ヲモ包含ス」	四	同右	四	同右（自第[illegible]至第五編）	同
國際法									二二	國際公法 英語法學科ニ於テハホール氏ノ著書ヲ用ユ 國際私法 フート氏ノ著書ヲ用ユ	同右
法理學					二	分析法理學 英語法學科ニ於テハホルランド氏ノ著書ヲ用ユ	二	同右	二	沿革法理學 英語法學科ニ於テ[illegible]著書ヲ用ユ	
擬律擬判					二二	擬律 擬判 訴訟 演習	二二	同右 同右	二二	同右	同右
國法學					二	憲法（帝國憲法及比較憲法）	二	同右	二	自治制原理（府縣制郡制市制町村制ヲ[illegible]主旨トス）	
									二	行政法（行政ニ關スル一般ノ理ヲ[illegible]主旨トス）	
論理學	二	形式的論理學及因明	二	歸納法	二		二				
經濟學					二	經濟學ニ關スル一般ノ理論ヲ說明スルヲ主旨トス	二	同右			
財政學									二	財政學ニ關スル理論ヲ說明ス	
羅馬法									二	羅馬法論	
證據法									二	證據法ニ關スル原理ヲ說明ス	
科外		（課目ハ隨時之ヲ選定ス）		同右		同右		同右		同右	

（民法第三編第二章第一節）英國契約法ノ原理ヲ併セテ説明ス 英語法學科ニ於テハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス	四
汎論	二
刑事訴訟法	二
形式的論理學及因明	二
（課日ハ隨時之ヲ選定ス）	

贈與、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解等ニ就キ説明スルヲ主旨トス（自民法第三編第二章第二節至同章第十四節）英語法學科ニ於テハ別ニアンソン氏英國契約法ヲ教授ス	四
同右	二
同右	二
歸納法	二
同右	

事務管理、不當利得、不法行爲等ニ就キ説明スルヲ主旨トス（自民法第三編第三章至同第五章）「英國私犯法ノ原理ヲモ併セテ説明ス」英語法學科ニ於テハ別ニポロック氏英國私犯法ヲ教授ス	二
商行爲、商人、商業帳簿、商財等ニ關スル一般ノ理論ヲ説明スルヲ主旨トス	二
合名會社及合資會社ニ就キ説明スルヲ主旨トス「商業組合法モ併セテ説明ス」	二
手形ニ關スル一般ノ理論及各種ノ手形ニ就キ説明スルヲ主旨トス	二
船舶、船主、船長、船員、船舶債權者、運送契約、海損、船債等ニ就キ説明スルヲ主旨トス	二
各論	二
民事訴訟法（第一編）「民事訴訟法中ニ裁判所構成法ヲモ包含ス」	四
分析法理學 英語法學科ニ於テハホランド氏ノ著書ヲ用ユ	二
擬律擬判 訴訟演習	二二
憲法（帝國憲法及比較憲法）	二
	二
經濟學ニ關スル一般ノ理論ヲ説明スルヲ主旨トス	二
同右	

同右	二
商事契約ニ關スル一般ノ理論ヲ説明スルヲ主旨トス	二
株式會社ニ就キ説明スルヲ主旨トス	二
同右	二
海上保險ニ關スル一般ノ法制ニ就キ説明スルヲ主旨トス	二
同右	二
同右	四
同右	二
同右 同右	二二
同右	二
	二
同右	二
同右	

破産原理及破産ニ關スル一般ノ法制ニ就[illegible]主旨トス	二
保險原理及各種ノ保險ニ關スル法制ニ就[illegible]主旨トス	二
同右（自第一編至第五編）	四
國際公法 英語法學科ニ於テハホール氏ノ著書ヲ用ユ 國際私法 [illegible]フート氏ノ著書ヲ用ユ	二二
沿革法理學 英語法學科ニ於テ[illegible]著書ヲ用ユ	二
同右	二二
自治制原理（縣制郡制市制町村制ヲ[illegible]主旨トス）	二
行政法（行政法ニ關スル一般ノ理論ヲ[illegible]旨トス）	二
財政學ニ關スル理論ヲ説明ス	二
羅馬法論	二
證據法ニ關スル原理ヲ説明ス	二
同右	

同右	二
同右	二
同右（自第六編至第八編）	四
同右 同右	二二
同右	二
同右 同右	二二
同右	二
同右	
	[illegible]
同右	二
同右	二
同右	二
同右	

東京專門學校法學部課程表

明治三十年八月改正

第一年

法律科課程

課目	前期	後期
憲法	日本憲法	日本憲法
法學通論	法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要	法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
民法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法
行政法		
商法		
刑法	刑法汎論	刑法汎論
訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編）	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編）
破產法	破產法	破產法
裁判所構成法	裁判所構成法（諸外國法對照說明）	裁判所構成法（諸外國法對照說明）
法例	法例	法例
國際法	國際公法（平時）	國際公法（平時）
國法學	國法學（國法原理、國法學比較憲法）	國法學（國法原理、國法學比較憲法）
羅馬法	羅馬法	羅馬法
哲學	論理學（形式的論理學）	論理學（歸納法）
擬律擬判	擬律擬判訴訟演習	擬律擬判訴訟演習
論文	論文演習	論文演習
英語及參考課	英語（三年ヲ通ジテ邦語政治科ニ同ジ） 全上	

第二年

法律科課程

課目	前期	後期
憲法		
法學通論	法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要	法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
民法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法
行政法		
商法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則） 會社法（會社通則、各種會社組合ノ法規及其法理） 商事契約（互計算、代理、賣買、交屋、運送、組合、仲立、寄託） 保險法（通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他）	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則） 會社法（會社通則、各種會社組合ノ法規及其法理） 商事契約（互計算、代理、賣買、交屋、運送、組合、仲立、寄託） 保險法（通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他） 海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理） 商法施行法
刑法	刑法汎論	刑法汎論
訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法
破產法	破產法	破產法
裁判所構成法	裁判所構成法（諸外國法對照說明）	裁判所構成法（諸外國法對照說明）
法例	法例	法例
國際法	國際公法（平時） 國際私法	國際公法（平時） 國際私法
國法學	國法學（國法原理、國法學比較憲法）	國法學（國法原理、國法學比較憲法）
羅馬法	羅馬法	羅馬法
哲學	論理學（形式的論理學）	論理學（歸納法）
擬律擬判	擬律擬判訴訟演習	擬律擬判訴訟演習
論文	論文演習	論文演習
英語及參考課	英語（三年ヲ通ジテ邦語政治科ニ同ジ） 全上	

第一年

行政科課程

課目	前期	後期
憲法	日本憲法	日本憲法
法學通論	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）
民法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法（新民法第二編） 相續法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法（新民法第二編） 相續法
行政法		
商法		
刑法	刑法汎論	刑法汎論
訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法
破產法	破產法	破產法
裁判所構成法	裁判所構成法（諸外國法對照說明）	裁判所構成法（諸外國法對照說明）
法例	法例	法例
國際法	國際公法（平時） 國際私法	國際公法（平時） 國際私法
國法學	國法學（國法原理、國法學比較憲法）	國法學（國法原理、國法學比較憲法）

第二年

行政科課程

課目	前期	後期
憲法	日本憲法	日本憲法
法學通論	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）
民法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法	民法總則（新民法第一編） 物權法（新民法第二編） 親族法 相續法
行政法		
商法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則） 會社法（會社通則、各種會社組合ノ法規及其法理） 商事契約（互計算、代理、賣買、交屋、運送、組合、仲立、寄託） 保險法（通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他） 民法施行法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則） 會社法（會社通則、各種會社組合ノ法規及其法理） 商事契約（互計算、代理、賣買、交屋、運送、組合、仲立、寄託） 保險法（通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他） 海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理） 商法施行法
刑法	刑法汎論	刑法汎論
訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法	刑法各論 民事訴訟法（第一編乃至第四編） 刑事訴訟法
破產法	破產法	破產法
裁判所構成法	裁判所構成法（諸外國法對照說明）	裁判所構成法（諸外國法對照說明）
法例	法例	法例
國際法	國際公法（平時） 國際私法	國際公法（平時） 國際私法
國法學	國法學（國法原理、國法學比較憲法）	國法學（國法原理、國法學比較憲法）

律科課程

課目	民法	商法	刑法	訴訟法	破産法	裁判所構成法	法例	國際法	國法學	羅馬法	哲學	擬律擬判	論文	英語及參考課
第一年前期	民法總則（新民法第一編）物權法（新民法第二編）親族法 相續法		刑法汎論			裁判所構成法（諸外國法對照説明）				羅馬法			論文演習	英語（三年ヲ通シテ邦語政治科ニ同ジ）
第一年後期	民法總則（新民法第一編）物權法（新民法第二編）親族法 相續法		刑法汎論			裁判所構成法（諸外國法對照説明）				羅馬法			論文演習	仝上
第二年前期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）民法施行法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則）會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）	刑法各論	刑事訴訟法 民事訴訟法（第一編乃至第四編）			法例		國法學（國法原理比較憲法）		論理學（形式的論理學因明）	擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第二年後期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）民法施行法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則）會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）	刑法各論	刑事訴訟法 民事訴訟法（第一編乃至第四編）			法例		國法學（國法原理比較憲法）		論理學（歸納法）	擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第三年前期	債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）	手形法（通則、爲替手形、約束手形、小切手）海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）商法施行法		民事訴訟法（第五編乃至第八編）	破産法			國際公法（平時）國際私法				擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）

行政科課程

課目	法學通論	憲法	行政法	民法	商法	刑法	訴訟法	破産法	裁判所構成法	法例	國際法	國法學	經濟學財政學	哲學	擬律擬判	論文	英語及參考課	特別課
第一年前期	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）	日本憲法		民法總則（新民法第一編）物權法（新民法第二編）親族法 相續法		刑法汎論			裁判所構成法（諸外國法對照説明）				經濟原論			論文演習	英語（三年ヲ通シテ邦語政治科ニ同ジ）	
第一年後期	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）	日本憲法		民法總則（新民法第一編）物權法（新民法第二編）親族法 相續法		刑法汎論			裁判所構成法（諸外國法對照説明）				經濟原論			論文演習	仝上	
第二年前期				債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）民法施行法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則）會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）	刑法各論	刑事訴訟法 民事訴訟法（第一編乃至第四編）			法例		國法學（國法原理比較憲法）	財政論（總論、歳出論、租税論）	論理學（形式的論理學因明）	擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）	
第二年後期				債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）民法施行法	商法總則（商事、商行爲及商人ニ關スル通則）會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）	刑法各論	刑事訴訟法 民事訴訟法（第一編乃至第四編）			法例		國法學（國法原理比較憲法）	財政論（租税論）	論理學（歸納法）	擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）	
第三年前期			行政法	債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）	手形法（通則、爲替手形、約束手形、小切手）海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）商法施行法		民事訴訟法（第五編乃至第八編）	破産法			國際公法（平時）國際私法		財政論（公債論）		擬律擬判訴訟演習		外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）	

東京專門學校法學部課程表

明治三十年八月改正

第一年

前期

- 法學通論
  - 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
- 日本憲法

後期

- 法學通論
  - 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
- 日本憲法

第二年

前期

- 民法總則
  - 新民法第一編
- 權利
  - 新民法第二編 物權法
- 親族法
  - 新民法第二編 親族法
- 繼續法
  - 相續法

後期

- 民法總則
  - 新民法第一編
- 權利
  - 新民法第二編 物權法
- 親族法
  - 新民法第二編 親族法
- 繼續法
  - 相續法

第三年

前期

- 汎論
- 刑法汎論
- 刑法各論
  - 商法總則
    - 商事、商行爲及商人ニ關スル通則
  - 會社法
    - 會社組合ノ各種通則及其法理
  - 商事契約
    - 賣買、交換、互計算、代理、仲立、問屋、運送、寄託、組合、通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他
  - 保險法
- 民法施行法
- 債權法
  - 新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章
- 民法施行法

後期

- 刑法汎論
- 刑法各論
  - 商法總則
    - 商事、商行爲及商人ニ關スル通則
  - 會社法
    - 會社組合ノ各種通則及其法理
  - 商事契約
    - 賣買、交換、互計算、代理、仲立、問屋、運送、寄託、組合、通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他
  - 保險法
- 民法施行法
- 債權法
  - 新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章
- 民法施行法

第四年

前期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

後期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

第五年

前期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第五編乃至第八編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

後期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第五編乃至第八編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

第一年

前期

- 法學通論
  - 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
- 日本憲法

後期

- 法學通論
  - 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要
- 日本憲法

第二年

前期

- 民法總則
  - 新民法第一編
- 權利
  - 新民法第二編 物權法
- 親族法
  - 新民法第二編 親族法
- 繼續法
  - 相續法

後期

- 民法總則
  - 新民法第一編
- 權利
  - 新民法第二編 物權法
- 親族法
  - 新民法第二編 親族法
- 繼續法
  - 相續法

第三年

前期

- 汎論
- 刑法汎論
- 刑法各論
  - 商法總則
    - 商事、商行爲及商人ニ關スル通則
  - 會社法
    - 會社組合ノ各種通則及其法理
  - 商事契約
    - 賣買、交換、互計算、代理、仲立、問屋、運送、寄託、組合、通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他
  - 保險法
- 民法施行法
- 債權法
  - 新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章
- 民法施行法

後期

- 刑法汎論
- 刑法各論
  - 商法總則
    - 商事、商行爲及商人ニ關スル通則
  - 會社法
    - 會社組合ノ各種通則及其法理
  - 商事契約
    - 賣買、交換、互計算、代理、仲立、問屋、運送、寄託、組合、通則、運送保險、火災保險、海上保險、生命保險其他
  - 保險法
- 民法施行法
- 債權法
  - 新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章
- 民法施行法

第四年

前期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

後期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第五編乃至第八編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

第五年

前期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第五編乃至第八編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

後期

- 刑事訴訟法
  - 第一編乃至第四編
- 民事訴訟法
  - 第五編乃至第八編
- 破產法
- 國際公法
- 國際私法
- 行政法

學年	學期	學科目
第一年	前期	[illegible]（[illegible]觀念ノ大要）・日本憲法・民法總則（新民法第一編）・物權法（新民法第二編）・親族法・相續法・刑法汎論・裁判所構成法（諸外國法對照說明）・羅馬法・論文演習・英語（三年ヲ通シテ邦語政治科ニ同ジ）
第一年	後期	[illegible]（[illegible]觀念ノ大要）・日本憲法・民法總則（新民法第一編）・物權法（新民法第二編）・親族法・相續法・刑法汎論・裁判所構成法（諸外國法對照說明）・羅馬法・論文演習・仝上
第二年	前期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）・民法施行法・商法總則（商事、商行為及商人ニ關スル通則）・會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）・商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）・保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）・刑法各論・刑事訴訟法・民事訴訟法（第一編乃至第四編）・法例・國法學（國法原理比較憲法）・論理學（形式的論理學因明）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第二年	後期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）・民法施行法・商法總則（商事、商行為及商人ニ關スル通則）・會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）・商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）・保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）・刑法各論・刑事訴訟法・民事訴訟法（第一編乃至第四編）・法例・國法學（國法原理比較憲法）・論理學（歸納法）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第三年	前期	行政法・債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）・手形法（通則、為替手形、約束手形、小切手）・海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）・商法施行法・民事訴訟法（第五編乃至第八編）・破產法・國際公法（平時）・國際私法・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第三年	後期	行政法・債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）・手形法（通則、為替手形、約束手形、小手形）・海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）・商法施行法・民事訴訟法（第五編乃至第八編）・破產法・國際公法（戰時）・國際私法・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）

學年	學期	學科目
第一年	前期	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）・日本憲法・民法總則（新民法第一編）・物權法（新民法第二編）・親族法・相續法・刑法汎論・裁判所構成法（諸外國法對照說明）・經濟原論・論文演習・英語（三年ヲ通シテ邦語政治科ニ同ジ）
第一年	後期	法學通論（法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律、權利、義務等ノ觀念ノ大要）・日本憲法・民法總則（新民法第一編）・物權法（新民法第二編）・親族法・相續法・刑法汎論・裁判所構成法（諸外國法對照說明）・經濟原論・論文演習・仝上
第二年	前期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）・民法施行法・商法總則（商事、商行為及商人ニ關スル通則）・商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）・會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）・保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）・刑法各論・刑事訴訟法・民事訴訟法（第一編乃至第四編）・法例・國法學（國法原理比較憲法）・財政論（總論、歳出論、租税論）・論理學（形式的論理學因明）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第二年	後期	債權法（新民法第三編第一章及第二章第一節第三章及第四章）・民法施行法・商法總則（商事、商行為及商人ニ關スル通則）・商事契約（通則、賣買、交互計算、代理、組合、仲立、問屋、運送、寄託）・會社法（會社通則各種會社組合ノ法規及其法理）・保險法（通則、火災保險、運送保險、海上保險、生命保險其他）・刑法各論・刑事訴訟法・民事訴訟法（第一編乃至第四編）・法例・國法學（國法原理比較憲法）・財政論（租税論）・論理學（歸納法）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第三年	前期	行政法・債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）・手形法（通則、為替手形、約束手形、小切手）・海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）・商法施行法・民事訴訟法（第五編乃至第八編）・破產法・國際公法（平時）・國際私法・財政論（公債論）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）
第三年	後期	行政法・債權法（新民法第三編第二章第二節乃至第十四節）・手形法（通則、為替手形、約束手形、小切手）・海商法（海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）・商法施行法・民事訴訟法（第五編乃至第八編）・破產法・國際公法（戰時）・國際私法・財政論（公債、會計豫算論）・擬律擬判 訴訟演習・外國法（修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ撰擇ス）

慶應義塾大學部課程表（明治三十年八月改正）

	學年	第一年	每週時間	第二年	每週時間	第三年	每週時間
法律	民法	民法	四	民法	四		
	商法			商法	二	商法	二
	民事訴訟法			民事訴訟法	二		
	刑事訴訟法			刑事訴訟法	二		
	刑法			刑法	二		
	憲法					憲法	一
	行政法					行政法	一
	國際公法					國際公法	二

科目	第一學年	第二學年	第三學年
國際私法			國際私法 一
英普通法	英普通法 四		
英私犯法	英私犯法 五		
英證據法	英證據法 五		
英衡平法		英衡平法 二	
羅馬法		羅馬法 三	
法理學			法理學 三
經濟學原理	經濟學原理 五		
外國語	羅甸語 二	佛語 三	獨語 三
訴訟法實地演習		訴訟法實地演習 二	訴訟法實地演習 二
日本刑法			
日本商法			

明治法律學校課程表　明治三十年八月改正

科目 ＼ 學年學期	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期	第三學年 第一學期	第三學年 第二學期
憲法	第一章及ヒ第二章 二	自第三章至第七章 二				
民事訴訟法						
刑事訴訟法						
民法						
憲法						
行政法						
訴訟法實地演習						

學科目	第一年級	教授時間	第二年級	教授時間	第三年級	教授時間
法學通論	法學通論	一	法學通論	一		
法例	法例	一	法例	一		
民法	總則自第一章至第三章 物權第一章 親族篇第二章	五	總則自第四章至第六章 物權自第三章至第七章 親族篇	五	物權第八章 債權第一章	三
商法					總則及自第一編第一章至第六章	三
裁判所構成法					裁判所構成法	一
民事訴訟法					第一編第一章	二
刑法	自第一編第一章至第四章	二	自第一編第五章至第十章	二	自第二編第一章至第九章	二
刑事訴訟法	自第一編至第三編	二	自第四編至第八編	二		
行政法					總論	二
國際公法					各論	二
國際私法					國際公法	二

日本法律學校課程表

明治三十年七月改正

學科目	第一年級	教授時間	第二年級	教授時間	第三年級	教授時間
民	總則編	三				
	物權編	四	物權編	二		
	債權編	五	債權編	三		
國際私法					國際私法	二
國際私法					國際私法	二
法理學			法理學	二		
法理學			法理學	二		
經濟學	經濟原論	二	銀行論 貨幣論	二		
經濟學應用經濟學	經濟學史	二	外國貿易論	二		
財政學					歲出入總論 租稅論	二
					公債論 歲計豫算論	二
擬律擬判					擬律擬判訴訟演習	二
					擬律擬判訴訟演習	二

法	親族法	二									
	相續法	二									
商法	總則編	三									
	商事契約	二	會社法	二							
	保險法	二									
	手形法	二									
	海商法	二									
	破產法	二									
刑法	刑事訴訟法	四									
訴訟法	刑事訴訟法	三	民事訴訟法	六	民事訴訟法	二					
擬律擬判			裁判所構成法								
			擬律擬判	二	擬律擬判	二					

和佛法律學校課程表

明治三十年八月改正

學科＼學級	第一級年		第二年級		第三年級	
	每週時數		每週時數		每週時數	
法學通論	一	教授日數二百四十八日間 教授時數九百九十三時間 民法、商法、刑法、民事、刑事訴訟法、行政法、國際法等大意		教授日數二百四十八日間 教授時數千六十六時間		教授日數二百四十八日間 教授時數九百五十一時間
民法	二	人事編			四	證據編 取得編第十三章以下
國際法						
國際公法	二	國際私法	二			
國法學		憲法	二	行政法	二	
經濟學	理財學	二	財政學	二		

新民法	佛國民法（佛語科）	商法	刑法	民事訴訟法	刑事訴訟法	憲法	行政法
五	三		四			二	
第一編 第二編	法例編 人事編 財產編		總論 新論				
四	三	四	四	四	二		
第三編	相續編 贈與編 義務編	第一編	各論	第一編 第二編			
四	三	二		二			
第三編	財產取得編 債權擔保編 時效編	第二編 第三編		第三編以下			

國際法	法理學（佛語科）	理財學	財政學	擬律擬判	體操	計
一	二	三			一	二十四
平時公法					普通體操	
一	二		二	一	一	二十六
戰時公法					兵式體操	
二	二			一	一	二十
私法					兵式體操	

專修學校法律科課程表

科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
法學通論	法學通論		
法例	法例	第一編（第六章迄）	第一編（第六章以下）
商法		第一編（第六章迄）	第一編（第六章以下）
			第二編（海商）
			第三編（破產）
民法	人事編	債權編	
	總則編	證據編	
	物權編		
裁判所構成法	裁判所構成法		

訴訟法	刑事訴訟法（三編迄）	第四編以下	第三編以下
憲法		帝國憲法	
行政法		行政法	
刑法	第一編	第二編以下	
法理學			法理學
政治學			政治學
國際法		公法	私法
私犯法	私犯法		
擬律擬判		擬律擬判	

獨逸學協會學校專修科課程表（略之）

學科目	第一年級	第二年級	第三年級

◉法科大學以下三十一年度　授業科目ト其受持教師

◎法科大學

教授及教師（氏名ハ就職ノ順）

法理學講座擔任　ドクトル、アンドロアー（リガン大學）法學博士　穂積陳重

法學博士文學士　穂積八束

法學博士法學士　宮崎道三郎

法學博士文學士　和田垣謙三

法學博士文學士　金井延

法學博士法學士　土方寧

法學博士文學士　梅謙次郎

法學博士法學士　一木喜德郎

法學博士法學士　戸水寛人

法律學士　寺尾亨

經濟學、財政學第一講座擔任　パツチエロル、オフ、アーツ（エール大學）カウンセロル、アト、ロウ（米國）

英吉利法　ヘンリー、チー、テリー

法制史、比較法制史講座擔任　ドクトル、アン、ドロアー（リガン大學）法學博士法律學士

民法第二講座擔任　ドクトル、ユーリス（ハイデルベルヒ大學）ドクトル、ケーニグリッヘル、ゼクシッシエル、ランドゲリヒツラート（獨國）

獨逸法　エル、エス、レーンホルム

經濟學、財政學第二講座擔任　パリストル、アト、ロウ（ミッドルテムプル）

民法第三講座擔任　法學博士文學士　金井延

英吉利法第二講座兼擔　法學博士法學士　土方寧

佛蘭西法　ドクトル、アンドロアー（アルノーブル大學）ドクトル、エス、レットル（パリー大學）（佛國）　ミシエル、ルヴオン

憲法、國法學第一講座擔任　法學士　一木喜德郎

行政法講座分擔　法學士　戸水寛人

羅馬法講座擔任　パリストル、アト、ロウ（ミッドル、テムプル）

國際法講座擔任　法律學士　寺尾亨

憲法、國法學第二講座擔任

行政法講座分擔

各校授業科目ト其受持講師

商法講座擔任　法學士　岡野敬次郎

經濟學、財政學　バッチエロル、ガフ、アーツ、マストル、オフ、アーツ（ケムブリッチ大學）（英國）　エルチスト、フォクスウエル

統計學講座擔任　法・學士　松崎藏之助

講師

銀行論、貨幣論　バッチエロル、ガフ、アーツ（エール大學）　法學博士　田尻稻次郎

政治學、政治史講座ニ屬スル職務分擔　ドクトル、フィロソフィエー（ハイデルベルヒ大學）　文學士　木塲貞長

民事訴訟法講座ニ屬スル職務擔任　法律學士　河村讓三郎

刑法、刑事訴訟法講座ニ屬スル職務擔任　法律學士　前田孝階

民法第一講座ニ屬スル職務擔任　法律學士　松室致

授業囑托

佛蘭西法　法學士　水町袈裟六

法學士　勝本勘三郎

◎東京法學院

講師（氏名ハイロハ順）

民法總論及同債權第一部　法學士　伊藤悌治

刑事訴訟法　法學士　石渡敏一

民事訴訟法第六編以下　講師　今村信行

國際私法　法學士　入江良之

民法債權第二部、保險法及英契約法、擬律擬判　法學士　馬塲愿治

商法總論及民法債權第二部　法學士　原嘉道

民法物權編第一部、擬律擬判、英私犯法及法理學　法學士　羽生顯親

憲法及行政法　法學博士文學士　穗積八束

羅馬法　法學士　戸水寛人

論理學　文學士　渡邊又次郎

刑法各論　法學士　勝本勘三郎

經濟學	法學博士文學士　金井延
民法物權編第二部	法學士　加納友之介
財政學	法學士　高野岩三郎
國際公法	法學士　立作太郎
民法債權第三部	法學士　中山成太郎
手形法	法學士ハリストル　植村俊平
親族法	法學士　奥田義人
相續法	法學士　太田資時
破產法	米國法學博士　小澤政許
商法總則	法學士　岡野敬次郎
民事訴訟法第一編乃至第五編	法律學士　前田孝階
國際公法（原書科）	法學士　藤田隆三郎
刑法汎論	法律學士　古賀廉造

訴訟演習	講師　寺島直
國際私法	法律學士　寺尾亨
海商法	法學士　朝倉外茂鐵
擬律擬判	法學博士　菊池武夫
國際公法	法學士　三崎龜之助
法律原論（原書科）	法學士　平山銓太郎
時効法	法學士　平岡定太郎
法學通論及證據法	法學士　肥田平次郎

◎東京專門學校法學部

法律科及行政科受持講師（氏名ハイロハ順）

財政論	法學士　井上辰九郎
民事訴訟法及民事訴訟演習	講師　今村信行

各校授業科目ト其受持講師

刑事訴訟法及刑事訴訟演習　法學士　石渡敏一
裁判所構成法　法學博士　鳩山和夫
海商法及會社法　法學士　原嘉道
債權法　法學士　羽生顯親
相續法　法學士　濱田道紀
議院法及選擧法　法學士　林田龜太郎
民事訴訟法　ドクトル、イユリース（ゲッチンゲン大學）　本多康直
法例　法學博士　穗積陳重
羅馬法　法學士　戸水寛人
行政法　法學士　織田一
監獄學　講師　小川滋二郎
刑法各論　法學士　勝本勘三郎
憲法　文學士　高田早稻

憲法　法學士　副島義一
銀行論　文學士　土子金四郎
國際私法　ドクトル、イユリース　野澤武之助
商事契約　法學士　岡村司
論理學　文學士　大西祝
物權法　法學士　奥田義人
アンソン契約法　米國法學博士　小澤政許
親族法　法學士　牧野菊之助
租稅論　法學士　松崎藏之助
刑法汎論及各論　法律學士　古賀廉造
保險法　法學士　粟津清亮
國際公法及國法學　文學士　有賀長雄
經濟原論、歲計豫算論、公債論　文學士　天野爲之

各校授業科目ト其受持講師

論文演習　講師　菊池三九郎
商法總則及手形法　法學士　志田鉀太郎
債權法　法學士　平田讓衛
民法總則　法學士　瀨田忠三郎
裁判所構成法、債權法、物權法　法學士　鈴木喜三郎
破產法　法學士　鈴木宗言
羅馬法、擬律擬判　ドクトル、オブ、ロー　杉田金之助

◎慶應義塾大學部

法律科受持講師

（氏名ハ就職ノ順）

英寶貿法、英私犯法、英衡平法、英手形法、英財產法　（米國）　テリー
英契約法、英會社法、英海商法　法學博士　土方寧
經濟原理　（米國）　ドロッパース
羅甸語　（英國）　ロイド
佛蘭西語　（英國）　アーノルト
獨逸語　（獨國）　エーマンソ
刑事訴訟法及訴訟法實地演習　法學士　石渡敏一
國法學　法學士　織田一
民事訴訟法　ドクトル、イユリース　本多康直
民事訴訟法　講師　深野達
民法第三編　法學士　榊原幾久若
民法總則　法律學士　前田孝階
民法債權　法律學士　小宮三保松
商法及訴訟法實地演習　法律學士　富谷鉎太郎

國際私法	法律學士　古賀廉造
國際公法	佛國法律博士　神藤才一
時効法	法學士　木下友三郎

◎明治法律學校（氏名ハイロハ順）

民法物權一章以下七章迄	法學博士 米國法律博士　井上正一
相續法及民事擬律、訴訟演習	法學士　板垣不二男
民事訴訟法六、七、八編	講師　今村信行
刑事擬律	法律學士　岩野新平
保險法及手形法	法律學士　富谷鉎太郎
經濟學	法學博士　金井延
親族法	法學士　柿原武熊
刑法總論	法律學士　龜山貞義

刑法各論	法學士　勝本勘三郎
訴訟演習	法律學士　高木豐三
債權一章	法學士　田代律雄
憲法	法學士　副島義一
國際私法	ドクトル、イユリース　野澤武之助
法學通論	法學士　岡村司
刑事訴訟法	法律學士　松室致
民事訴訟法第一編乃至第五編	法律學士　前田孝階
破產法	法學士　松岡義正
債權二章四節迄	法律學士　小宮三保松
財政學	講師　小池靖一
經濟學	法學士　有賀長文
法例及民法總則	法學士　柳原幾久若

商法（第一編乃至第三編九章）	法律學士	岸本辰雄
民法物權第八章以下	法律學士	木下哲三郎
行政法	法學士	木下友三郎
海商法	法學士	志田鉀太郎
國際公法	佛國法律博士	神藤才一
債權二章五節以下	法學士	兩角彦六

◎日本法律學校（氏名ハイロハ順）

刑法及擬律擬判	法學士	石渡敏一
民事訴訟法	講師	今村信行
民事訴訟法	ドクトル	本多康直
憲法及行政法	法學博士	穗積八束
刑事訴訟法	講師	藤堂融

刑事訴訟法	法學士	豐島直道
民法	法學士	戸水寛人
商法	法學士	加藤正治
刑法及擬律擬判	法學士	勝本勘三郎
商法	法學士	玉木爲三郎
憲法及行政法	法學士	副島義一
民法	法學士	塚田達二郎
民法	法學士	中山成太郎
國際公法	法學士	倉知鐵吉
國際私法	講師	山口弘一
財政學及經濟學	法學士	松崎藏之助
商法	法學士	松岡義正
經濟學	法學士	小林丑三郎

擬律擬判　講師　寺島直
民法　法學士　淺見倫太郎
民事訴訟法　法學士　齋藤十一郎
民法　法學士　宮田四八
商法　法學士　志田鉀太郎

◎和佛法律學校（氏名ハイロハ順）

擬律擬判及訴訟演習　法律學士　飯田宏作
相續法　法學士　濱田道記
手形法　法律學士　富谷鉎太郎
民事訴訟法二編以下　法學士　豐島直道
戰時國際公法　佛國法律博士（佛國）　ルヴオン
民法三編第二章四節迄　法學士　若槻禮次郎
親族編　法學士　柿原武熊
商法一編七章以下　法學士　加藤正治
刑法各論　法學士　勝本勘三郎
經濟學　法學博士　金井延
保險法　法學士　玉木爲三郎
財政學　法學士　高野岩三郎
憲法　法學士　副島義一
民法一編第三章迄　法學士　塚田達二郎
民法二編六章迄　法學博士　梅謙次郎
法學通論　法學士　岡村司
國際公法　講師　山口弘一
民法總則　法律學士　松室致
民事訴訟法第一編ヨリ五編マテ　法律學士　前田孝階

民法二編七章以下	法律學士　小宮三保松
刑法新論	法律學士　古賀廉造
國際私法	法律學士　寺尾亨
民法一編四章以下	法學士　荒井賢太郎
民事訴訟法六編以下	法學士　齋藤十一郎
行政法	法學士　木下友三郎
民法三編第一章	法學士　水町袈裟六
商法一編六章迄	法學士　志田鉀太郎
民法三編第二章五節以下	法學士　兩角彦六
破産法	法學士　鈴木宗吉

◉法科大學教授以下各學校講師姓名（イロハ順　△ハ不在）

●法科大學

法學士　一木喜德郎	法律學士　河村讓三郎
法學博士　穗積陳重	ドクトル、エーリス（獨國）
法學博士　穗積八束	法學博士　田尻稻次郎
文學博士　ヘンリー、チーデリー、バチエロル、オフ、アーツ（米國）	法學博士　梅謙次郎
法學博士　戸水寛人	文學士　木場貞長
法學士　富井政章	法學博士　岡野敬次郎
法學博士　和田垣謙三	法學士　松崎蔵之助
法學博士　金井延	法學博士　宮崎道三郎
法律學士　勝本勘三郎	法學士　水町袈裟六
法學博士　松室致	ドクトル、エス、レツトル（佛國）
法學士　伊藤悌治	法學士　馬場愿治
講師　今村信行	法學博士　△仁井田益太郎
法學士　石渡敏一	法學士　△仁保龜松
法學士　△井原師義	法學博士　穗積陳重
法學士　入江頁之	法學士　羽生顯親
法學士　西川鐵次郎	法學士　戸水寛人

●東京法學院

法學士　奥田義人
法學士　△田島錦治
法學博士　機田一
法學士　高野岩三郎
法學士　江木衷
法學博士　岡村輝彦
法學士　立作太郎
法學士　師寺島直
パリストル　岡野敬次郎
法學士　坪井九馬三
法學士　寺尾亨
法學士　太田資時
文學博士　都筑馨六
法學士　朝倉外茂鐵
ドクトルイユーリス　岡本芳次郎
法學博士　中橋德五郎
法學士　彌菊池武夫
法學士　△岡松參太郎
法學士　中村元嘉
法學士　△厚清一
法學士　△岡田朝太郎
法學士　三崎龜之助
法學士　中山成太郎
法學士　斯波淳六郎
米國法學博士　小澤政許
法學士　清水市太郎
法學博士　和田垣謙三
パリストル　植村俊平
文學士　渡邊又次郎
法學士　倉富勇三郎
法學士　河村讓三郎
法學士　△窪田靜太郎
法學士　勝本勘三郎
法學博士　△志立鐵次郎
法學士　加納友之介
パリストル　工藤則勝
法學士　土方寧
法學博士　金井延
法學士　△楠正位
法學博士　高橋捨六
パリストル　山田喜之助
法學士　肥田平次郎
法學士　△高橋健三
法學士　平山銓太郎
法學士　平岡定太郎
法學士　△高根義人
法學士　増島六一郎
法學士　樋山資之
法學士　前田孝階
法學士　元田肇
法學士　小松謙次郎
法學士　藤田隆三郎

●東京專門學校法學部（法律科 行政科）

法學士　△田中隆三
法學士　高橋捨六
法學士　石渡敏一
法學士　△高根義人
講師　今村信行
法學士　井上辰九郎
法學士　奥田義人
法學士　小河滋次郎
法學士　井上操
法學士　岡野敬次郎
法律學士　磯部四郎
法學士　砂川雄峻
法學士　大西祝
法學士　伊藤悌治
法學士　岡村司
法學士　△磯部醇
講師　應當鑑
法學士　中村菊之助
獨乙法學博士　△巖谷孫藏
法學士　太田資時
法學士　石原健三
講師　中橋德五郎
法學士　岡崎正也
法學士　△石井菊次郎
米國パチロル、カブ、ロオー　中村忠雄
法學士　坂垣不二男
法學士　△岡松參太郎
法學士　丙田定槌
法學博士　鳩山和夫
法學士　織田萬
講師　和田正修
法學士　植村俊平
法學士　原嘉道
法學博士　梅謙次郎
講師　川橋陞次郎
法學士　山田喜之助
法學士　羽生顯親
法學士　△掛下重次郎
法學士　馬場愚治
法學士　神崎東藏
法學士　△山田三郎
法學士　春木一郎
法學士　松室致
法學士　△仁保龜松
法學士　日瀧
講師　侯野時中
法學士　△加藤高明
法學士　松岡郁之進
法學博士　穩積陳重
米國パチロル、カブ、ロオー　△神屋三郎
法學士　藤田四郎
文學士　本多康直
法學士　高田早苗
講師　堀田正忠
講師　兒島惟謙
法學士　△田中隆三
法學士　古賀廉造

法學士　戸水寛人
法學士　高橋捨六
法學士　奥田義人
法學士　△高根義人
米國パチロル、カブ、ロオー　田中甲子次郎
法學士　岡野敬次郎
法律學士　田代律雄
法學士　織田一
法學士　副島義一
文學士　大西祝
土子金四郎
法學士　伊藤悌治
法學士　岡村司
法學士　中山成太郎
法學士　應當鑑
法學士　中村菊之助
講師　太田資時
米國パチロル、カブ、ロオー　中橋德五郎
法學士　岡崎正也
法學士　中村忠雄
法學士　△岡松參太郎
法學士　丙田定槌
法學士　織田萬
法學士　植村俊平
法學博士　梅謙次郎
法學士　和田正修
法學士　山田喜之助
法學士　△掛下重次郎
法學士　△山田三郎
法學士　神崎東藏
法學士　松室致
法學士　日瀧
講師　侯野時中
法學士　△加藤高明
法學士　松岡郁之進
法學士　△神屋三郎
法學士　藤田四郎
講師　高田早苗
講師　兒島惟謙
法學士　△田中隆三
法學士　古賀廉造